

平成 21 年 3 月 24 日

シーニックバイウェイ北海道推進協議会
会長 高向 巖 殿

シーニックバイウェイ北海道
ルート審査委員会 委員長
小林 英嗣

シーニックバイウェイ北海道の推進に関する意見について

シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十一条第四項に基づき、
下記の通り意見を提出する。

記

シーニックバイウェイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、改善の仕組みの強化、人材育成の充実に努めるとともに、あわせて、ルート活動の基盤や支援体制を強化することに取り組まれない。

シーニックバイウェイ北海道の基本方針である「競争力ある美しく個性
的な北海道」の実現にむけ、道内各地のルート活動による“美しい景観づ
くり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくり”の取組は、着実な
広がりを見せている。

一方、制度の本格運用後 5 年目を迎えたが、発足当時から経済・社会情
勢等が変化する中、シーニックバイウェイ北海道を持続的に推進し、一層
のブランド形成・活用を図っていくために、引き続き、ルート活動の地域
への浸透、改善の仕組みの強化、人材育成の充実に努めること。あわせて、
「シーニック・カフェ」等のブランドや地域資源・産業を活かしたコミュ
ニティ・ビジネスの展開等を通じてルート活動の基盤を強化すること。

また、推進協議会構成機関など関係機関は、その支援ツールを十分に活
かす等、積極的な参加・協力を行うこと、が期待される。

シーニックバイウェイ北海道

平成 20 年度 ルート運営活動報告

Scenic Byway Hokkaido 2008

平成 21 年 5 月 13 日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

【目 次】

・平成 20 年度 ルート運営活動報告

◆ 支笏洞爺ニセコルート活動報告	1
◆ 大雪・富良野ルート活動報告	20
◆ 東オホーツクシーニックバイウェイ活動報告	35
◆ 宗谷シーニックバイウェイ活動報告	46
◆ 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ活動報告	66
◆ 函館・大沼・噴火湾ルート活動報告	81
◆ 萌える天北オロロンルート活動報告	104

平成20年度 支笏洞爺ニセコルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 支笏洞爺二セコルート		報告者: 支笏洞爺二セコルート代表 泉谷 清						報告年月: 2009/3/31	
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観づくり	来訪者をもてなすウェルカムルートの創出	エリアインフォメーションシステムの検討	1	ルックルック調査隊	えにわ シーニックプロジェク ト	平成20年度	延べ 170名		おもてなしの心を持って、清掃活動や沿道を 彩る花植え活動などを行い、地域住民や行政 組織などと連携を図りながらエリアの景観づく りに取り組んだ。特に小学生との沿道におけ る花植え活動では、植栽作業だけではなく、 次年度につながる管理作業も実施できた。今 後は、現在の活動を継続し、エリアの特徴を 活かして様々な切り口からエリア景観の向上 を目指していく。
				道と川の駅「花ロード えにわ」パネル展示	えにわ シーニックプロジェク ト	平成19年度			
		エリアマップの作成		ウエルカム北海道エ リア裏街道53次	えにわシーニックプロジェク ト 社団法人 千歳青年会議所 支笏洞爺まちづくり機構NEOス テージ	平成19年度	10名		
	エリアのシンボルの羊蹄山を彩り美しく見せる	眺望ポイントの調査		実施せず	—	—	—		景観美化活動として植栽や清掃活動など、さまざまな取 り組みが行われており、活動を継続することで少しずつ 取組の幅が広がり、善意で手伝ってくれる人が増えてい る。また比較的行政機関との連携も積極的に図られて いる。今後も継続に向けて各種広報媒体を活用した活 動紹介・周知や活動周知に向けた行政への働きかけ、 事務局機能の強化等が必要である。
		神仙沼周辺の沿道の清掃活動	2	共和町神仙沼周辺 パノラマラインの清掃活動	共和町商工会青年部	平成20年6月24日、 平成20年10月2日	[6月]12名 [10月]7名		
		花と緑の植栽	3	綺麗街道沿道植栽	NPO法人ニセコマちづくり フォーラム	平成20年6月(2回)	120名		
			4	フラワーロードユリ植え	村づくり研究会	平成20年6月1日	100名		
			★5	花いっぱいサミットお出 迎えプロジェクト(喜茂別 町・留寿都村連携)	NPO法人きもべつWAO、 るすつWAO他	平成20年6月1日	150名		
	四季折々の表情を見せる田園景観を保全する	廃屋の撤去		羊蹄山麓広域景観づくりと 協働で検討	エリア全体	継続検討中	—		
		フォトコンテスト	6	きもべつフォトコンテスト '08	NPO法人きもべつWAO	平成20年7月1日～平 成20年8月31日			
	果樹園などの田園景観を整える	くだもの村の統一看板の設置		実施済み	—	—	—		シーニックバイウェイ北海道洞爺湖エリアにおいては、 地域活動団体を中心として沿道景観づくりの検討が進 められており、景観美化活動として植栽や清掃活動な ど、さまざまな取り組みが行われている。そして活動を 継続することで少しずつ取組の幅も広がってきている。 また比較的行政機関との連携も積極的に図られてい る。今後も継続に向けて各種広報媒体を活用した活動 紹介・周知や活動周知に向けた行政への働きかけ、事 務局機能の強化等が必要である。
		馬の歩く道景観づくり	7	ホーストレッキング	大滝レンジャーズ	平成20年度	—		
		花和地区の花壇整備		実施せず	洞爺湖温泉観光協会	—	—		
		よごさん(453)キャンペーンの実施	8	国道よごさん(453)キャン ペーンの実施	国道よごさんキャンペーン 実行委員会	平成20年9月6日	100名	S-3	
		花による沿道の演出	9	沿道美化活動	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協 会他	平成20年度	30名		
	花とみどりによる四季の感じられる景観形成	みどりのマイルストーン(道標)の整備		* 植栽・清掃活動が 主な活動となり、道標 についての取り組み は行われなかった。	えにわ シーニックプロジェク ト				おもてなしの心を持って、清掃活動や沿道を彩る花植え 活動などを行い、地域住民や行政組織などと連携を図 りながらエリアの景観づくりに取り組んだ。特に小学生 との沿道における花植え活動では、植栽作業だけでは なく、次年度につながる管理作業も実施できた。今後は、 現在の活動を継続し、エリアの特徴を活かして様々な切 り口からエリア景観の向上を目指していく。
			10	恵庭岳公園線植える カム花ロード	えにわ シーニックプロジェク ト	平成20年5月31日 (土)	150名		
		ウエルカムゲートの整備促進	11	ここからはじまる北海 道 千歳ウエルカム花 ロードver.6	社団法人 千歳青年会議所	春の植栽 平成20年5月20日 (火)			
			12	えにわいいとこどり紅 葉バスツアーによる 植樹体験	えにわ シーニックプロジェク ト	平成20年10月11日 (土)	45名		

尻別川などの自然豊かな水辺の景観をつくる	河川周辺の清掃や管理	13	尻別川周辺清掃(草刈等)	京極町景観を考える会	平成20年4月～10月 (※毎月1～2回程度)	延べ70名程度 (各10名程度)		景観美化活動として植栽や清掃活動など、さまざまな取り組みが行われており、活動を継続することで少しずつ取組の幅が広がり、善意で手伝ってくれる人が増えている。また比較的行政機関との連携も積極的に図られている。今後も継続に向けて各種広報媒体を活用した活動紹介・周知や活動周知に向けた行政への働きかけ、事務局の強化等が必要である。
	河川景観の保全と河畔林の創出	14	尻別川クリーン作戦	NPO法人しりべつリバーネット、蘭越町	平成20年6月21日	300名		
	散策路・フットパスの整備	15	フットパスの集いin蘭越	NPO法人しりべつリバーネット	平成20年10月5日	40名		
エリアの景観ルールづくり 看板や広告物の規制の検討 看板やノボリの撤去			羊蹄山麓広域景観づくりにて検討	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会	継続検討中	—		「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」にて4つの検討部会を中心にそれぞれの情報共有・情報交換等が行われている。
			※恵庭市で計画中の景観計画事業に参加	えにわシーニックプロジェクト	平成18年度			おもてなしの心を持って、清掃活動や沿道を彩る花植え活動などを行い、地域住民や行政組織などと連携を図りながらエリアの景観づくりに取り組んだ。特に小学生との沿道における花植え活動では、植栽作業だけではなく、次年度につながる管理作業も実施できた。今後は、現在の活動を継続し、エリアの特徴を活かして様々な切り口からエリア景観の向上を目指していく。
			「洞爺湖エリア景観マスタープラン」の作成に向けた検討	洞爺湖エリア代表者会議	継続検討中	24名		シーニックハイウェイ北海道洞爺湖エリアにおいては、地域活動団体を中心として沿道景観づくりの検討が進められており、景観美化活動として植栽や清掃活動など、さまざまな取り組みが行われている。そして活動を継続することで少しずつ取組の幅も広がってきている。また比較的行政機関との連携も積極的に図られている。今後も継続に向けて各種広報媒体を活用した活動紹介・周知や活動周知に向けた行政への働きかけ、事務局機能の強化等が必要である。
洞爺湖に彩を添える	眺望ポイントの調査研究	16	洞爺湖エリア代表者会議による検討	洞爺湖エリア代表者会議	平成20年度	10名		シーニックハイウェイ北海道洞爺湖エリアにおいては、地域活動団体を中心として沿道景観づくりの検討が進められており、景観美化活動として植栽や清掃活動など、さまざまな取り組みが行われている。そして活動を継続することで少しずつ取組の幅も広がってきている。また比較的行政機関との連携も積極的に図られている。今後も継続に向けて各種広報媒体を活用した活動紹介・周知や活動周知に向けた行政への働きかけ、事務局機能の強化等が必要である。
	サクラの植栽	17	「MOVE 洞爺湖 2008」	洞爺湖温泉観光協会 洞爺にぎわいネットワークほか	平成20年4月29日	300名		
	洞爺湖畔の清掃・彫刻の管理							
	花と緑(紅葉する樹木)の植栽	18	『シーニック花壇の整備(駐車帯の緑化活動)』	洞爺にぎわいネットワーク 洞爺湖温泉観光協会	平成20年度	20名		
温泉街らしさを演出する	洞爺湖温泉の花・プランター整備	19	西山火口周辺の花壇整備	洞爺にぎわいネットワーク	平成20年度	20名		
	湯煙のあるまちづくりの推進		スタンブラリー・洞爺湖温泉手湯物語Ⅱ	洞爺湖温泉観光協会	継続実施中	—		
	温泉街のサインの統一		実施済み	—	—	—		
北海道らしい清らかな水を印象づけるまちづくりの促進	支笏湖の湖面利用に関する規制		支笏湖の湖面利用に関する規制の検討	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成19年度			
	水辺の眺望ポイントの整理		ウエルカム北海道エリア裏街道53次で水辺を巡るルート設定を検討	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度			
	河川や湖面、沿道の清掃 (※清掃活動の推進)	20	453(ゴザン)530(ゴミゼロ)キャンペーンin支笏湖	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成20年5月30日(水)、 9月30日(火)	90名 70名		おもてなしの心を持って、清掃活動や沿道を彩る花植え活動などを行い、地域住民や行政組織などと連携を図りながらエリアの景観づくりに取り組んだ。特に小学生との沿道における花植え活動では、植栽作業だけではなく、次年度につながる管理作業も実施できた。今後は、現在の活動を継続し、エリアの特徴を活かして様々な切り口からエリア景観の向上を目指していく。
		21	えにわ湖慈しみフェスタへ協力団体として参画	えにわシーニックプロジェクト	平成20年7月26日(土)	全体 200名		

地域づくり	歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	ショートフィルム映画祭、絵画教室の開催		実施せず	—	—	—		後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
		音楽コンサートの開催	22	きもべつ高校ハンドベル演奏会	NPO法人きもべつWAO	平成20年12月13日	30名		
		地域資源の発掘・活用	★23	雪だるまの活用(夏期外国人観光客ウエルカムイベント)	らんこしWAO、NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会 他	平成20年8月17日、20日	約1,000名(延べ来場者)		
	地域資源の発掘と保全活用	支笏湖タウンマップの作成		支笏湖周辺マップ(グリーンマップ、地域情報マップ)	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度			地域の魅力ポイントをめぐるバスツアーやエリアの周遊ルートづくりなどをきっかけに、地域資源の発掘やその有効活用についての検討を深めている。今後は、エリアや地域(住民や行政、企業など)との交流を深め、協力関係を築きながら、地域資源の活用方法やその仕組みを具体化していく。
		旧ユースホステルの保全・活用				平成19年度			
		タウンウォッチングなどによる地域資源の発掘		裏街道53次	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成19年度			
	エリアの資源の発掘と保全活用	エリアの資源の研究会の開催	24	エリア代表者会議及び景観分科会等による検討	エリア全体	平成20年度	—		各種イベントの下支えなど、地域の頑張りを連携することで補完することができている。また活動の継続に向けては、地域の方々が行政機関も含めて「語り合う場」がこれまで以上に必要である。後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
		地域資源マップの作成	25	「洞爺湖周辺ガイドマップ」の作成	洞爺湖温泉観光協会	平成20年度	—		
	地域コミュニティを大切にしたい地域づくりの推進	地域の人々と連携した活動の推進	26	各自自治体での清掃活動	ニセコ羊蹄エリア全域	平成20年度	延べ500名程度(各50～70名)		後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
	地域の資源を活かしたコミュニティビジネスの創出	地域ブランド化の検討	27	「恵み野花マップ」の制作による地域ブランドのPR	えにわシーニックプロジェクト	平成20年度(春季)			地域の魅力ポイントをめぐるバスツアーやエリアの周遊ルートづくりなどをきっかけに、地域資源の発掘やその有効活用についての検討を深めている。今後は、エリアや地域(住民や行政、企業など)との交流を深め、協力関係を築きながら、地域資源の活用方法やその仕組みを具体化していく。
		手づくり品・オリジナルポストカードの制作		商品製作	支笏湖のヒメマスの活用	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成18年度		
		コミュニティビジネス研究	12	えにわいいとこどり紅葉バスツアー	えにわシーニックプロジェクト	平成20年10月11日(土)	45名		
				支笏湖シーニックシャトルバス	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成17～19年度8～10月			
			28	ガーデニングを観光資源とするコミュニティビジネス研究	えにわシーニックプロジェクト	平成20年6月28日(土)～29日(日)	251名		
	地域の人材の育成と活用	タウンミーティング・研修会の開催	29	活力ある地域づくり講演会	NPO法人しりべつリバーネット	平成20年9月8日	50名		後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
	エリアの人材育成	地元の学校と連携した活動の推進	30	地元の学校と連携した活動の推進	ゆったリズム体験倶楽部、NPO法人そうべつ観光協会	平成20年度	—		各種イベントの下支えなど、地域の頑張りを連携することで補完することができている。また活動の継続に向けては、地域の方々が行政機関も含めて「語り合う場」がこれまで以上に必要である。後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
		エリア人材登録制度の検討	31	洞爺湖有珠火山マイスター養成講座の実施	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会	平成20年11月8日	24名		
		タウンミーティング・シーニック塾の開催	★32	「洞爺湖有珠山ジオパーク」フォーラムの開催	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会・胆振支庁	平成21年3月12日	130名		

交流と連携による地域づくりの推進	子ども・住民向け文化事業の推進・活動参加のしくみづくり	33	えにわシーニックナイト(全国あかりサミットと共催)	えにわシーニックプロジェクト	平成21年2月7日(土)	3000人		地域の魅力ポイントをめぐるバスツアーやエリアの周遊ルートづくりなどをきっかけに、地域資源の発掘やその有効活用についての検討を深めている。今後は、エリアや地域(住民や行政、企業など)との交流を深め、協力関係を築きながら、地域資源の活用方法やその仕組みを具体化していく。
	各研修会などの開催		支笏湖だいがく塾	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成19年6月11日(月)			
	タウンミーティングの開催		各種会議等の開催	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成18年度			
	Co2削減		支笏湖シーニックシャトルバス	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成17～19年度 8～10月			
	自然環境学習・教育プログラム		ここからはじまる北海道 千歳ウェルカム花ロードver.5	社団法人 千歳青年会議所	平成19年度 春の植栽:5月25日(木) 秋の彩り:9月20日(水)～22日(金) 花苗の越冬チャレンジ 11月30日(金)			
エリアの産業の活性化	コミュニティビジネスの研究	8	国道よごさん(453)キャンペーンでの試行的実施	国道よごさんキャンペーン実行委員会	平成20年9月6日	32名		各種イベントの下支えなど、地域の頑張りを連携することで補完することができる。また活動の継続に向けては、地域の方々が行政機関も含めて「語り合う場」がこれまで以上に必要である。後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
	地産地消の推進	34	シーニックカフェや活動団体が経営する飲食店での地産地消メニューの提供	ゆったりズム体験倶楽部 他	平成20年度	—		
	保養型温泉観光の推進	35	健康保養型観光の推進	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 そうべつ観光協会 他	平成20年度	—		
	体験型農業の推進	36	壮瞥町移住体験ツアー募集事業	そうべつくだもの村 NPO法人そうべつ観光協会	平成20年度	—		
農産物など地場産品を活用した魅力づくり	食(農産物)の活用と売り込み	★37	野菜市の開催	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会 他	平成20年8月～9月の毎週土日	約600名 (延べ来場者)		地場産品の活用については、既存取り組み(缶詰)のほか野菜市が開催されるなど新たな展開も見せている。今後は適切なニーズの把握やそれに応じた販売経路の確保等についての検討が必要。
			「いなかのめいやり(缶詰)」の販売	NPO法人きもべつWAO	継続展開中	—		
	周辺の田園地帯や水資源を活用した魅力づくり		ファームイン・体験農園との連携の検討	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成19年度			エリアの魅力が感じられる観光地を巡るバスツアーや、特産品をテーマとした広域イベントなどにより、地域の魅力をPRすることができた。今後は、地域連携の充実を図りながら活動の継続を目指すとともに、エリアとしての新たな観光メニューの創出に向けた取り組みや、それらの情報を効果的に発信していく仕組みづくりなどについて検討していく。
			食をテーマにした特産品の開発・地域連携の推進	J8公式カクテル(申請中)を企画	社団法人 千歳青年会議所	平成20年 2月10日(日)	300名	
		エリア企業との連携による魅力づくり	えにわいいとこどり紅葉バスツアー	えにわシーニックプロジェクト	平成20年10月11日(土)	45名		
			えにわキャンドルナイト	えにわシーニックプロジェクト	平成20年 1月26日(土)	1500名		
	エリアのきめ細かな情報の発信	38	シーニックナイト2009サイトの開設	シーニックナイト2009実行委員会 他	平成20年12月開設	—		紙媒体の情報媒体は比較的充実しており、ホームページ等のweb情報媒体はしりべしネットとの相互利用による効果が期待されるため、情報共有や役割分担等連携に向けた検討が必要。
		39	ニセコをPRする冊子(英語・中国語)の作成	ニセコ ガイドブック「3W NISEKO」発行	国際の会	平成20年12月発行	—	
			エリアのホームページの作成	実施せず	—	—		
	観光コミュニティバスの実験運行	12	えにわいいとこどり紅葉バスツアー	えにわシーニックプロジェクト	平成20年10月11日(土)	45名		エリアの魅力が感じられる観光地を巡るバスツアーや、特産品をテーマとした広域イベント
			支笏湖シーニックシャトルバス	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成19年度			
			ウェルカム北海道エリア ホームページでのイベント紹介及び活動報告	エリア代表者会議 えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	8月26日(土)、27日(日)、9月9日(土)、10日(日)、10月16日(月)、17日(火)、18日(水)			

観光振興	エリアの周遊性を高めるしくみと情報発信	エリアの周遊の検討		ウエルカム北海道エリア裏街道53次	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成18年度			などにより、地域の魅力をPRすることができた。今後は、地域連携の充実を図りながら活動の継続を目指すとともに、エリアとしての新たな観光メニューの創出に向けた取り組みや、それらの情報を効果的に発信していく仕組みづくりなどについて検討していく。
			12	えにわいいとこどり紅葉バスツアー	えにわシーニックプロジェクト	平成20年10月11日（土）	45名	S-2	
				支笏湖シーニックシャトルバス	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	8月26日（土）、27日（日）、9月9日（土）、10日（日）、10月16日（月）、17日（火）、18日（水）			
		トレジャーハント等の実施		ドライブマップ2007に、地域のクイズを提供	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構NEOステージ	平成18年度			
	洞爺湖エリアの観光サービス機能の充実	マップ・パンフレットの作成	27	「洞爺湖周辺ガイドマップ」の作成	洞爺湖温泉観光協会	平成20年度	—		洞爺湖周辺エコミュージアム構想に加え、平成20年10月に新たに『洞爺湖有珠山ジオパーク』（世界地質遺産）国内候補地に決定したことで、豊かな自然や地質遺産を活用したジオツーリズムなどの普及拡大を通して、北海道洞爺湖サミット開催地としての知名度向上を追い風にしたニューツーリズムの振興が期待される。
		物産展の開催	40	第32回そうべつりんご祭りの開催	そうべつくもの村 NPO法人そうべつ観光協会	平成20年10月12日	2,000名		
		ホームページやエリアマップなどでの情報発信		各種メディアによる情報発信	ゆつたリズム体験倶楽部 大達レンジャーズ他	継続中	—		
	地域とのふれあいを大切に観光の推進	地域の歴史などに基づいたツアーの開催	★41	北のまるしえ	しりべしサミット・ウエルカムプロジェクト実行委員会（協力：ニセコ半蹄エリア代表者会議）	平成20年7月5日、6日	—		来訪者や地域ニーズに応じた取り組み（北のまるしえ、ニセコ湯めぐりバス、シーニックデッキ等）が行われ、高い評価を得ている。一方で活動の継続に向け、後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要。
		地域の歴史・文化を伝える語りべの会の開催	★42	エキノコックス公開講座	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会 他	平成20年11月7日	70名		
		ふれあいのある体験ツアーの企画開催		ニセコ湯めぐりバス	ニセコリゾート観光協会	継続展開中	—		
		シーニックバスの運行		実施せず	—	—	—		
		シーニックデッキ・カフェの設置	43	シーニックカフェ「しろくまカフェ」 シーニックデッキ「北四線」 「小川原脩記念美術館」 シーニックイグルー「国道5号ニセコ運輸前」	ニセコ羊蹄エリア代表者会議認定	平成20年度	—		
	資源と人材を活かしたエコミュージアムの形成	フォトコンテストの開催	★44	洞爺湖フォトコンテスト2008	洞爺湖温泉観光協会／環境省 北海道地方環境事務所	平成20年6月15日～平成20年7月22日	50名		洞爺湖周辺エコミュージアム構想に加え、平成20年10月に新たに『洞爺湖有珠山ジオパーク』（世界地質遺産）国内候補地に決定したことで、豊かな自然や地質遺産を活用したジオツーリズムなどの普及拡大を通して、北海道洞爺湖サミット開催地としての知名度向上を追い風にしたニューツーリズムの振興が期待される。
		エコミュージアムガイドブックの発行	45	ホームページ等によるWeb情報媒体を活用した情報提供	洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会 他	平成20年度	—		
		エコミュージアムツアーの企画	46	昭和新山登山学習会	そうべつエコミュージアム友の会	平成20年5月10日	50名		
		ターゲットを絞った散策・体験ツアーの企画運営	47	「冬のおロフレ峠」雪上体験ツアー	そうべつエコミュージアム友の会	平成21年3月22日	20名		
		エリア人材バンクの設立	48	継続検討中	洞爺湖エリア代表者会議	平成20年度	—		
	エリアの魅力を伝えるイベントなどの開催	サンセットコンサート・クリスマスイベントの開催		サンセットコンサート・クリスマスイベントの開催	支笏湖まちづくり機構NEOステージ	サンセットコンサート 平成19年7月28日（土） クリスマスイベント 12月	各200名		

エリア連携によるふれあい観光の推進	ルートを対象としたイベント・ツアーの企画・実施 (シーニックナイト～灯りで繋ぐ雪の道～)		33	えにわシーニックナイト(全国あかりサミットと共催)	えにわシーニックプロジェクト	平成21年2月7日(土)	3000人	エリアの魅力が感じられる観光地を巡るバスツアーや、特産品をテーマとした広域イベントなどにより、地域の魅力をPRすることができた。今後は、地域連携の充実を図りながら活動の継続を目指すとともに、エリアとしての新たな観光メニューの創出に向けた取り組みや、それらの情報を効果的に発信していく仕組みづくりなどについて検討していく。	
			49	支笏湖 雪あかりの散歩道	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成21年1月30日(金)～2月15日(日)の、土、日、祝日			
				連携による取り組み	支笏湖まちづくり機構 NEOステージ	平成19年2月15日(水)			
				連携による取り組み	えにわシーニックプロジェクト 社団法人 千歳青年会議所 支笏湖まちづくり機構 NEOス	平成18年度			
	特定テーマによるルートプロモーション活動			連携による取り組み					
	シーニックバスツアーの企画・運行		8	国道よごさん(453)キャンペーンの実施	国道よごさんキャンペーン実行委員会	平成20年9月6日	32名		
	エリアの資源を活用した複合ツアーの企画		★50	洞爺湖サミット開催記念洞爺湖周辺地域エコミュージアム・ジオパークツアー	そうべつエコミュージアム友の会	平成20年6月7日～平成20年6月8日	73名		洞爺湖周辺エコミュージアム構想に加え、平成20年10月に新たに『洞爺湖有珠山ジオパーク』(世界地質遺産)国内候補地に決定したことで、豊かな自然や地質遺産を活用したジオツーリズムなどの普及拡大を通して、北海道洞爺湖サミット開催地としての知名度向上を追い風にしたニューツーリズムの振興が期待される。
イベントの企画・運営		★51	北海道洞爺湖サミット開催記念グッズ販売	(社)洞爺湖温泉観光協会	平成20年度	—			
「もてなし」による洞爺湖エリアのイメージ向上	温泉街ガイドブックの発行	25	「洞爺湖周辺ガイドマップ」の作成	洞爺湖温泉観光協会	平成20年度	—			
	おもてなしキャンペーンの実施	★52	秋の「ちよつとエコ旅」キャンペーン	洞爺湖温泉観光協会	平成20年9月1日～平成20年11月30日	—			
	シーニックデッキの設置		実施せず(検討中)	洞爺湖エリア代表者会議	—	—			
人材育成のための研修会などの開催		★53	世界ジオパーク講演会の開催	洞爺湖有珠山ジオパーク科学検討委員会	平成20年10月21日				
ルート及びエリア全域を対象とした取り組み	ルートを対象としたイベントの企画・実施(シーニックナイト2008～灯りでつなぐ雪のみち～)		54	支笏洞爺ニセコルートをつなぐ「シーニックナイト2009」	シーニックナイト2009実行委員会 他	平成21年1月31日～2月28日	約400名	S－1	広域連携の取り組みである「シーニックナイト」は参加のしやすさから、エリア内外の各地で自然発生的に開催されるようになり、地域住民や訪れた観光客の評価も高い。
			55	支笏洞爺ニセコルートをつなぐ「シーニックナイト2009」	シーニックナイト2009実行委員会	平成21年1月30日	40名		広域連携の取り組みである『シーニックナイト』は参加しやすさから、エリア内外の各地で自然発生的に開催されるようになり、地域住民や訪れた観光客の評価も高い。
	エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進～シーニックの森づくりの推進～		56	エキノコックス駆除活動	NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会、京極町景観を考える会、らんこしWAO、NPO法人きもべつWAO 他	平成20年度	約50名	S－4	環境に配慮した取り組みとして「エキノコックス駆除活動」がエリア全域に拡大しており、今後の広域的な展開に向けた方針や方向性の再検討が必要
			8	国道よごさん(453)キャンペーンでの植樹活動の実施	国道よごさんキャンペーン実行委員会	平成20年9月6日	32名		環境に配慮した取り組みとして「シーニックの森」構想の一つとして、植樹活動を継続中。用地確保と維持管理が課題である。

※表中“★”はH20新規活動

支笏洞爺ニセコルート

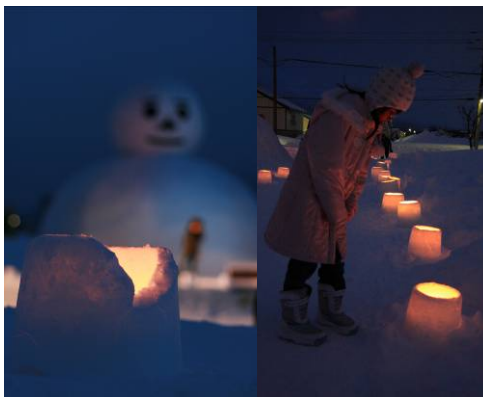
SHIKOTSU-TOYA-NISEKO PARK ROUTE

Scenic Night 2009 ～灯りが繋ぐ雪の道

- 【内 容】シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルートをキャンドルの灯りでつなぐ“シーニックナイト2009”を今年も開催します。千歳空港から恵庭、支笏湖温泉、洞爺湖温泉、留寿都、喜茂別、京極、倶知安、ニセコ、蘭越、真狩へと結ぶこのイベントは今年で4回目を数えます。地域の皆さんはもちろん、多くの観光客の方々にも参加していただき、雪の壁に小さな横穴を掘ってひとつひとつキャンドルを灯したり、アイスクャンドルやランタンに灯したり、各地で様々な彩りのキャンドルが優しく街を包みます。住宅街、道の駅、旅館街、温泉街、スキー場など人が集まる場所をたくさんのキャンドルで温かく灯す計画です。
- 【日 時】平成21年1月30日（金）～2月28日（土）
- 【場 所】支笏湖温泉街、洞爺湖温泉、真狩温泉、ニセコ綺羅乃湯、ホテル甘露の森、雪トピア会場（倶知安町）、各市街地（恵庭市、喜茂別町、京極町、倶知安町、ニセコ町、蘭越町）、各スキー場（グラン・ヒラフ、東山リゾート、ピレッジ、アンヌプリ、ルスツリゾート）、各道の駅（花ロードえにわ、ニセコビュープラザ、望羊中山、そうべつ情報館 i）
- 【主 催】シーニックナイト2009実行委員会
- 【共 催】支笏洞爺ニセコルート代表者会議
- 【後 援】北海道開発局札幌開発建設部、北海道開発局小樽開発建設部、北海道開発局室蘭開発建設部
- 【協 力】石狩支庁、後志支庁、胆振支庁、（有中）シーニックバイウェイ支援センター、後志観光連盟、千歳市、社団法人千歳観光連盟、恵庭市、恵庭市教育委員会、（社）恵庭観光協会、壮瞥町役場職員親睦会、壮瞥町商工会青年部、そうべつくだもの村、NPO法人そうべつ観光協会、そうべつエコミュージアム友の会、社団法人洞爺湖温泉観光協会、倶知安観光協会
- 【協 賛】倶知安町、ニセコ町、蘭越町、京極町、喜茂別町、留寿都村、真狩村、ニセコリゾート観光協会、支笏洞爺ニセコルート行政連絡会議、北海道コカコーラボトリング、NTT DoCoMo、グランヒラフ、ルスツリゾート、日本ハーモニーリゾート、ニセコピレッジ、ホテル甘露の森、トヨタレンタリース札幌 他



ウェルカム北海道エリア



ニセコ羊蹄山エリア



洞爺湖エリア

えにわいいとこどり紅葉バスツアー

【内 容】 恵庭市内の見所を、住民ボランティアのガイドがご案内。自然を満喫しながらの公園でのキノコ採りや地元の食材を活かした昼食及び秋の紅葉散策など、地域の資源を再認識できる任期のバスツアー。魅力ある秋の恵庭市に触れられます。

【日 時】 平成20年10月11日（土）

【場 所】 恵庭市及び周辺 集合場所：JR札幌駅発 JR恵庭駅発

【主 催】 えにわシーニックプロジェクト



国道よごさん（453）キャンペーン

【内 容】洞爺湖エリアのシーニックバイウェイ活動団体、壮瞥町のそうべつくだもの村は、壮瞥の果樹農園家が集まってできた団体。多くの果樹園農家は支笏湖と洞爺湖エリアを結ぶ国道453号に面しています。道路清掃事業「秋のよごさん（453）キャンペーン」はゴミ広いをして道路景観を良くすることによって訪れる観光客に快適なドライブを楽しんでもらうことを目的にスタートしました。また、今回も前回同様、シーニックバイウェイ支援センターの協力のもと、カーボンオフセット型ツアーとして、壮瞥町町有地ヘトドマツ30本を植樹した。

【日 時】平成20年9月6日（土）

【場 所】洞爺湖周辺「そうべつ情報感アイ」駐車場集合

【主 催】よごさんキャンペーン実行委員会（そうべつくだもの村他）

【参加人数】120名



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

・支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)	報告者:支笏洞爺ニセコルート代表 泉谷 清	報告年月:2009/3/31
-------------------------------	-----------------------	----------------

活動団体
・NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ ・えにわシーニックプロジェクト ・社団法人 千歳青年会議所

ルート運営体制(活動団体)
●エリア代表者会議の運営 (構成)エリアの各活動団体の代表者により構成 (代表)エリアの代表を1名選出し、支笏洞爺ニセコルート代表(各エリアから1名)を兼任 ・エリア代表 平成20年 泉谷 清 (えにわシーニックプロジェクト) 平成19年 佐藤 哲也 (社団法人 千歳青年会議所) 平成18年 白石 一人 (NPO法人支笏湖まちづくり機構Neoステージ)

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営 に関わる事 項	エリア運営 (事務局体制)	スケジュール 調整など					会議の企画・運営／キャンペーンの企画・サポート								
	ルート運営代表者 会議								● 10/7	● 11/23	● 12/22	● 1/16	● 2/13	● 3/10	
	エリア 代表者会議							● 9月26日 (第1回エリア) 千歳		● 11月7日 (第2回エリア) 支笏湖			● 2月13日 (第3回エリア) 支笏湖		
	検討会 勉強会など		★ 4月18日 (景観検討 会・花ロード)	★ 5月19日 (景観検討 会・花ロード) ★ 5月30日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)	★ 6月5日・10日 (花と暮らし 展検討会)	★ 7月25日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)			★ 10月1日 ・24日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)		★ 12月29日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)	★ 1月18日・30 日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)	■ 2月4,26日 (景観検討 会・花ロード)	■ 3月5,30日 (景観検討 会・花ロード) ★ 3月9日・28日 (えにわシー ニックナイト 実行委員会)	
参加人数									20	11	20	20	24	20	
				20				20		14			11	12,17	
			21	12	8	10			23		8	15	14	25	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)				報告者:札幌開発建設部						報告年月:2009/3/31					
	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営 に関わる事 項	行政連絡会議の実 施							● 9月26日 (第1回) 千歳						● 3月30日 (第2回) 恵庭	
	三開建連絡会議の 実施(札幌・小樽・室 蘭)								● 10/6	● 11/6					三開建連携による支援 体制の構築
参加人数								20	7	7				18	

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:洞爺湖エリア代表 阿野 裕紀緒	報告年月:2009/3/31
--------------------------	---------------------	----------------

活動団体
社団法人 洞爺湖温泉観光協会、ゆったリズム体験倶楽部、NPO法人 洞爺にぎわいネットワーク、洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会、そうべつくだもの村、NPO法人そうべつ観光協会、大滝レンジャーズ、そうべつエコミュージアム友の会 (以上8団体)

ルート運営体制(活動団体)
(1)洞爺湖エリア代表者会議 シーニックバイウェイに参加する活動団体の連携が図りやすいように、「洞爺湖エリア代表者会議」を組織し、エリア内の連携を主として活動を行います。 (2)洞爺湖エリア代表者会議の運営 【構成】エリア代表者会議は、エリアの各活動団体の代表者により構成します。(各活動団体の代表者の代理人の出席を認める) 【エリア代表者会議の位置づけ】 ・エリア代表者会議は、エリアの運営の決定機関とします。 ・エリアの短期的・長期的運営について議論する機関とします。

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議							● 10/7	● 11/23	● 12/22	● 1/16	● 2/13	● 3/10	今年度から3エリア合同のルート運営代表者会議が定例化。ルート内の情報共有のほか口座の開設や代表者の持ち回りなどが決定し、ルート内のコミュニティメール等も新たに作られ、ルートの連携体制が強化されている。
	エリア代表者会議								● 11/5	● 12/22			● 3/10	
	シーニックナイト2009実行委員会									● 12/22	● 1/16	● 2/13		
	シーニックナイト2009										← 1月31日 ~2月28日 →			

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)	報告者:室蘭開発建設部	報告年月:2009/3/31
--------------------------	-------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施											● 2/20	← 3月10日 ~3月11日 →	情報共有の強化、支援体制の構築
	三開建連絡会議の実施(札幌・小樽・室蘭)							● 10/6	● 11/6					三開建連携による支援体制の構築

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)	報告者:ニセコ羊蹄エリア代表 古谷和之	報告年月:2009/3/31
----------------------------	---------------------	----------------

活動団体
共和町商工会青年部、京極町景観を考える会、国際の会、NPO法人きもべつWAO、村づくり研究会、NPO法人しりべつリバーネット、ニセコ広域観光委員会、NPO法人ニセコまちづくりフォーラム、NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会、(株)ニセコリゾート観光協会、らんこしWAO、るすつWAO (以上12団体)

ルート運営体制(活動団体)
(1)ニセコ羊蹄エリア代表者会議 シーニックバイウェイに参加する活動団体の共通意識の醸成やお互いの活動に対する理解を図るために、「ニセコ羊蹄エリア代表者会議」を組織し、エリア内の連携を主として活動を行います。 (2)ニセコ羊蹄エリア代表者会議の運営 【構成】エリア代表者会議は、エリアの各活動団体の代表者により構成します。(各活動団体の代表者の代理人の出席を認める) 【エリア代表者会議の位置づけ】 ・エリア代表者会議は、エリアの運営の決定機関とします。 ・エリアの短期的・長期的運営について議論する機関とします。 ・エリア運営活動計画は、エリア代表者会議で決定します。 【代表】エリアの代表を1名選出し、その一人が支笏洞爺ニセコルート代表(1年交替)を兼任します。 ●ニセコ羊蹄エリア代表:古谷 和之(NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会)

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議							● 10/7	● 11/23	● 12/22	● 1/16	● 2/13	● 3/10	今年度から3エリア合同のルート運営代表者会議が定例化。ルート内の情報共有のほか口座の開設や代表者の持ち回りなどが決定し、ルート内のコミュニティメール等も新たに作られ、ルートの連携体制が強化されている。
	エリア代表者会議						● 9/9						● 3/24	
	シーニックナイト2009実行委員会									● 12/22	● 1/16	● 2/13		
	シーニックナイト2009										← 1月31日 ~ 2月28日 →			

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート	報告者:小樽開発建設部	報告年月:2009/3/31
------------------	-------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施							● 10/30				← 2月24日 ~ 2月27日 →		情報共有の強化、支援体制の構築
	三開建連絡会議の実施(札幌・小樽・室蘭)							● 10/6	● 11/6					三開建連携による支援体制の構築

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリア)		報告者: 札幌開発建設部		報告年月: 2009/3/31				
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観づくり	来訪者をもてなすウエルカムルートの創出	・道路情報板を活用した、「シーニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート」のPR	平成18年度～平成20年度	・札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部	・支笏洞爺ニセコルート内の国道において、道路情報版を活用し、「シーニックバイウェイ支笏洞爺ニセコルート」のPRを実施		57	
		・第59回支笏湖湖水まつりにおけるシーニックパネル展の開催	平成20年7月5日～6日	・札幌開発建設部	・J8サミット千歳支笏湖期間中に合わせ、支笏湖湖水まつり会場において、シーニックバイウェイ関連のパネルを展示。来場者へシーニックバイウェイ北海道のルート概要や、環境への取組の周知を図った。		58	
	北海道らしい清らかな水を印象づけるみちづくりの促進	・「道道恵庭岳公園線植えるカム花ロード」の主催及び協力	平成20年5月31日	・恵庭市	・昨年に引き続き、活動団体、地域住民、千歳土木現業所と連携し、恵庭インターチェンジより市街地に向かい中央分岐帯の植樹及び、雑草除去を主催 ・花苗等、物資の準備、運営を行う。		10	
		・「えにわ湖慈しみフェスタ」のゴミの処理及び、運営支援	平成20年7月26日	・恵庭市	・昨年に引き続き、花のじゅうたんプロジェクトとして助成。4カ年限定の事業であり、22年度に最終年を迎えることから、継続に向けた検討が必要。		21	
		・「453・530(ヨゴサン・ゴミゼロ)キャンペーン」のゴミ処理、清掃用具の提供等	平成20年5月30日、9月30日	・千歳市	・ボランティア・サポートプログラムに(VSP)により、ゴミ処理を支援 ・VSP手続きの他、活動運営等をサポート ・人的支援として、清掃活動に参加		8	
				・札幌開発建設部 千歳道路事務所	・ボランティア・サポートプログラムを導入、清掃用具を提供。 ・人的支援として、清掃活動に参加			
				・支笏湖自然保護官事務所	・人的支援として、清掃活動に参加 ・今後、環境の日や自然公園グリーンデイとの清掃活動の連携も考えられる			
	花とみどりによる四季の感じられる景観形成	・「千歳ウエルカム花ロードver.6」の共催及び運営支援	平成20年5月20日	・千歳市	・平成19年度は主催者として参加。 ・受付窓口として、市内全小学校への取り組み周知、及び、一般参加者の募集等を担当。 ・小学校(教育委員会)との連携や、フラワーマスター等の関係機関との調整。	治道景観の整備(花植え、清掃)にかかる活動に対する行政の協力体制が確立してきており、円滑に実施できた。今後も、各行政機関連携のもと、活動団体の意向に対する調整や支援メニューの提案など、密な連携が望まれる。	11	
				・札幌開発建設部 千歳道路事務所	・地域協働プロジェクトとして、間取り組みを共催。 ・地域活動団体と連携し、小学校と連携した植栽、越冬チャレンジの取り組みを実施。 ・越冬場所の提供(千歳道路事務所花壇)			
				・北海道札幌土木現業所千歳出張所	・ボランティアサポートプログラムにより、国道36号の植樹マスへの植栽を実施。 ・道道千歳インター線において、植栽活動を実施。一般参加の呼びかけとして、ホームページへチラシを掲載。 ・植栽後の維持管理が課題(小学生や地域との連携を考えたいが、安全面の問題があり難しい。現在も、月1回実施しており、行政側の対応としては限界という状況) ・次年度は、千歳の関係者が集まり準備会として行っていくなど、早い段階での準備が必要。(恵庭のノウハウ等、他の地区も取り込んだ方がよいとなれば、その時点で輪を広げていけば良い) ・今年度、建設業関係者の参加が多かったため、次年度以降は一般参加者を増やす取組が必要。			
		・「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」	平成17年度～平成19年度	・石狩森林管理署	・セブンイレブンみどりの基金と、北海道森林管理局・石狩森林管理署が協定を結び、台風被害にあった支笏湖周辺の森林を再生するため、行政・環境市民団体・企業・地域団体などから成る「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会」を設立。 ・市民が「森の育て親」になって100haの大地に10万本の植樹に協働して取り組む。			
		エリアの景観ルールづくり	・恵庭市において、景観形成基本計画を策定	平成19年度～平成20年度	・恵庭市			・平成19年度に策定した景観形成基本計画について、平成20年度は広報誌(7月号)にて特集を組むなどPR活動を実施した。
	・国道36号 景観診断		平成15年～平成17年度	・札幌開発建設部	・シーニックバイウェイの基幹ルートとして指定されている、国道36号において、住民参加による景観診断を実施、平成17年度までに対象となっている区間について実施を終えた。			
	看板や広告物の規制の検討	・シーニックバイウェイルートにおいて、道路標識の集約を試行	平成18年度～平成19年度	・札幌開発建設部 千歳道路事務所	・国道453号において、視認性と景観の向上を目的とし、道路標識の集約化を試行。			

観光振興	周辺の田園地帯や水資源を活用した魅力づくり		平成19年度	・恵庭市 ・千歳市	・活動団体が主催する、近隣地域で作られている食を中心とした物産店「輪っしよい千歳」を後援。	地域活動への後援体制として、人的協力（活動参加や連携協力）や、情報発信（HPや広報誌への掲載協力）は、継続実施されている状況にある。また、行政からの支援メニューの一つとして、行政連絡担当者会議において集約された助成金メニュー等を活動団体へ都度情報提供を行っている。	28
	エリアの魅力を伝えるイベントなどの開催	サンセットコンサート	平成19年度	・千歳市	・人的支援として、運営を補助		
		「えにわの花めぐり」プレミアム・ガーデンツアー	平成20年6月28日・29日	・恵庭市	・活動団体が主催する、ガーデン散策を楽しむバスツアーに協力。		
	エリアの周遊性を高めるしくみと情報発信	・ホームページによる、シーニックバイウェイ北海道及び、エリア活動のPR	平成19～20年度	・千歳市	・千歳市ホームページ リンク集ページ内「観光」カテゴリにおいて、シーニックバイウェイ北海道へのリンクを設置。	60	
			平成19～20年度	・北海道札幌土木現業所千歳出張所	・札幌土木現業所ホームページトップページにおいて、シーニックバイウェイ北海道のバナーを掲載し、活動の周知に協力。		
			平成19～20年度	・石狩支庁	・トップページにて、シーニックバイウェイ北海道のバナーを掲載。 ・石狩管内観光ガイドマップへのシーニック情報掲載（マップにエリアを記載、シーニックバイウェイ北海道のHPアドレスなどの情報を掲載）		
			平成19～20年度	・札幌運輸支局	・札幌運輸支局ホームページトップページにて、シーニックバイウェイ北海道のバナーを掲載。		
			平成19年度	・札幌開発建設部千歳道路事務所	・札幌開発建設部 千歳道路事務所ホームページの改訂にともない、シーニックバイウェイ及びエリアの活動を周知するページを開設。		
	ルート連携によるふれあい観光の推進	・「シーニックナイト2009～灯りが繋ぐ雪の道」	平成20年度	・千歳市	・千歳市ホームページにて、ルート連携活動「シーニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。	54 55	
			平成20年度	・北海道札幌土木現業所千歳出張所	・札幌土木現業所ホームページにて、ルート連携活動「シーニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。		
			平成20年度	・石狩支庁	・道庁職員専用グループウェア内にて、「シーニックナイト」灯りが繋ぐ雪の道～」の活動周知のための情報を掲載。		
		・「シーニックナイト2009～灯りが繋ぐ雪の道」への後援及び活動PR ・除雪協力	平成21年1月30日～2月28日	・札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部	・ルート連携活動「シーニックナイト～灯りが繋ぐ雪の道～」において、取り組みの「後援」及びポスター・チラシの配布など活動のPRを支援。 ・国道36号（恵庭バイパス）における除雪協力 ・職員有志が、個人サポーターとなり、取り組みを応援。		
地域づくり	地域資源の発掘と保全活用	・「裏街道53次事業」地域の魅力発掘アンケートへの協力	平成18年度	・札幌開発建設部千歳道路事務所	・昨年に引き続き、ウエルカム北海道エリア内の地域資源発掘アンケートをホームページへ掲載、調査への協力を呼びかけるとともに、職員有志により、アンケート調査への記入協力。	12 33	当該エリアでは地域資源の発掘や有効活用について検討を進めているところだが、さらなる発展に向けて、行政や地域活動団体の垣根を越えた意見交換や交流の場を設け地域の魅力や課題を共有することが望ましい。地域の魅力ポイントを巡るバスツアーやエリアの周遊ルートづくりなどをきっかけとし、今後も協力
	地域の資源を活かしたコミュニティビジネスの創出	・恵庭いとこどりツアーの記念植樹の準備協力及び周知	平成20年10月11日	・恵庭市	・いいとこどりツアーでの植栽準備等を協力 ・市広報誌にツアーの案内を掲載 ・市外からの参加が多く、毎年満員の大人気のツアーとなっている。 ・活動団体のみでの運営では、希望者が多くても規模の拡大は難しい		
	交流と連携による地域づくりの推進	恵庭シーニックナイト・全国あかりサミットの周知	平成21年2月7日	・恵庭市	・恵庭市広報誌において、恵庭シーニックナイト及び全国あかりサミットの取り組みの周知に協力。		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 支笏洞爺ニセコルート(洞爺湖エリア)		報告者: 室蘭開発建設部		報告年月: 2009/3/31			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観づくり	洞爺湖に彩を添える	洞爺湖畔に面した国道230号沿いでの花壇整備に対するVSP事業としての活動支援。 (実施区間 L=60m)	平成19年6月、10月	担当事務所: 有珠復旧事務所 協力自治体: 洞爺湖町	活動内容: 花植え・管理・除草・清掃 課題: 活動継続に向けた仕組みの検討が必要。	当該地域では、国道よごさんキャンペーンやVSP活動など清掃活動や花いっぱい活動や景観阻害看板の調査・撤去、民間看板の集約の他、シーニックバイウェイ洞爺湖エリア代表者会議では、洞爺湖地域の景観づくりに関する検討等が活発に行われている。これら地域住民の「思い」を各関係行政機関が「後押しする・繋げる」などの協働型マネジメントの取り組みにシフトしていくことが今後必要であると思われる。	
	温泉街らしさを演出する	洞爺湖温泉イルミネーショントンネル	平成20年12月20日～平成21年2月28日	洞爺湖町	洞爺湖温泉にぎわい広場(洞爺湖万世閣向かい)に延長約70mのトンネルを設置し、約30万個の電球で飾る。		61
	果樹園などの田園景観を整える	国道よごさん(453)キャンペーンへの支援	平成20年9月6日	室蘭開発建設部、有珠復旧事務所(VSP等の支援、活動参加・協力)、室蘭土現(作業車の提供)、洞爺湖町	持続可能な運営体制の構築に向け、参加呼びかけ等人的支援による協力体制の強化を図った。活動を継続していくことで、各機関ごとの役割分担が明確になってきておりスムーズな運営につながっている。		8
	エリアの景観ルールづくり	洞爺湖エリア景観づくり方針の検討(エリア代表者会議と併用開催)	平成20年度	洞爺湖エリア行政連絡会議関係機関	洞爺湖エリア代表者会議との協働によるエリア全体の景観づくりに関する検討を実施。各関係行政機関がどのような形で関わるか等、個別にアリアングの実施により聞き取りも行っている。		62
	看板やノボリの撤去						63
地域づくり	エリアの資源の発掘と保全活用	中島周辺の清掃活動	平成20年度	環境省 洞爺湖自然保護官事務所	国立公園や国指定鳥獣保護区において、自然や社会状況を熟知した地元住民等を雇用し、山岳地の清掃、施設補修、特定外来生物の駆除等を行うことで、国立公園管理のグレードアップを図ることを目的として中島周辺の清掃活動の他、ニホンザリ共生生態状況調査や洞爺湖内の水草の調査等を実施している。		64
	エリアの産業の活性化	西胆振地域づくりビジョン懇談会の開催	平成20年度	胆振支庁	西胆振圏域の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方として、「西胆振は一つ」のもと、6つのまちが一緒になった場合に各市町の特性を活かし、どんなまちづくりが可能であるかなど、住民がまちの将来について考える懇談会を3回開催(8/6,12/1,2/10)。	取り組みの継続に向けた地域活動団体と連携した適切な維持管理体制の構築が必要。	65
	エリアの人材育成	洞爺湖有珠火山マイスター制度の推進	平成20年度	胆振支庁	平成20年度は、養成講座や認定審査の実施など、この制度に基づく試行・運用を行い、さらに検討を重ねてきた。		31
観光振興	「もてなし」による洞爺湖エリアのイメージ向上	道路情報板によるルート名(支笏洞爺ニセコルート)の表示	平成20年度(継続展開)	室蘭開発建設部	一昨年度から継続して道路情報板を活用してルート名を表示したことで、地域活動団体の方々から「活動に対するモチベーションが上がった」と高評価を得ているとともに地域住民への浸透も少しずつ図られている。		66
	資源と人材を活かしたエコミュージアムの形成	世界ジオパーク講演会の開催	平成20年10月21日	洞爺湖有珠山ジオパーク学検討委員会	エコミュージアムの推進とともにジオパークの認証に必要な環境整備について考え、地域資源を活かした新たな圏域の創造等を目的に次のとおり講演会を開催した。	当該管内では、「洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会」を中心に自治体間や関係行政機関の連携が積極的	★53
	洞爺湖エリアの観光サービス機能の充実	「オールいぶりフェアinTOYA」の開催	平成20年7月1日～平成20年7月10日	胆振管内観光・物産展実行委員会 胆振支庁 商工労働観光課	洞爺湖を来訪する観光客はじめ、北海道洞爺湖サミット参加国関係者やプレス関係者等に対して、胆振管内の食、観光、自然、文化等の魅力を発信するとともに、管内のイメージアップを図ることを目的として、各自治体の観光PRのほか、特産品の試食、体験観光の実演など多彩なメニューを提供。	に図られている。行政としては行政連絡会議や各種取り組みにおいて参加協力及び人的支援等による連携が図られている。	67
	エリアの資源を活用した複合ツアーの企画	カーボンオフセット型ツアーでの植樹用地提供(国道よごさんキャンペーン)	平成20年9月6日	杜警町 室蘭開発建設部	昨年に引き続き、札幌圏のツアー参加者32名を対象としてカーボンオフセット型バスツアーを実施。植樹用地として、杜警町町有地を提供。その後のメンテナンスについても町が主体となり維持管理を行う。		8
その他		「ぐるっと洞爺クリーンアップ作戦」の実施	平成20年4月20日～平成20年6月22日	北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議	サミットの成功を祈念するとともに、国内外のお客様をきれいな環境でお迎えするために、胆振地域でも、次のとおり「北海道洞爺湖サミットクリーンアップ作戦」を展開。地元の地域住民をはじめ、札幌圏や他の地域の皆様にご協力いただき、クリーンアップ運動を展開した。	サミット開催に向けて官民協働となって各種おもてなしプロジェクトが展開され、成果をあげた。サミット終了後も無理のかからない適切な内容での活動の継続が必要である。	★68
	「北海道洞爺湖サミット」に向けた取り組みの実施	「ガイアナイト」の実施	平成20年7月7日	胆振支庁	北海道洞爺湖サミット道民会議が道民に対して広く呼び掛けている、環境プロジェクトの一環となる「ガイアナイト」を胆振支庁でも実施。ガイアナイトへの関心を喚起し参加促進を図るため、参加表明受付デスクを胆振支庁内に設置し、参加希望の方に無料でローソクを配布した。		★69
		いぶり高校生環境サミットの開催	平成20年10月25日、26日	胆振支庁、洞爺湖町	洞爺湖町において胆振支庁管内の高校生11校23名が集まり、昨年10月に宣言された「高校生サミット宣言」の意義を再確認し、今後、どのような行動に取り組むかを話し合い、次世代の高校生たちへ引き継ぐとともに、地域活動として広げていくことを目的として「いぶり高校生環境サミット」を開催。		★70

※表中「★」はH20新規活動

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ニセコ羊蹄エリア)		報告者:小樽開発建設部	報告年月:2009/3/31
----------------------------	--	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観づくり	エリアのシンボルの羊蹄山を彩り美しく見せる	「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」での検討	平成20年度	羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会(会長:蘭越町長、副会長:倶知安町長)後志支庁	4つの部会(羊蹄の日の制定及び活動検討部会、景観法検討部会、案内標識検討部会、水辺景観づくり部会)に分かれて地域住民と協働で具体的な検討を進めている。また、今年度で広域景観づくり推進地域の指定3周年を迎えるにあたり「羊蹄山麓広域景観フォーラム2009」を開催。	7か町村の連携による「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」での検討を中心に各種情報共有・情報交換も行われている。	71
	四季折々の表情を見せる田園景観を保全する	町民ボランティアの集い「まちをきれいにしよう」	平成20年5月	京極町	ゴミや空き缶を拾い集め、きれいなまちづくりを行うことを目的として、毎年5月に市街地の清掃活動を実施。		72
		「フラワーロード事業」の実施	平成20年6月1日	真狩村	継続の重要性を感じており、次年度以降も継続展開を予定している。しかし、球根の輸送代(オランダより輸入)や管理費や肥料代等が高いことが課題である。		73
	尻別川などの自然豊かな水辺の景観をつくる	「尻別川クリーン作戦」の実施	平成20年6月21日	蘭越町 小樽開発建設部 後志支庁	シーニック活動団体である、しりべつリバーネットが主催となり、清流日本一の尻別川の清らかな流れを守ることが流域全体の自然を大切にすることの和を広げることが目標として、カヌー等を使って清掃。作業終了後は地域との交流を図る交流会を実施。		14
地域づくり	歴史や文化資源も含めた地域資源の発掘と活用	雪トピアフェスティバル2009 (実行委員会構成メンバーとして参加)	平成21年2月21日	倶知安町	町と町民有志による協賛で開催し、自衛隊も全面的に協力してくれている。運営は雪トピアフェスティバル実行委員会。事務局は倶知安町役場商工観光課。・今年は国道393号の開通をきっかけとして、赤井川村との交流も発生した。また、・シーニックナイトとも連携したイベントとなり、キャンドルを介した交流が生じて良い取り組みになった。	広域連携の取り組みである「シーニックナイト」や環境に配慮した取り組みとして「エキノコックス駆除活動」が各自治体にも定着してきている。	74
	地域コミュニティを大切にした地域づくりの推進	「シーニックナイト2009」への協力・参加	平成21年1月31日～2月28日	ニセコ羊蹄7か町村 小樽開発建設部、 小樽開発建設部倶知安道路事務所	ニセコ羊蹄エリアにおいて活動団体が存在する自治体では、地域活動団体が主体となって企画運営を行い、行政は人的支援や広報支援によるサポートを行っている。		54
	地域の人材の育成と活用	道の駅「望羊中山」における観光業務委託(シーニックバイウェイプラザin中山峠の管理運営、各種情報発信など)	平成20年度	喜茂別町	商工会からNPO法人きもべつWAOに対して観光業務委託をしている。主な内容としては、観光全般の支援、中山峠のトイレ清掃、iセンターでの情報発信等。		75
観光振興	農産物など地場産品を活用した魅力づくり	北のまるしえ	平成20年7月5日、6日	〔主催〕しりべしサミット・ウェルカムプロジェクト実行委員会〔協力〕後志支庁サミット推進会議・北海道洞爺湖サミット道民会議	後志地域の新鮮で高品質な後志の食材等を世界にアピールすることを目的として、真狩村まっかり温泉駐車場にて「北のまるしえ」を開催。物販ブースでは、購入する方が会話をしながら、取れたための野菜などを量り売りし、フードコートでは、後志の素材のうまさを生かしたメニューが提供され、2日間で延べ2,800名の方々が来場された。	ほとんどの自治体において地域活動団体への金銭的な支援は直接できないが、自主財源を確保するための情報提供等は適宜行われている。	76
	エリアのきめ細かな情報の発信	しりべしシステム事業との連携(HP等の媒体活用による情報受発信)	平成20年度	後志支庁、 小樽開発建設部	「しりべしシステム」では、地域だよりとして各自治体からのイベント情報等を随時提供している。また、シーニックバイニセコ羊蹄エリアのサイトリニューアルについても、お薦め景観ポイントやシーニックイベント情報等の提供を検討中。		77
	地域のとのふれあいを大切にした観光の推進	国道393号の愛称公募	平成20年度	国道393号愛称募集委員会	平成20年12月4日に赤井川村役場で開催された国道393号(小樽市～赤井川村～倶知安町を結ぶ約60kmの幹線道路)愛称募集委員会での選考・投票の結果、国道393号の愛称は「メーブル街道393」と決定。沿線にイタヤカエデをはじめとするカエデ類が多く植生し、秋の紅葉時期には葉が黄金色になり風景が見事であること、カナダの「メーブル街道」に対抗した「日本のメーブル街道」として名乗ることの効果などが選定の理由となった。		78
その他	エリア全域を対象とした「環境」に対する取り組みの推進	エキノコックス駆除に向けた調査等	平成20年度	倶知安町、蘭越町、京極町、ニセコ町、喜茂別町	ニセコ羊蹄地域が国際的な観光地へ発展するための環境整備のひとつとして、人間と野生動物が安全に共存できる状況をつくるための生態系修復の試み。今年度は新たに喜茂別町及びニセコ町へエリアを拡大展開し、寄生されたキツネのフンに含まれるエキノコックスの抗原(排泄物)の有無に基づいて寄生率を求めた。エリア代表者会議、及び行政連絡会議においても周知・協力体制の構築を図っており、エリア全体の取り組みとしての展開につながることを期待する。	エキノコックス駆除活動については、羊蹄山麓エリアの5自治体(蘭越、ニセコ、喜茂別、京極、倶知安)にて予算付けがされるなど、地域全体の取り組みとして認知されてきた。	★42
	シーニックバイウェイの地域内外への浸透に向けた取り組みの推進	ルートサインの試行設置による効果検証	平成20年度	小樽開発建設部	ニセコ羊蹄エリアを訪れる旅行者および地域住民における同エリアがシーニックバイウェイのルートであることの認識度向上のため、数種類のサイン案を試行的に設置し、アンケート等による効果把握を経て、詳細な試行設置方針を決定する。	シーニックバイウェイ北海道の浸透についても、地域活動団体等とうまく連携を図りながら活動を展開しているが多く、倶知安町では総合計画にもシーニックバイウェイ活動の推進が位置づけられている。	★79
	「北海道洞爺湖サミット」に向けた取り組みの実施	おもてなしクリーンアップ運動の連携事業「しりべしクリーン作戦」	平成20年5月23日	留寿都村、喜茂別町、後志支庁	サミットを通じて、管内を訪れる皆様を、ゴミのない綺麗な沿道でお迎えするために、国道230号で隣接する喜茂別町、留寿都村の住民・関係団体、北海道洞爺湖サミット羊蹄山麓地域安全協力会、(社)北海道産業廃棄物協会後志支部などの皆様のご協力を得て実施。当日は、留寿都村・喜茂別町あわせて、300名以上の参加者により45リットルごみ袋 約50袋分のごみを回収した。	サミット開催に向けて官民協働となって各種おもてなしプロジェクトが展開され、成果をあげた。サミット終了後も無理のかからない適切な内容での活動の継続が必要である。	★80
		花いっぱいでサミットお出迎えプロジェクト(喜茂別町・留寿都村連携)	平成20年6月1日	留寿都村、喜茂別町、小樽開発建設部倶知安道路事務所	国道230号沿道へのマリーゴールド約2万本の植栽。喜茂別町の参加者と留寿都村の参加者が一緒に作業をしながら交流が育まれた。また前日には、留寿都村高校の生徒たちのボランティアで、道の駅や赤い靴公園などにも花が植えられた。		★5
		花でお迎えinルスツふるさと公園事業	平成20年6月8日	留寿都村	ルスツふるさと公園フラワー園に、サミット参加国の花や木を植樹。植えた花木は、イタリア:ツツジ、イギリス:イヌバラ、ドイツ:ヤグルマ草、ロシア:ヒマワリ、フランス:ユリ、アメリカ:オダマキ。日本:桜、カナダ:カエデ		★81

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート	報告者:支笏洞爺ニセコルート代表 泉谷 清	報告年月:2009/3/31
------------------	-----------------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	●人材育成の取組 ・次世代への人材育成を目的とし、シーニックナイト2009の取組について、参加した小学生や教育機関等へのアンケート調査を行った。今後の連携や参画の拡大への課題を抽出し、次年度に向け勉強会を4回行った。 ・シーニックナイト2009をきっかけに、エリア個別活動から、ルート全体の活動としての認識共有や実施体制の連携が強化された。また、複数回にわたる勉強会やルート会議の開催により、3エリアが顔を合わせて議論・交流する機会が増えたほか、他エリアへ足を運び活動を見学することで新たな発見や交流の輪が広がる良いきっかけとなった。 ●地域へのルート活動の更なる浸透 ・支笏洞爺ニセコルートを訪れる来訪者や地域住民に対して、シーニックバイウェイ北海道の指定ルートであることを認識してもらい、長期間人々の記憶に残り愛されるようなルートのロゴマーク案の作成を目的とし、ルート内で検討会を行った。ルートにある地域資源などをヒントに、目的・用途に合わせ数パターンの案が出されたが、引き続き時間をかけて熟考していくこととしている。 ・各地域団体によりさまざまな取り組みが行われており、活動を継続することで少しずつ取組の幅が広がり、善意で手伝ってくれる人が増えている。また比較的行政機関との連携も積極的に図られている。一方で、後継者や人材の不足や地域内への活動周知徹底、運営資金の捻出が困難などといった課題もあげられており、今後のさらなる検討が必要である。	

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート	報告者:札幌開発建設部、小樽開発建設部、室蘭開発建設部	報告年月:2009/3/31
------------------	-----------------------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	ルート活動の浸透に向け、行政連絡会議の場を活用した情報提供や情報共有の徹底を図るとともに、個別ヒアリングを実施し、自治体の広報誌等を活用した地域への周知を図るなど連携体制を構築している。また、人材育成としては、地域活動団体の支援として、活動への参加や助成金情報の提供等による人的支援及び事務局補助として各関係行政職員が積極的に関わるようになってきている。 ・円滑な活動事業の推進については、内容如何により、親会（推進協議会）レベルでの調整が必要と思われる案件がある。今後も各機関の連携を進めながらルート活動の支援に取り組んでいきたい。 【ウェルカム北海道】 ・過年度に引き続き、行政連携による情報発信・人的支援の定着化が見られた。 ・ルート活動の浸透については、まずは各機関が有するネットワークを適宜活用した形での情報発信（グループウェア内の情報提供等）により取り組んでいるが、シーニックバイウェイ北海道制度の認知度向上がさらに必要と思われる。 【洞爺湖エリア】 ・洞爺湖エリアを訪れる旅行者および地域住民に対して、同エリアがシーニックバイウェイのルートであ	

平成20年度 大雪・富良野ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

(2)地域活動に関する報告(大雪・富良野ルート)

ルート名称:大雪・富良野ルート				報告者: 代表 山崎 博幸				報告年月:2009/3/31	
種類	方針	方策	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観づくり	大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、親しむ	北海道らしい雄大な景観を美しく見せる	1	ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月27日(日)10:00～12:00 旭川空港周辺: 4月26日(土)10:00～12:00上富良野町:5月11日(日)10:00～12:00	約200人	A - 1	ルート景観をより良く見せるために、活動を継続して実施するとともに、来訪者へのPRを充実させる。 また、ルート全体での景観保全やPRを行うためのルール等を検討し、広域で展開する。
		大雪山・十勝岳連峰への眺望性を高めるために、阻害要因の除去や道路施設の整備を行う	1	ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月27日(日)10:00～12:00 旭川空港周辺: 4月26日(土)10:00～12:00上富良野町:5月11日(日)10:00～12:00	約200人	A - 1	
			2	JRと国道敷地の除草活動	NPO法人グラウンドワーク西神楽	平成20年6月20日・6月28日 9:00～15:00	約20人	A - 5	
		ビューポイントを整備して大雪山・十勝岳連峰の眺めを楽しめるようにする	2	JRと国道敷地の除草活動	NPO法人グラウンドワーク西神楽	平成20年6月20日・6月28日 9:00～15:00	約20人	A - 5	
		大雪山・十勝岳連峰への眺望性を確保するためのルールの整備を進める		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		
	波状丘陵地の田園景観を保全する	田園景観保全のための仕組みを観光と関連を持たせながら検討する	3	各種オーナー性の実施	赤麦の会、深山峠観光開発振興会、かみふらの十勝岳観光協会	通年			農業景観を保全する「オーナー性」については、継続して実施できている。オーナー性の成功事例は、他地域で波及できるように、情報共有する。波状丘陵地の田園景観の保全に向けて、地域農業との連携等も視野に入れ、取り組みを推進する。
		田園景観を保全するためのルールなどの検討を行う		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		
		田園景観を整えるためにさまざまな農業施設を景観にも配慮されるようにする							
	花人街道としての景観を整える	地域の原風景としての景観を保全するための研究を行う		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		花の植栽活動やゴミゼロキャンペーンは、継続して実施し花人街道としての景観保全の推進を行う。また、個別で実施している花の植栽は、ルートで情報共有し、全体としての花の演出・ルートづくりを検討する。 ゴミゼロキャンペーンは、より多くの地域・人が関わる活動として取り組みを推進する。
		沿道の関係地域全体で花による沿道景観の演出を行う	4	花の植栽活動	東川町花倶楽部、深山峠観光開発振興会、上富良野町商工会	5月～6月	約200人(総数)		
		花人街道として田園部、市街地を含めた景観形成の方針を検討する		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		
		沿道の景観阻害要因に対しての修景計画の策定を行う		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		
		森林景観を保全するための活動計画の策定を行う		検討・ルールづくり・研究等	は活動を実施する上で、	旭川景観倶楽部を中心に随時	検討を実施。		
		ルート全体の情報共有化と連携の強化を図る	5	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会、富良野エコミュージアム	5月～11月(一部通年)		A - 6	
			6	中間法人事務局機能の強化に向けた検討	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	通年	中間法人理事8名		
		地域の情報発信力を強化し、情報媒体の多彩化を図る	★7	バリアフリーマップの検討	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	通年	H21、5月頃発行予定		

	農業・観光・商業の連携と協働による地域づくり		1	ゴミゼロキャンペーン	大雪・富良野ルート	西神楽:4月27日(日)10:00～12:00 旭川空港周辺:4月26日(土)10:00～12:00上富良野町:5月11日(日)10:00～12:00	約200人	A - 1	農業・観光・商業の連携と協働が具体的に形になりつつある取り組みについては、継続的に取り組みを実施し、具体的な成功事例として成果を残すとともに、ルート全体で情報共有する。
		地域の様々な分野の業界と資源を活用し総合力を高める	★10	冬期集住・二地域居住事業の実施	NPO法人グラウンドワーク西神楽	通年	冬期集住モニター10名	A - 4	
			14	上富良野産の農産畜産物をつかった加工品・商品の検討	237花倶楽部	通年			
		多面的で魅力のあるルートの開発と紹介を行う	★11	2度目のハネムーンをテーマとした冬のツアーの開催	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	1月22日～1月24日	2組4名		
			★10	冬期集住・二地域居住事業の実施	NPO法人グラウンドワーク西神楽	通年	冬期集住モニター10名	A - 4	
	地域の自然・文化・歴史を共通の資産として保全活動を推進	大雪山・十勝岳連峰の原生林や貴重な野生生物遺産の保全・保護と監視を進める	15	旭岳の管理	大雪山自然学校(NPO法人ねおす)	5月～11月			旭岳を活動エリアとして、大雪山自然学校(NPO法人ねおす)が積極的な取り組みを展開している。大雪山自然学校(NPO法人ねおす)のノウハウや活動を、ルートで情報共有し、広域での展開や連携を目指す。
		自然の保全・保護に関する情報発信や啓蒙活動を行うとともに学術調査研究に協力する							
		歴史的建造物等の地域の歴史文化遺産、北海道遺産などの利活用を図る							
		地域の自然・文化・歴史を活用した教育プログラムを推進する	16	子供向けの自然教室を実施	大雪山自然学校(NPO法人ねおす)	通年			
			17	ウィンターサーカスと連携し、雪の授業を開催	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	西神楽:1月26日、上富良野:2月8日	約35名(総勢)		
	ユニバーサルデザインの推進	シーニック活動団体、行政などへのユニバーサルデザインの提案を行う							ユニバーサルデザインの理念や概念について活動団体や地域住民への普及を推進させる。また、具体的な取り組みを実施し、成功例を積み上げることで、ルート全体への波及についても検討する。
		地域におけるユニバーサルデザインの啓蒙活動を行う	★7	バリアフリーマップの検討	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	通年	H21、5月頃発行予定		
			5	ユニバーサルデザインを取り入れた情報拠点の設営・運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター	5月～11月		A - 6	
	田園型リラクゼーション観光の充実	田園型リラクゼーション観光を充実させる	★11	2度目のハネムーンをテーマとした冬のツアーの開催	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	1月22日～1月24日	2組4名		平成20年度は観光旅行者が減少する冬のツアーを試験的に実施した。今後は、冬期ツアーの継続開催も視野にし、大雪・富良野ルートらしい田園型リラクゼーション観光の具体的な取り組みを推進し、成功事例を積み上げる。
		もてなしのシーニックバイウェイを充実させる	5	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会、富良野エコミュージアム	5月～11月(一部通年)		A - 6	
			★11	2度目のハネムーンをテーマとした冬のツアーの開催	(有中)シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	1月22日～1月24日	2組4名		
		来訪者と農業生産者をつなぐしくみを検討する	5	西神楽と上富良野の情報拠点にて、地域農産物を販売	西神楽夢民村、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月		A - 6	

観光振興	農業と連携した観光のしくみづくり	地域の農産物の新たな流通ルートを検討する	5	西神楽と上富良野の情報拠点にて、地域農産物を販売	西神楽夢民村、かみふらの十勝岳観光協会	5月～11月		A - 6	情報拠点を核に、地域農産物のブランド化を目指した取り組みを推進する。地域の農業団体も、シーニックバイウェイの活動に、多く関わってもらえるような活動を検討し、具体的な取り組みを展開する。
		ルートのコミュニティビジネスを興すための検討を進める	5	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会、富良野エコミュージアム	5月～11月（一部通年）		A - 6	
			★10	冬期集住・二地域居住事業の実施	NPO法人グラウンドワーク西神楽	通年	冬期集住モニター10名	A - 4	
			3	各種オーナー性の実施	赤麦の会、深山峠観光開発振興会、かみふらの十勝岳観光協会	通年			
			9	ウィンターサーカスの開催	ウィンターサーカス実行委員会	2月7日（土）、2日（日） 17:00～20:00	約2000人（全会場合計）	A - 3	
	シーニック・ランドオペレーション機能の充実	シーニックバイウェイの情報網と発信機能を充実させる	5	情報拠点の運営	西神楽夢民村、循環型社会立案サポートセンター、かみふらの十勝岳観光協会、富良野エコミュージアム	5月～11月（一部通年）		A - 6	情報拠点が中心となり情報発信を行っているが、今後は様々なメディアを活用した情報発信も検討する。 統一的な情報発信を行うために、情報の整備やルール化も検討する。
		シーニック情報中枢機能を充実させる	6	中間法人事務局機能の強化に向けた検討	（有中）シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート	通年	中間法人理事8名		

※表中“★”はH20新規活動

ゴミゼロキャンペーンの開催

【概 要】平成17年度「集中活動月間」の活動としてはじまった「ゴミゼロキャンペーン」は、沿道の清掃活動を広域で連携して実施する活動。平成20年度で4回目の開催。毎年、4月下旬から5月30日までをキャンペーン期間として、旭川や上富良野で関係行政とも連携し、清掃活動を実施している。平成20年度の活動では、旭川土木現業所とも連携し、旭川空港線の清掃を行った。ゴミゼロキャンペーンには、毎年約200人以上が関わっている。

【日 時】西神楽：4月27日（日）10:00～12:00 旭川空港周辺：4月26日（土）10:00～12:00
上富良野町：5月11日（日）10:00～12:00

【場 所】西神楽・旭川空港周辺・上富良野町

【主 催】シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート

【参加人数】西神楽（約50人）、旭川空港周辺（約20人）、上富良野会場（約100人）



第5回 みち・沿道景観フォトコンテストの開催

【概要】 ルート内のキレイな景観写真の収集とシーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルートの認知度向上を目的に、みち・沿道景観フォトコンテストをルートで開催。今年度の開催で第5回目となり継続した取り組みとなっているが、今後は、継続して実施する為の活動資金の捻出が課題となっている。

【日時】 募集期間 9月～11月

【主催】 みち・沿道景観フォトコンテスト実行委員会

【協力】 富士フィルムイメージング株式会社、富士フィルムイメージテック株式会社

【参加人数】 募集作品数 約250点



第5回 グランプリ作品

審査会の様子



作品展の様子

ウィンターサーカス2009 in 大雪・富良野ルート

【概要】 第4回目となる雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」を開催。今回は、美瑛町との連携し、ルート内4会場・高速道路会場3会場で開催。各会場では温かい飲食の提供を行い、旭川発着の無料バスツアーや雪の授業(聖和小学校・上富良野町)の開催も連携して実施した。

【日時】 イベント：平成21年2月7日(土)、8日(日) 17:00~20:00

雪の授業：2月26日(月)-聖和小学校、3月7日(土)-上富良野町

【場所】 西神楽・美瑛町・深山峠・見晴台公園・砂川SA・岩見沢SA・輪厚PA

【主催】 シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート ウィンターサーカス実行委員会

【共催】 東日本高速道路株式会社(NEXCO東日本)、(社)北海道開発技術センター

【後援】 大雪・富良野ルート運営行政連絡会議、(有中)シーニックバイウェイ支援センター、旭川市、美瑛町、上富良野町

【参加人数】 西神楽会場(約200人)、美瑛町(約900人)、深山峠(約200人)、上富良野会場(約600人)
バスツアー参加者(61人/2日間) ※美瑛会場は周辺でも冬のイベント開催

※ウィンターサーカスは企業からの協賛と北海道地域政策補助金にて実施

西神楽会場の作品「WHITE CUBE」



深山峠会場の作品「にんじんの塔」



見晴台公園会場の作品「花ドレミ」



【概要】西神楽地域にて、NPO法人グラウンドワーク西神楽が空き家を活用した地域高齢者の冬期集住と都市住民の二地域居住（田舎暮らし）を連携した取り組みを実施。今年度は、地域高齢者と都市住民の意向調査及び冬期集住の試行、地域でのタウンミーティングを実施。コミュニティビジネスとしての展開を視野に、事業を継続して実施予定。

【日時】平成20年8月～3月、平成22年までの継続事業予定

【場所】旭川市西神楽

【主催】NPO法人グラウンドワーク西神楽

【協力】聖和老人会・有限責任中間法人シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート

【参加人数】冬期集住モニター（10名）、

※国土交通省の「『新たな公』によるコミュニティ創生支援モデル事業」として採択



【概要】 景観の保全と農作物の害虫の発生を予防することを目的に、JR敷地と国道敷地の除草活動を実施。地元NPOや市民委員会が中心となり、旭川開発建設部やJR北海道と調整を行い、約2キロ区間の除草活動を実施した。地域からの要望として「年数回の除草や除草作業の効率をあげる為には、除草敷地に草刈り機が入れるように整備することが必要」との意見があがっている。また、活動資金の捻出についても課題となっている。

【日時】 平成20年6月20日・6月28日 9:00～15:00

【場所】 西神楽

【主催】 NPO法人グラウンドワーク西神楽

【協力】 瑞穂市民委員会・聖和市民委員会

【参加人数】 約20名（65歳以上の高齢者）



【概要】 ルートの情報発信（地元おすすめ情報など）を目的として、西神楽・美瑛・上富良野・富良野の全4箇所にシーニック情報拠点を開設。各地では、大雪・富良野ルート内のパンフレット等の配布のほか、地元の農産物のPRなどそれぞれ特徴的なサービスやビジネスを展開。西神楽の情報拠点では、地元農産物（夢民村）の直売を行っており、平成19年は約220万円を売り上げ、平成20年は地元住民にも支えられ約420万円を売り上げることが出来た。情報拠点のコミュニティビジネスとしても、可能性が見えてきている。

【日時】 平成20年5月～11月

【場所】 西神楽・美瑛・上富良野・富良野

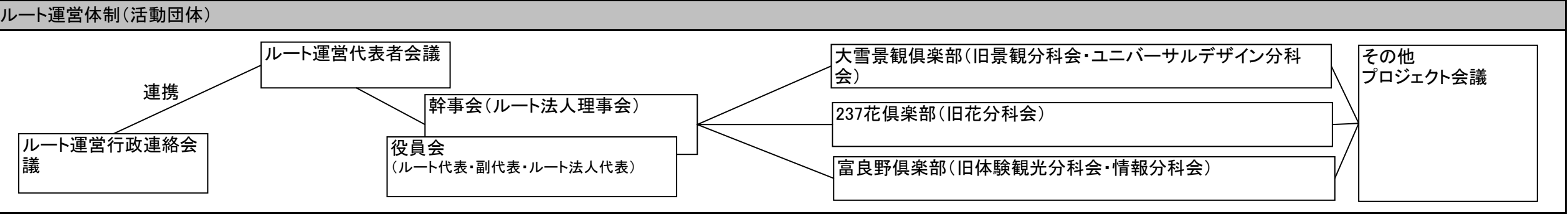
【主催】 西神楽：夢民村、美瑛：循環型社会立案サポートセンター、上富良野：かみふらの十勝岳観光協会、富良野：富良野エコミュージアム



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:代表 代表 山崎 博幸	報告年月:2009/3/31
-----------------	-----------------	----------------

活動団体
NPO法人グラウンドワーク西神楽／NPO法人ネイティブクラーク／NPO法人循環型社会立案サポートセンター／深山峠観光開発振興会／上富良野町商工会商業部会／NPO法人グリーンステージ／(社)かみふらの十勝岳観光協会／(社)フラワーランドかみふらの／かなやま湖の森2212／富良野エコミュージアム／(有)インターネット富良野／北のロマンスバイウェイ／東川花倶楽部／(社)旭川観光協会／(株)ラジオふらの／旭川都市田園会議／後藤純男美術館／大雪自然学校(NPO法人ねおす)／西神楽 夢民村 全19団体



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議	● 4/24											● 3/18	全体会議については、年2回しか開催出来なかった。その為、役員や幹事以外の団体の情報共有が不足していた。
	役員会										● 1/14			
	運営委員会	● 4/18						● 10/15						
	大雪景観倶楽部			● 6/6						● 12/25			● 3/10	
	237花倶楽部	● 4/16				● ● 8/7 8/27				● 12/22				
	富良野倶楽部													
	その他 ◆フォトコン審査会 ●ウィンターサーカス 会議							● 10/24	● 11/15	◆ ● 12/8 12/18	● 1/23			

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2009/4/7
-----------------	-------------	---------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施												● 3/24	メール等にて情報共有は実施していたが、実際の会議は1回ののみであった。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:大雪・富良野ルート		報告者:旭川開発建設部			報告年月:2009/3/31		
種類	方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観づくり	大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、親しむ	深山峠さくら園の駐車帯整備		旭川開発建設部	大雪山連邦を一望できる深山峠さくら園の駐車帯整備を実施。今後は、駐車帯の利活用を進めるために、広報や情報発信を行う。	今後もそれぞれが出来る取り組みを整理し、活動を推進するとともに、代表者会議への情報提供なども行い、連携を強化する。	★18
	波状丘陵地の田園景観を保全する	ゴミゼロキャンペーンへのゴミ袋や火ばさみ、ゴミ処理の支援、活動への参加	西神楽:4月27日(日)10:00～12:00 旭川空港周辺:4月26日(土)10:00～12:00上富良野町:5月11日(日)10:00～12:00	旭川開発建設部・旭川土木現業所・旭川市・東川町・上富良野町	ゴミゼロキャンペーンへの協力として、ゴミ袋の提供や火ばさみの貸し出し、ゴミの処理を実施。清掃活動も参加した。ゴミゼロキャンペーンへの総参加人数は、200人を超える取り組みとなった。さらに広域への展開を検討し、地域と連携し取り組みを推進する。	地域活動への支援を継続するとともに、各機関が実施できることを整理し、さらに活動を推進する。	1
		JRと国道敷地の除草活動への支援(ゴミ処理・JRとの調整 等)	平成20年6月20日・6月28日 9:00～15:00	旭川開発建設部	JRと国道敷地の除草活動への協力として、活動への参加やJRとの調整を実施した。除草活動として約2キロ区間の除草活動を実施することが出来た。地域との連携を強化し、活動の継続を目指す。		2
	花人街道としての景観を整える	花の植栽活動への苗の提供などの支援	5月～6月	旭川開発建設部・東川町・上富良野町	沿道の花植栽への協力として、花の苗などの提供、活動への参加を行った。花植栽により、良好な沿道環境を保つことが出来、来訪者からも好評であった。今後は、地域との連携を強化し、継続した取り組みに向けての検討などを行う。	花の植栽活動への支援については、できる範囲で継続して実施するとともに、ルートに参加していない団体の取り組みの情報収集・情報発信を行い、連携推進に協力する。	4
地域づくり	活力ある地域づくり	ウィンターサーカスのランドアート制作協力	2月7日(土)、2日(日) 17:00～20:00	旭川開発建設部・上川支庁・旭川市・美瑛町・上富良野町	会場周辺の除雪やランドアート制作に使う排雪の提供などを実施。今年度は雪が少なかったが、大型のランドアートを制作することが出来た。除排雪時期との関係が課題となっている。	継続して実施できる活動体制づくりに協力するとともに、広報活動への協力も強化し、成功事例を積み上げる。	9
		ウィンターサーカスと連携した雪の授業への協力	西神楽:1月26日、上富良野:2月8日	旭川開発建設部・上川支庁・旭川市・上富良野町	ウィンターサーカスと連携した雪の授業を、旭川市聖和小学校、上富良野町教育委員会と連携して実施。聖和小学校では全生徒20名、上富良野町では約15名の児童が雪授業に参加した。活動への支援として、スタッフとしての参加や参加者の募集などを行った。		
	コリドーとしての連携や参加意識の醸成	ルートのフォトコンテストへの広報等の協力	8月～11月募集	旭川開発建設部・上川支庁・旭川市・富良野市・東川町・東神楽町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村	ルートで実施してるフォトコンテストのチラシ配布など広報活動に協力した。今年度は、募集時期が遅れたが約150名ほどから応募いただいた。地域では活動の継続に向けての費用捻出が課題となっている。	より多くの方が参加できるように、広報活動への協力を強化する。	8
		フォトコンテストのパネル展開催協力	8月～11月募集	旭川開発建設部・東神楽町	フォトコンテストの入選作品展を旭川合同庁舎と東川町のコミュニティ施設で実施。多くの方に、フォトコンテストをPRすることが出来た。		
	農業・観光・商業の連携と協働による地域づくり	ウィンターサーカスへのプロジェクター貸し出しなどの支援	2月7日(土)、2日(日) 17:00～20:00	旭川開発建設部・上川支庁・旭川市・美瑛町・上富良野町	雪のランドアートの投影するプロジェクターなどの貸し出しを行った。プロジェクターの貸し出しやイベントへの参加など、できる範囲の支援を行うことで連携体制が強化された。	多面的な連携が実現できるように、農業・観光・商業に係る情報発信を活動団体に行い、連携を推進する。	9
	地域の自然・文化・歴史を共通の資産として保全活動を推進					今年度は、具体的な取り組み展開が出来なかったが、今後は、地域と連携し、具体の取り組みを展開する。	
	ユニバーサルデザインの推進	バリアフリーマップ検討において、過年度の調査業務等の情報提供	旭川開発建設部	通年	ルートでバリアフリーマップを作成するにあたり、過年度における旭川開発建設部で実施した調査結果などの情報提供を行った。平成21年度のゴールデンウィーク頃に、マップ発行を行う予定となっている。マップの更新や継続発行に向けての検討を地域ともに行う。	マップ作成時には、配布に協力するとともに、バリアフリーやユニバーサルデザイン活動を実施している、様々な団体の連携に向けて情報発信・共有を行う。	★7

観光振興	田園型リラクゼーション観光の充実					今年度は、具体的な取り組み展開が出来なかったが、今後は、地域と連携し、具体の取り組みを展開する。	
	農業と連携した観光のしくみづくり					今年度は、具体的な取り組み展開が出来なかったが、今後は、地域と連携し、具体の取り組みを展開する。	
	シーニック・ランドオペレーション機能の充実	情報拠点にパンフレットを提供		旭川開発建設部・上川支庁・旭川市・富良野市・東川町・東神楽町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村	情報拠点にて大雪・富良野ルートに関係する観光パンフレットを配布するために、情報拠点4箇所に関係市町村等のパンフレットを提供した。各情報拠点では、ルート内各地のパンフレットを扱うことで、広域の観光案内を実施することが出来た。	地域での取り組みについて、協力を継続するとともに、地域とともにシーニックに関する情報のルール化等を検討する。また、それぞれが独自で実施できる取り組みを整理する。	5
		道路情報板を活用したルートPR	通年	旭川開発建設部	道路情報板にシーニックバイウェイ及びルート名を表示。道路利用者の不特定多数にシーニックバイウェイ及びルートのPRを行うこと出来た。		19
		ルートHPへのリンクを実施	通年	旭川開発建設部・旭川土木現業所・旭川市・富良野市・東神楽町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠ラム	ルートのホームページへのリンクを、各機関のホームページに掲載。ルートのホームページPRに協力した。		20

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:代表 山崎 博幸	報告年月:2009/3/31
-----------------	--------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	ルート活動の推進として、ルート法人を中心に助成事業や補助金の申請を行い、積極的に活動資金の獲得を目指した。活動資金を獲得するために、中間法人を中心とした活動の推進体制の強化を図り、平成20年度は8件の事業申請及び申請協力を行い、内6件が採択となり様々な取り組み・事業が実施できた。具体の事業申請及び取り組みの中で、様々なノウハウをルートとして蓄積することが出来、活動資金獲得や法人運営に関する人材育成が一部で実施できた。今後は、ルート法人のノウハウ蓄積をもとに、個別団体への協力をルート法人として行い、さらなる人材育成を目指す。活動については、小さな成功を積み上げ、情報共有しルート活動のさらなる浸透を目指す。	

ルート名称:大雪・富良野ルート	報告者:旭川開発建設部	報告年月:2009/3/31
-----------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	行政連絡会議としてルート活動推進の為に、助成事業・補助金に関する申請書作成時の指導やアドバイスを地域団体及びルート法人に行い、活動資金獲得に協力するとともに地域団体の人材育成やノウハウ蓄積の協力を行った。今後も、地域団体等との連携を深め、お互いの得意分野を活かし、ルート活動の推進・人材育成を目指す。また、ルート活動を広く浸透させるために地域イベント広報では、チラシの配布等に協力した。さらに、多くの方にルート活動を浸透させるために、今後は広報活動の協力を強化する。	

平成20年度
東オホーツクシーニックバイウェイ
ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイ			報告者: 奥山英明					報告年月: 2009/3/24	
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観づくり	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙)	小清水原生花園、以久科原生花園の保全 (ネナシカズラの除去等)	1	小清水原生花園のゴミ拾い事業	小清水町観光協会	平成20年4月12日	50名		沿道清掃及び植栽活動が各エリアで活発に行われ、各方針の目標の達成を十分満たしているものと考えられる。今後は、類似した活動も多く見受けられることから、これらの活動を連携させることを念頭においてルート全体活動などに反映させたい。
		沿道の一斉清掃活動の実施	2	平成20年度網走湖クリーン作戦	網走市観光協会	平成20年4月26日	230名		
			3	美しい景観保全のための清掃事業	清里町商工会	平成20年5月17日	170名		
		沿道の植栽活動の実施	4	網走駅 花の駅長さん 花壇造成活動	北海道東藻琴高等学校	平成20年6月下旬 ～ 平成20年8月下旬	17名		
			★5	芝桜花街道にプランターを飾ろう!	大空町東藻琴観光協会	平成20年5月9日	50名		
			6	きよさと花みどりフェスタ2008	清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	平成20年6月1日 ～ 平成20年9月30日	5000名		
			★7	浜っこ広場集落緑化施設の整備事業	NPO法人 グラウンドワークこしみず	平成20年5月12、1516日、6月12、13日、8月26日	12名		
			8	ウトロ沿道に花を植えよう	しれとこウトロ・フォーラム21	平成20年6月21日、22日	130名		
			9	ガードレールの雪かきボランティア	しれとこウトロ・フォーラム21	平成21年2月19日 平成21年3月6日	80名		
	鮮明な四季の色彩を見せる (花の沿道の創出・連携や植物群生の保全)	網走湖周辺の水芭蕉の保全活動	—	—	—	—	—		事業予算等が少なかったことから、各方針別の活動がほとんど行われなかった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせずに実現できる取り組みを行ってきたい。
		花を見る木道づくりの推進	10	桜の名所づくりと既存の植栽地の維持管理	桜の名所を創る会	平成20年5月11日	158名		
		東オホーツク花カレンダーの作成	—	—	—	—	—		
		東オホーツク花シンポジウムの実施	—	—	—	—	—		
			11	女満別湖畔清掃	NPO法人 めまんべつ観光協会	平成20年4月25日	150名		
			★12	自然環境問題に関する勉強会	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成21年2月13日	80名		
	ビューポイントを再発見・創出する		★13	小清水原生花園、湊沸湖の環境整備を意識した自然体験教室	イッショ移住オホーツク	平成20年7月28日、29日	35名		各方針別の活動内容について、今年度はあまり活動が行われていない状況であるが、昨年度以前から、景観探しバスツアーの実施や広域のマップづくりなどが行われ、ビューポイントなどの情報が蓄積されてきている。今後は、蓄積された情報を各方針別の内容に活かしていくことが課題になるものと考えられる。
		景観探しツアーの実施	—	—	—	—	—		
		東オホーツクフォトコンテストの実施	14	オホーツクフォトグラファー・メン・ハース写真展	オホーツクフォトグラファー・メン・ハース	平成20年7月29日 ～ 平成20年9月30日	来場者数百名		
		ビューポイントの再発見及び創出とビューポイントマップづくり	—	—	—	—	—		
		ビューポイントパーキングの拡充と保全	—	—	—	—	—		
			★15	廃屋のある景観を観光資源とし、地域活性化に活用する研究	イッショ移住オホーツク	平成21年1月5日 ～ 平成21年2月8日	57名		

地域づくり	農・水・林・地域文化資源の発掘と連携	地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施	★16	チャソコプロジェクト Shinra・北大協働による コミュニティーアーキオロ ジー 実践イベントの開催	知床ナチュラリスト協会	平成20年9月13日 ～ 平成20年9月21日	600名以上		地域特産物の販売などが盛んに行われ、東オ ホーツク特有の資源を活かす活動が定着しつ つある状況となった。特に参加者なども多いこ とから継続した活動になることを期待する。
		地域特産物の販売やPR活動	17	ウトロ道の駅となりで「ウト ロマーケット」	うとろナチュラルクラブ	平成20年9月15日	約400名		
			★18	ポケットマーケットの開催	しれとこウトロ・フォーラム 21	平成20年10月12日	100名以上		
			19	シーニックデッキへGO！GO！ 秋の収穫祭	東オホーツクシーニックハイウェイ 連携会議	平成20年9月6日	500名	H - 3	
		先住民族フォーラムの実施	－	－	－	－	－		
		植林事業等の実施	－	－	－	－	－		
	楽しみの創出(東オホーツク文化・ライフの追求)	温泉情報マップの作成	－	－	－	－	－		各方針別の内容が特定な内容が多く、活動が 行えない状況になった。今後は、活動方針の 見直しを図るとともに資金をあまり必要とせず に実現できる取り組みを行っていきたい。
		文化施設等との連携による文化発信	－	－	－	－	－		
		フットパスづくり	20	美幌峠を活かした滞在型 の観光開発を担う実証実 験	東オホーツク美幌歩こう会	平成20年7月13日	15名		
		オホーツクバーボンの研究	－	－	－	－	－		
		外国人交流の実施と誘致	－	－	－	－	－		
		オホーツクのオリジナル食メニューの研究	－	－	－	－	－		
	地域連携による地域情報の発信	活動団体向けニュースペーパーの発行	－	－	－	－	－		ホームページなどで紹介できるような取組みが 多く、各エリアの地域情報や観光情報などを発 信することができた。特に方針の内容とは異 なっているが、フォーラム開催による活動情報 などの発信も行われていることから一定の成 果が得られたものと考えられる。
		HPの創出と各町観光情報とのリンク	★21	東シーニックハイウェイの 新たな情報発信コンテンツ制作 に関する調査・研究	NPO法人 産業クラスター 東オホーツク	平成20年8月18日 ～ 平成21年2月27日	アクセス数 2786件		
			22	地域SNS活用セミナーの開 催	NPO法人 オホーツク21世紀を 考える会	平成20年9月16日	103名		
			23	世界自然遺産・知床のイン ターネットラジオ局	Radio Kisar	随時更新			
			24	東オホーツクシーニックハイウェイ フォーラム	東オホーツクシーニックハイウェイ 連携会議	平成21年2月28日	50名	H - 1	
			25	大空町東藻琴商工会 商工 夏祭りの開催	大空町東藻琴商工会	平成20年8月7日 ～ 平成20年8月14日	400名		
			26	2009年度 版画カレンダー の作成会	まちづくりネットワークプロ ジェクトN5	平成20年10月4、11、25 日、 平成20年11月15、22日	6名		
			★27	移住定住事業	NPO法人 きよさと観光協 会	平成20年4月～ 平成21年2月			
			28	のんで踊ってやったるDAY 盆踊りカーニバル	小清水町商工会	平成20年8月2日	300名		
		シーニックデッキの創出	★29	ポケットパークの創出及び 運営	しれとこウトロ・フォーラム21	平成20年8～10月	100名(イベント時)	H - 2	

観光振興	風を感じさせるマグネットポイントの創出	流水茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出	19	シーニックデッキへGO！GO！秋の収穫祭	東オホーツクシーニックハイウェイ連携会議	平成20年9月6日	500名	H - 3	シーニックデッキの利活用を中心とした活動が行われた。これらの活動を継続することにより、新たな観光拠点の創出などが期待できる。
		サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃	—	—	—	—	—		
	各地毎の滞在メニューの創出・連携	東オホーツクウォーキングルートの選定とフットパスづくり	—	—	—	—	—		東オホーツクの自然を活かした活動が多く行われた。特に体験型のメニューとなりえる活動が多いことから今後の継続した活動に期待する。
		ホーストレッキングルートの選定	30	オホーツクホーストレッキングin網走2008	オホーツクホーストレッキング研究会	平成20年7月5日、6日	40名		
		エコツアーの連携や自然探索ツアーの実施	31	「神の子池」かんじきウォーキング	清里町ウインターフェスティバル実行委員会	平成21年2月15日	60名		
			32	斜里岳山麓・紅葉の森と遊ぼう	NPO法人きよさと観光協会、清里町商工会	平成20年9月28日	60名		
			33	美幌峠まつり 祈願祭	美幌観光物産協会	平成20年5月25日	300名		
			34	知床ファンタジア2009	知床ファンタジア実行委員会 知床斜里町観光協会 斜里町商工会	平成21年2月5日 ～ 平成21年3月21日			
	東オホーツク型観光の研究	馬やバルーン景観の研究	30	オホーツクホーストレッキングin網走2008	オホーツクホーストレッキング研究会	平成20年7月5日、6日	40名		事業予算等が少なかったことから、各方針別の活動がほとんど行われなかった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせずに実現できる取り組みを行っていきたい。
		東オホーツクトラベルの研究	—	—	—	—	—		
		東オホーツク観光塾の創出	—	—	—	—	—		
		東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり	—	—	—	—	—		

※表中“★”はH20新規活動

東オホーツクシーニックバイウェイ

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシーニックバイウェイフォーラム』

【内 容】地域に向けた東オホーツクルートの取組みの紹介や活動団体間の情報の共有を目的として、東オホーツクシーニックバイウェイフォーラムを開催した。登録活動団体の活動を報告することで、地域に東オホーツクルートの周知を図り、活動意識の向上と登録活動団体間の連帯感を図ることができた。

【日 時】平成21年2月28日(土) 15:00～17:30

【場 所】小清水町多目的集会施設(愛ホール)

【主 催】東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【協 力】北海道開発局網走開発建設部(後援)、東オホーツク行政連絡会議(後援)

【参加人数】15名

【来場者数】50名



▲フォーラムの参加者



▲特別公演の様子



▲口頭発表の様子



▲活動報告パネルを閲覧する参加者

『ポケットパークの創出及び運営』

【内 容】斜里町ウトロ中心街の交差点(神社山交差点)の余剰スペースを多目的に利用するためにデッキの設置、掲示板によるリアルタイム情報の発信やこれらのスペースを利用したイベントの開催などを行い、地元住民と来訪者(観光客)が共有できるコミュニケーションの場となる「ポケットパーク」をつくり、その運営・管理を行った結果、マーケットのようなイベントを開催することにより、活用意識の向上、地域との繋がりを深めることができた。

【日 時】平成20年8月～10月末

【場 所】斜里町ウトロ 神社山交差点

【主 催】しれとこウトロ・フォーラム21

【協 力】東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議、うとろナチュラルクラブ、
知床ナチュラルリスト協会、斜里町ウトロ自治会、斜里町

【参加者数】30名

【来場者数】100名ポケットマーケット(イベント開催時)



▲ポケットパーク



▲ポケットパーク



▲ポケットマーケットの様子(イベント)

東オホーツクシーニックバイウェイ

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシーニックバイウェイシーニックデッキの利活用』

【内 容】 東オホーツクシーニックバイウェイルート内に点在するシーニックデッキの利活用を目的として、清里町と小清水町の野菜直売所にて直売イベントを開催した。シーニックデッキが設置されてある清里町上斜里地区「コスモスロード駐車帯」にある清里田園工房ポプラ野菜直売所と小清水「じゃがいも街道」にある野菜直売所でイベントを行い、旅行者、地域の方々との交流の拡大を行った。その結果、販売などは盛況であったが、隣接するシーニックデッキを利用する方は少ないなどイベントを活用したデッキの周知を図ることができなかった。

【日 時】 平成20年9月6日(土) 10:00～15:00

【場 所】 上斜里フラワーロード駐車帯、じゃがいも街道(シーニックデッキ設置箇所)

【主 催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【共 催】 NPO法人きよさと観光協会、清里町商工会、小清水町観光協会

【協 賛】 上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会

【参加者】 30名

【来場者数】 延べ500名



▲仮設店舗による野菜直売所(清里)



▲シーニックデッキ利用状況(清里)



▲野菜直売所販売状況(小清水)

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート	報告者: 奥山英明	報告年月: 2009/3/24
----------------------------	-----------	-----------------

活動団体
■参加活動団体(42団体) 網走湖・水と緑の会、網走市観光協会、オホーツク21世紀を考える会、オホーツクホストレッキング研究会、特定非営利活動法人グリーンシーズ(緑の環境を保全する部会)、特定非営利活動法人産業クラスター東オホーツク、東京農業大学生物産業学部、有限会社ヒサダ観光、北海道立オホーツク公園、特定非営利活動法人夢の樹オホーツク、大空町東藻琴観光協会、大空町東藻琴商工会、大空町女満別商工会、オホーツクフォトグラファーマンベーズ、北海道東藻琴高等学校、まちづくりネットワーク・プロジェクトN5、特定非営利活動法人めまんべつ観光協会、藻琴川を美しくする会、上斜里フラワーロード推進協議会、特定非営利活動法人きよさと観光協会、清里町ウォーキング同好会、清里町商工会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、東オホーツクガイド協会、特定非営利活動法人グラウンドワークこしみず、財団法人小清水自然と語る会、小清水町観光協会、小清水町商工会、小清水町観光ボランティアガイド協議会、うとろナチュラルクラブ、斜里町商工会、しれとこウトロ・フォーラム21、特定非営利活動法人知床斜里町観光協会、特定非営利活動法人知床ナチュラリスト協会、Radio Kisar、桜の名所を創る会、東オホーツク美幌あるこう会、美幌観光物産協会、美幌CBC(コミュニティービジネスクリエイター)、美幌商工会議所青年部、特定非営利活動法人イッショ移住オホーツク、中村工務店野外活動倶楽部 (平成20年6月19日現在)

ルート運営体制(活動団体)

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議			● 6/19										幹事・事務局会議がルート全体活動の企画から執行までの決定機関になっており、活動団体間の活動の理解が不十分な状況になっている。
	幹事会	● 4/24		● 6/4				● 10/21				● 2/4		
	分科会													
	実行委員会													

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート	報告者: 網走開発建設部	報告年月: 2009/3
----------------------------	--------------	--------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施	←											→	会議開催はせず、MLにて団体・行政双方の活動情報等を随時配信

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート				報告者: 網走開発建設部	報告年月: 2009/3			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成19年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観づくり	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙)	メルヘンの丘ビューポイントパーキング清掃活動	4/30	網走開発建設部・大空町	「メルヘンの丘」を訪れる多くの観光客などの方々に「気持ち良く」オホーツクの自然景観を楽しんでもらえるように、道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」及びメルヘンの丘ビューポイントパーキング周辺の道路について、本格的な観光シーズンに向けて地域住民とともに清掃活動を実施。	地域の景観の価値を再認識し、活かす取組を行政側も積極的に実施してきている。一方で、連携が限定的なものにとどまっていることから、今後、シーニックのネットワークを活かした更なる連携を図り、効果的に推進していく必要がある。	35	
		道路付属物チェックシートによる道路付属物のチェック及び集約化・撤去	通年	網走開発建設部	管内全域において、道路付属物の必要性や景観への影響、集約・撤去の可能性をチェックシートでチェックし、すぐに対応可能な箇所については、撤去・集約等による改善を実施した。		★36	
		広域景観づくり推進協議会の設立	3/26協議会設立	網走支庁・網走市・大空町・美幌町・津別町小清水町・清里町・斜里町・網走開発建設部	東オホーツク地域の特徴的な景観を守り育てていくため、広域の連携・協働した取り組みを推進していくことを目的に、7市町で「東オホーツク広域景観づくり推進協議会」を設立し、行動計画の策定や、行政・民間事業者・活動団体・町内会・個人等の幅広い連携・協働した取り組みにより広域景観づくりを進めていくこととした。		★37	
	鮮明な四季の色彩を見せる (花の沿道の創出・連携や植物群生の保全)	北浜法面原生花園化協議会	5/28協議会 7/10現地観察 11/14圃場開墾・種まき	網走開発建設部・網走市	国道244号網走市北浜の法面等に自生する原生花園的な植物の種子を採集して育苗、植栽することで、世界自然遺産である知床半島やラムサール条約登録湿地である濤沸湖、また小清水原生花園、以久科原生花園など、自然環境及び景観の優れた地域へのエントランスを創出し、市民や観光客に潤いのある良好な景観を形成する。また、本活動へ参加することで環境意識の向上、地域振興への支援を図る。 今年度は、引き続き協議会の活動として、自然観察会、圃場の拡張・種まきを実施するとともに、新たに地元博物館の協力も得て地元小学校の総合学習と連携した観察会を行った。		38	
		ボランティアサポートプログラムによる花の植栽	6/22	網走開発建設部	知床の玄関口、ウトロの道路沿いに花を植え、美しい街並み景観の創出を図るため、地域の活動団体(しれとこウトロフォーラム21)と網走開発建設部とが協働で花植えを実施した。		8	
		地域と連携した除雪ボランティアの試行	2/19,3/6	網走開発建設部	知床特有の景観である流水のシーズンにおいて、地域観光支援と冬期ボランティアサポートプログラム可能性検討、駐車場周辺における安全対策を目的に、駐車場が設置されている3箇所において、地域住民、活動団体、地元建設会社、網走開発建設部等が協働し、歩道柵のボランティア除雪を実施した。		9	
	ビューポイントを再発見・創出する	知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験 (仮設ビューポイントパーキング設置)	2/3～23	国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域に関係する19機関・団体で	地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、旧道敷地を活用した仮設ビューポイントパーキングを設置することで、安全に流水景観を楽しめる場を提供し、流水を見るための路上駐車を抑制する取り組みを実験的に実施した。		★38	
		感動の径ビューポイントパーキングの整備	11/18完成	網走市	美しい田園風景や、濤沸湖、オホーツク海、知床連山を一望することができる「感動の径」の風景を安全に楽しめるよう、ビューポイントパーキング「知床連山が美しく見える丘 豊郷」を設置		★39	
	地域づくり	農・水・林・地域文化資源の発掘と連携 楽しみの創出(東オホーツク文化・ライフの追求)						
		地域連携による地域情報の発信	Aコープ斜里駐車場での地域イベントと連携した駐車場混雑情報発信	8/15	網走開発建設部・斜里町	夏季の観光シーズンに混雑が目立つ知床五湖やオシンコシンの滝駐車場の混雑緩和を目的に、知床へのエントランスポイントである斜里町市街地(Aコープ斜里駐車場)において、地域のNPO団体主催のイベントと連携した情報提供を行った。 情報提供は、イベントの一角に設置したブースにおいて、網走開発建設部職員と東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議メンバー等が駐車場2箇所の混雑状況及び近隣のビューポイントの紹介を行った。また、同様の情報をチラシで沿道の道の駅においても実施し、道路利用者の行動変化を促し混雑の分散化を図った。	メーリングリストを用いた活動団体・行政機関相互の活動情報、イベント情報等の情報交換が定着し、団体活動に行政機関の関係者(行政連絡会議担当以外も含む)の参加や後援等での行政機関の関わりが多く見られるようになった。	40
東オホーツクシーニックバイウェイフォーラム等団体活動への後援			2/28 他	東オホーツク行政連絡会議各機関	地域一般に向けた東オホーツクシーニックバイウェイの取り組みの紹介、活動団体間の情報共有・活動意識の向上、活動団体と関係機関との連帯感を高めることを目的として開催された東オホーツクシーニックバイウェイフォーラムについて、網走開発建設部及び東オホーツク行政連絡会議名で後援した。その他、団体活動について関係する行政機関で後援し、PRや参加者募集の効果を上げた。	24		
道路情報板を活用した「東オホーツクシーニックバイウェイ」表示、「カムイワッカシャトルバス乗換え」表示による地域情報発信			6月～10月	網走開発建設部	夏期観光シーズンに東オホーツクを訪れる観光客や地元の方に対し、シーニックバイウェイルートであることを知っていただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の道路情報板に「東オホーツクシーニックバイウェイ」の表示を実施。また、知床に向かうルート上では、シャトルバスへの乗り換え情報等も表示した。(交通規制等の実施日、悪天候時等はそれらの表示を優先)	41		
情報誌「SCENE」の配布			通年	東オホーツク行政連絡会議各機関	支援センターより発行される情報誌「SCENE」について、各役所、道の駅の他、観光関係施設等に配置し、観光客や地域住民にシーニックバイウェイ活動の周知・PRを行った。	42		
知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験 (地域住民からの冬期道路ヒヤリハット情報収集・発信)			2/3～23	国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域に関係する19機関・団体で構成)	地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、地域住民からヒヤリハット情報を収集し、道の駅、宿泊施設、HPで道路利用者へ情報発信することにより、冬期に知床を訪れる観光客に危険箇所の注意喚起を促し安全に観光してもらう取り組みを実験的に実施した。	★38		

観光振興	風を感じさせるマグネットポイントの創出	知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験 (仮設ビューポイントパーキング設置)	2/3～23	国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域に関係する19機関・団体で	地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、旧道敷地を活用した仮設ビューポイントパーキングを設置することで、安全に流水景観を楽しめる場を提供し、流水を見るための路上駐車を抑制する取り組みを実験的に実施した。	ビューポイントパーキングの効果が各機関に認識され、新たな取り組みがなされた。また、知床観光圏の取組が開始され、広域連携した観光施策の仕組みができた。今後、他のエリアを含め更なる連携を図り、効果的な観光振興を推進していく必要がある。	★38
		感動の径ビューポイントパーキングの整備	11/18完成	網走市	美しい田園風景や、霧沸湖、オホーツク海、知床連山を一望することができる「感動の径」の風景を安全に楽しめるよう、ビューポイントパーキング「知床連山が美しく見える丘 豊郷」を設置		★39
	各地毎の滞在メニューの創出・連携	知床観光圏整備計画の策定	2月計画提出	斜里町、清里町、羅臼町、標津町	知床を行政区域界や支庁界を超えた一つの観光圏としてとらえ、相互連携を強め、観光地の魅力増進と観光需要の増大を図るため、観光圏整備法に基づく協議会を設立。知床観光圏整備計画及び実施計画を策定した。平成21年度以降、計画に基づき4町及び関係団体が連携し一体的な取り組みを推進する。		★43
	東オホーツク型観光の研究						

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウエイルート	報告者:奥山英明	報告年月:2009/3/24
---------------------------	----------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・シーニックバイウエイ北海道の取り組み定着を踏まえ、持続的推進や一層のブランド形成を図るため、地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	当東オホーツクの活動団体は、地域別、活動団体別に見ると、多少取り組み状況に差が出てきましたが、全般的に安定した活動状況にあります。地域でのシーニックバイウエイの認知度は、広域マップの作成や各種事業のマスコミ報道など、ブランドとして高く認識されているものと考えます。また、活動団体を中心とした研究会、フォーラムを開催し、新たな人材育成にも取り組んでいます。次年度はマンネリ化を防ぎ、更なる活動を実施すべく事業計画を策定いたします。	

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウエイルート	報告者:網走開発建設部	報告年月:2009/3
---------------------------	-------------	-------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	「かわら版」、メーリングリストを用いた活動団体・行政機関相互の活動情報、イベント情報等の情報交換が定着し、団体活動に行政機関の関係者（行政連絡会議担当以外も含む）の参加や後援等での行政機関の関わりが多く見られるようになった。 行政主体の取組みとしても、シーニックバイウエイの主旨やアイデアを実現する取組みが始動してきており、各行政機関職員の意識の浸透は進んできていると考えられる。今後、更に行政とシーニック団体、行政機関相互の連携促進を図りつつ効果的な取組みを推進していく必要がある。	

平成20年度

宗谷シーニックバイウェイ活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 宗谷シーニックバイウエイ	報告者: 宗谷シーニックバイウエイルート代表 岩間 幹生	報告年月: 2009/3/31
---------------------	------------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括	
景観	雄大な自然景観及び宗谷らしい産業景観を魅せる	景観趣向に応じたビューポイントの発掘及びマップの作成	—	—	—	—	—	—	自分達の住んでいる地域を美しくすることで来訪者に対する”おもてなし”の心を表現する活動として清掃・植栽活動を行っている。 また捨てられている流木を利用したプランターづくり、冬の景観を楽しむスノーキャンドルイベントも行っている。 更に宗谷らしい道路景観を念頭に道路標識のあり方等について検討会を開催し意識醸成した。 今後、清掃・植栽活動については団体同士で連携を取り地域全体で取り組めるような体制づくりを目指したい。	
		景観のための地場産業との連携	—	—	—	—	—	—		
		環境保全を兼ねた清掃活動	1	クリーンキャンペーンりしり	利尻町建設協会・運輸協会利尻トラック部会	平成21年2月24日	約100名	SY- 3		
	魅せるための景観形成	春・夏・秋の季節に応じた植樹活動	2	稚内空港線植樹帯維持活動	フラワーマスター稚内	平成20年5月24日	約50名	SY- 5		
		アイスキャンドルやスノーキャンドルによる冬の色彩り	3	彩北わっキャナイト2009	稚内みなとまちづくり懇談会	平成21年2月14日	約300名	SY- 4		
		流木を活用したプランター作り	4	彩りプロジェクト2008	稚内みなとまちづくり懇談会・風のがっこう稚内	平成20年6月21日	約200名	SY- 2		
	より良い景観整備を目指す	商業看板等の規制など景観整備・保全のためのルール作り	★5	道路標識の検討	宗谷シーニックパイウェイ景観分科会	平成21年2月24日	11名	SY- 1		
		地元人としての『慣れ』から脱却し、宗谷を再認識するための勉強会の開催	—	—	—	—	—	—		
		地域コミュニケーション形成のための、ボランティアの育成	—	—	—	—	—	—		
環境	住民及び観光客の双方にプラスとなる自然環境及び経済(財布)の両立	宗谷シーニックマイレージ等オリジナルプログラムの提案	—	—	—	—	—	—	海岸清掃については平成17年より継続的に実施し、参加者数の規模も年々増えている。 今後、CO ₂ 削減(カーボンオフセット)や離島の外来種混入防止など環境配慮の社会情勢に連動した活動メニューを継続的に実施していく必要がある。	
		観光客への啓発活動	—	—	—	—	—	—		—
	自慢できる自然・雄大な自然景観の保全	環境保全のためのルール作り	—	—	—	—	—	—		—
		CO2削減のための植林及び植栽活動	—	—	—	—	—	—		—
		フェリー乗り場での泥落とし等外来種混入防止活動の実施	—	—	—	—	—	—		—
		環境保全を兼ねた海岸線での清掃活動	4	彩りプロジェクト2008	稚内みなとまちづくり懇談会・風のがっこう稚内	平成20年6月14日	約200名	SY- 2		
		道路等に散乱するゴミ処理問題に対する提案	—	—	—	—	—	—		—
	次世代が安心して豊かな生活を送れる地域づくり	宗谷の素晴らしさに対する認識向上及び啓発のための勉強会の開催	—	—	—	—	—	—		—
		地域の将来を担う子供たちへの教育活動	—	—	—	—	—	—		—
	宗谷人の心・温かさを感じる管内での情報発信	観光案内所及び情報ボランティア等コミュニケーションによる情報提供	6	観光案内所情報交換	宗谷シーニックパイウェイ情報分科会・各観光協会	平成20年6月2日(月)～9月30日(火)	11名	SY- 9		
		情報ボランティア等人材の発掘及び育成	—	—	—	—	—	—	—	

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称:宗谷シーニックバイウェイ	報告者:宗谷シーニックバイウェイルート代表 岩間 幹生	報告年月:2009/3/31
--------------------	-----------------------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
情報	広報戦略としての宗谷シーニックバイウェイデザインの統一	宗谷らしいシンボリックなデザインの提案		H18完了					エリア内の観光情報について各々観光協会同士が連携して情報交換をし、対外的に情報発信している。 またルート内メンバー相互の情報共有についてもニュースレター等にて実施している。 今後、地域内での連携事業をより密にしてい くためには、各々の活動団体が自主的に情報 発信していく必要があるのと、それらを効率良 くまとめ的確に発信していく地域全体の情報管 理体制を構築していくことが必要と考える。
		ルート及び情報発信場所における看板等の設置	—	—	—	—	—	—	
	既往の情報発信ツールを活用したオンリーワンな 情報発信	既存ツール(さいほくネット等)及び紙媒体(ポス ター等)を活用した情報発信	★7	チラシの作成	礼文観光協会	平成20年度	—	SY- 8	
		分科会活動及び団体活動の情報共有・連絡のた めのシステムづくり	8	ニュースレターの発行	宗谷シーニックバイ ウェイ事務局	平成20年度	—	SY- 10	
		オンリーワンな情報発信内容・方法の提案	—	—	—	—	—	—	
観光	観光客の心に残る宗谷の旅の演出づくり	情報収集方法の確立に向けたルールづくり	—	—	—	—	—	—	継続的に行われているイベントのほかに、新 たなイベントも実施されている。 これらは活動団体同士の連携により行われ ているものもあり、更に広がりを見せていく べきものとする。 今後、本道と離島とが連携したツアーやイ ベントづくりを行っていき、国内外問わず対外的 にPRしていく必要があるものとする。
		空港やフェリーターミナル等宗谷の玄関口におけ る花壇・プランター等の整備	—	—	—	—	—	—	
		「歩いて逢う」をテーマとしたフットパス等の参加 型・体験型メニューづくり	★9	最北フラワーマラソン 大会	最北フラワーマラソン 大会実行委員会	平成20年6 月7日	—	SY- 7	
		稚内北防波堤ドーム及び利尻のライトアップ等第 一印象のアピール	3	彩北わっキャナイト2 009	稚内みなとまちづくり 懇談会	平成21年2 月14日	約300名	SY- 4	
		景観趣向に応じたビューポイントマップの作成	—	—	—	—	—	—	
		ビューポイントを効果的に結ぶルートの策定	—	—	—	—	—	—	
		三脚台の設置及び大駐車場を備えたカメラ撮影 ポイントの整備	—	—	—	—	—	—	
		利尻島の桜等の植栽活動	—	—	—	—	—	—	
	『種』から育てる新たな観光の創出	景観整備及び環境保全を兼ねた海岸線での清掃 活動	4	彩りプロジェクト200 8	稚内みなとまちづくり 懇談会・風のがっこう 稚内	平成20年6 月14日	約200名	SY- 2	
		大牧草地を活用したパークゴルフ等のグリーン ツーリズムの実施	—	—	—	—	—	—	
		物産等の地域限定商品の発掘及び供給システム づくり	10	日本海VSオホーツク 海グルメバトル	北防波堤グルメまつ り実行委員会	平成20年9 月13日(土) ～9月15日 (月・祝)	6,440名	SY- 11	
	シーニックバイウェイ活動の継続及び地域への浸 透	外国人観光及び教育・体験旅行の誘致	—	—	—	—	—	—	
		活動継続に向けた意識改革のための勉強会の実 施	11	合同キャンペーン、宗 谷観光懇談会(意見 交換会)	宗谷シーニックバイ ウェイルート観光分科 会	平成20年9 月24日、平 成21年1月 27日～30日	計54名	SY- 14	
		シーニックバイウェイ活動に対する地域への浸透 のためのシンポジウム等の開催	★12	VISIT SOYAシンポジ ウム	宗谷シーニックバイ ウェイルート運営代表 者会議	平成20年10 月21日	約150名	SY- 6	
	観光振興・地域づくりイベント	地域の将来を担う子供たちへの教育活動を通じ た地域づくり	—	—	—	—	—	—	
			★13	2008WAKKANAIみ なとコンサート	稚内のみなとを考え る女性ネットワーク	平成20年8 月31日	約1,000名	SY- 12	
			★14	ポニーを走らす会	稚内のみなとを考え る女性ネットワーク	平成21年2 月8日	約200名	SY- 13	

※表中“★”はH20新規活動

道路標識の検討

- 【概要】「宗谷らしい道路景観」を考えていく上で、良好な沿道景観形成の観点から道路標識等の施設による景観への影響その他について考えるワークショップを開催した。
- 【日時】平成21年2月24日（日） 14:00～16:30
- 【場所】稚内総合文化センター 会議室－A
- 【主催】宗谷シーニックバイウェイ景観分科会、稚内開発建設部
- 【参加人数】11名



彩りプロジェクト2008

- 【概要】 夕来海岸を清掃し、拾い集めた流木でプランターを作製している。平成16年から流木プランターづくりを始め、翌17年より海岸清掃も同時に実施、現在まで継続されている。
- 【日時】 平成20年6月14日（土）海岸清掃と流木集め、6月21日（土）流木プランター制作
- 【場所】 夕来海岸、他
- 【主催】 稚内みなとまちづくり懇談会・風のがっこう稚内
- 【協力協賛】 環境省、稚内開発建設部、稚内土木現業所、稚内市、宗谷建設青年会、稚内青年会議所、稚内観光協会、北星学園大学、稚内高校、稚内商工高校、稚内大谷高校、他
- 【参加人数】 約200名

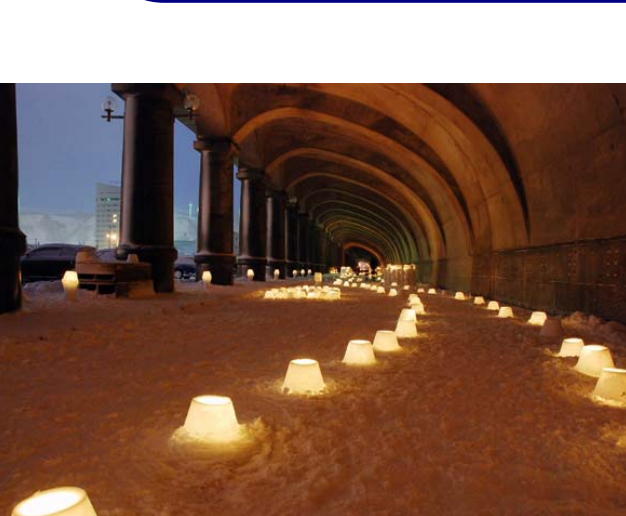


- 【概要】 利尻町一円の沿道と自然公園等の清掃（ゴミ拾い）を行った。町内の美化に貢献し、今後も継続して取り組む予定である。
- 【日時】 平成20年5月9日（金）
- 【場所】 利尻町内
- 【主催】 利尻町建設協会・運輸協会利尻トラック部会
- 【協力協賛】 利尻町観光協会
- 【参加人数】 約100名



彩北わっキャナイト2009

- 【概要】 稚内港北防波堤ドームを約1,000個のスノーキャンドルで彩る。
今年は結婚セレモニーを企画し、大勢の市民や観光客に祝福された。
各団体、町内会等との連携も3年目となり、昨年よりさらに全市的な活動となった。
- 【日時】 平成20年2月14日（土） 17:00～21:00
- 【場所】 稚内港北防波堤ドーム
- 【主催】 稚内みなとまちづくり懇談会
- 【協力協賛】 稚内市、宗谷支庁、稚内開発建設部、稚内異業種交流会、稚内観光協会、稚内北星学園大学、市内高校3校、市内町内会、大黒地区発展協議会、まちづくり稚内、中央商店街、稚内青年会議所、北武建設、藤建設、中田組、富田組、海上保安部、ヤスコ美容室、稚内のみなとを考える女性ネットワーク など
- 【参加人数】 準備 40名、来場者 300名



稚内空港線植樹帯維持活動

- 【概要】 稚内空港線（稚内空港前）の植樹帯を除草し、花植えを行った。観光客のお迎えとして一役を担った。
- 【日時】 平成20年5月24日（土）
- 【場所】 稚内空港線（稚内空港前）
- 【主催】 フラワーマスター稚内
- 【協力協賛】 稚内土木現業所、宗谷建設青年会、稚内観光協会
- 【参加人数】 約50名



VISIT SOYA シンポジウム

- 【概要】 外国人旅行者を誘致するにあたり、地域連携でどのような取り組みが良いかYOKOSO! JAPAN大使を招いてシンポジウムを開催した。
- 【日時】 平成20年10月21日（火）
- 【場所】 稚内市
- 【主催】 宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議
- 【後援】 稚内開発建設部・宗谷支庁・稚内市
- 【協力協賛】 未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会・稚内観光協会・稚内ホテル旅館業協会・有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター
- 【参加人数】 約150名



最北フラワーマラソン大会

- 【概要】 礼文観光協会も協賛して記念品（町外参加者のみ）を提供している。翌日の利尻島一周マラソン（利尻島悠遊賢人G ※ ゆうゆうらんになぐ）とも連携して実施している。
- 【日時】 平成20年6月7日（土）
- 【場所】 礼文島内
- 【主催】 最北フラワーマラソン大会実行委員会
- 【協力協賛】 礼文町観光協会・宗谷シーニックバイウェイ



宗谷シーニックバイウェイ

SOYA Scenic Byway

チラシの作成

- 【概要】 ロゴマークを入れる。延べ60,000部を印刷し、今後も継続していく予定である。
- 【日時】 平成20年度（年2回）
- 【場所】
- 【主催】 礼文観光協会
- 【協力協賛】 宗谷シーニックバイウェイ
- 【参加人数】



【概要】 情報分科会の連携事業として、6月～9月の4ヶ月間、毎月初日のマンスリー情報（計4回）、日祝臨休を除く毎日のデイリー情報（計98回）を計45名・団体に配信した。イベント・花情報（月毎・日毎）、トピックス・グルメ情報（月毎）、気象・宿の空室状況・漁の情報（日毎）などの観光情報を日々流し、交換した。

【日時】 平成20年6月2日（月）～9月30日（火）

【場所】 宗谷シーニックバイウェイルート内

【主催】 宗谷シーニックバイウェイ情報分科会、稚内・利尻富士・利尻・礼文・豊富・猿払各観光協会

◆◆ 2008年7月 今月のルート内情報 ◆◆
SOYA Scenic Byway Information at July 2008

	稚内市 Wakkanai City (稚内観光協会)	利尻富士町 Rishirifuji Town (利尻町観光協会)	利尻町 Rishiri Town (利尻町観光協会)	礼文町 Rebun Town (礼文町観光協会)	豊富町 Toyotomi Town (豊富町観光協会)	猿払村 Sarufutsu Village (猿払村観光協会)
トピックス Topic	◆稚内温泉「皇華」で入湯証明書を100円で販売中！デザインは2種類！ ◆フェリターミナル内の宗谷バス窓口で利尻・礼文の定期観光バス乗車券が購入できます。(5,450円～) ◆7月の日曜は19:26～19:03です	いよいよ本格的な夏を迎えます。姫泊山トレッキングコースがおすすめです。	 ハマナス	夏の花が咲きはじめる彩りの季節。トレッキング中の木陰や砂浜での涼みで癒しいシーズンがスタートします。 カンゾウ、ウスユキソ、シオガマの三人娘？が訪れる花を魅了します。	くやぶ公園オートキャンプ場より、キャンプ用レンタル用品も各取組の施設、手少でキャンプ（一式3,000円）も出来ます。キャンプ場周辺利用で、豊富温泉入湯施設利用、豊富山（標高1,000m）の登山も出来ます。利尻・礼文の定期観光バス（利尻・礼文の定期観光バス）の予約も出来ます。予約は2ヶ月前から、予約料は2,000円（税込）です。予約料は2ヶ月前から、予約料は2,000円（税込）です。	猿払村はホタルと豊かな自然の宝庫。オホーツクホタルロードとサルツバレンジロードで満喫！
イベント情報 Event Information	4～6日…北門神社大祭典 12～13日…エプロン・ノーザンロード・カーフェスティバル2008 (7日まで申込みでも参加可) TEL: 0163-83-1321、参加料500円 27日…北海鳥まつり（鬼島地区）	12日…初原山神社祭（鬼島） 13日…親子ふれあい歩こう会 (7日まで申込みでも参加可) TEL: 0163-83-1321、参加料500円 27日…北海鳥まつり（鬼島地区）	22日…いっぽん丸香湯 27日…ばいばいっくびいなる香湯	3・4日…ウスユキソ祭 (レブンスユキソ群生地9:00～16:00) 19・20日…水産祭 (豊富港特設会場11:00～14:00の予定)	31日…豊富温泉夏まつり開催予定！ お問い合わせは夏まつり実行委員会（TEL: 0162-82-1243、ニュー温泉開発ホテル）	19・20日…さるふつ観光まつり (場所：道の駅「さるふつ公園」) 19日は前夜祭、20日は増松村の特産品即売会や歌謡ショーなど、菊さんの声で賑わいます！
花の情報 Flower Information	◆前年…エゾカンゾウ、コノハネ、ネムロコウホネ、ハマナス、オウゴンアザミなど ◆後年…ノハナショウブ、エノサナエ、ハマナス、カンゾウ、ヒメアザミなど	毎年より花の咲き始めが早いです。セリ科の花が何種類も咲き始めています。これからツリガネニンジン、エゾカワラナデ、シオガマサミなど咲いてきます。	◆奇形碑公園ではハマエンドウ、ハマヒルガオが咲き始めました。 ◆奇形碑公園ではハマナス、エゾカンゾウが満開です。	レブンスユキソ等々の花が咲く エゾカンゾウは、低湿と湿の影でまたハナツツキと咲き始めた所です。誰かいたが咲くときを待っています。	サロベシ原生花園ではエゾカンゾウ、ユキアザミが満開です。ユキアザミは、エゾカンゾウが咲き始めました。 エゾカンゾウは、低湿と湿の影でまたハナツツキと咲き始めた所です。誰かいたが咲くときを待っています。	◆モクアザミの満開ではエゾカンゾウ、ユキアザミ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウなど ◆エゾカンゾウの満開ではエゾカンゾウ、ユキアザミ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウなど ◆その他海岸付近ではエゾカンゾウ、ハマヒルガオ、エゾカンゾウなど
グルメ情報 Gourmet Information	1日からムラサキウニ漁が始まります。おいしいウニを召し上げ！	5日よりコブシ漁が始まります。早起きして漁師さん達の漁風景を是非ご覧下さい。	利尻漁協奇形、仙道支所ではムラサキウニ、ハマナスが解禁となっております。コンブ漁は利尻漁協仙道支所では15日、利尻漁協奇形支所では20日から解禁となります。	ハフツウニがおいしさをパワーアップし漁が活気づきます。 ホッケの脂も絶好調！	◆稚内漁港では18日よりホッキの漁が始まります。日曜は7月上旬を予定！お問い合わせはTEL: 0162-82-1813	猿払のホタルは通年日本一。実もプリプリと美味！

ルート内はセーフティ&エコドライブで！
SOYA Scenic Byway

★★ 2008年7月28日 今日のルート内情報 ★★
Today's SOYA Scenic Byway Information

	稚内市 Wakkanai City (稚内観光協会)	利尻富士町 Rishirifuji Town (利尻町観光協会)	利尻町 Rishiri Town (利尻町観光協会)	礼文町 Rebun Town (礼文町観光協会)	豊富町 Toyotomi Town (豊富町観光協会)	猿払村 Sarufutsu Village (猿払村観光協会)
天気・気温 (～10時現在) Weather Temperature	21℃ ☀️ 暖かい Feel Warm	22.5℃ ☀️ 暖かい Feel Warm	21.4℃ ☀️ 暖かい Feel Warm	21℃ ☀️ 暖かい Feel Warm	26℃ ☀️ 暑い Feel Hot	20℃ ☀️ 暖かい Feel Warm
空室状況 accommodations	混雑 No Vacancy	余裕あり Vacant	余裕あり Vacant	余裕あり Vacant	余裕あり Vacant	余裕あり Vacant
漁の情報 Fishing Information	利尻コブシがおいしいコブシの漁が始まりました	海苔と鰯がコブシの漁が始まりました	奇形と仙道支所ムラサキウニの漁が始まりました	おいしいウニを召し上げ！	ホッキの漁が始まりました	ホタルとホタルの漁が始まりました
花の情報 Flower Information	稚内公園の短草の道ではキツリフネ、ヨツバヒヨドリ、チシマアザミ、エゾアカバナなどが咲いています。登り口の中央花壇や池の周りにはエゾカンゾウ、カンゾウ、ノリウツギ、ヨシツバキ、ヨシツバキ、ヨシツバキなどが咲いています。神社境内のオオハナリはそろそろ終わりの頃です。ミミコウリが咲き始めました。	◆富士野原ではエゾカンゾウ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウが満開です。ハマエンドウ、エゾアカバナ、アカバナエゾカンゾウが咲き始めました。	◆奇形碑公園ではハマエンドウ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウが満開です。ハマエンドウ、エゾアカバナ、アカバナエゾカンゾウが咲き始めました。	◆横濱原花園ではツリガネニンジン、エゾカンゾウ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウが満開です。ハマエンドウ、エゾアカバナ、アカバナエゾカンゾウが咲き始めました。	サロベシ原生花園ではモウセンゴケの花、ノリウツギ、ハイツツギ、タチギボウシ、ナガバノシロウレモコウ、ドクセリ、コバナシロウレ、ミカツキギサ、ソノバノキソトラノオ、トウゲキ、ウメバチソウ、ワレモコウ、ツリガネニンジン、タチギボウシ、チシマアザミなどが咲いています。	◆北オホーツク国立自然公園（カムイ川・モクウニ）では、タチギボウシ、エゾカンゾウ、エゾカンゾウが咲き始めました。
イベント情報 Event Information	◆今日の日は19:07です ◆8月2日・3日は「稚内みなと夏まつり」が開催されます。2日は北海道で「べんおどりや観光物産まつり」など、3日は観光物産まつりと花火大会などが開催されます	利尻島を一周する「利尻ファントムチックロード」！島のどこから見ても利尻山はファンタジーチック！	利尻島を一周する「利尻ファントムチックロード」！島のどこから見ても利尻山はファンタジーチック！	利尻島を一周する「利尻ファントムチックロード」！島のどこから見ても利尻山はファンタジーチック！	豊富町は日本最大の温泉祭典、良質な温泉と「道の駅」が魅力です。	猿払村の花「コケモロ」

外來種は、ルート内に「入れない」、やみに「捨てない」、これ以上「拡げない」！
SOYA Scenic Byway

宗谷シーニックバイウェイ

SOYA Scenic Byway

ニュースレターの発行

【概要】 イベント等が開催されたときに
ニュースレターを発行し、ルート
内の情報共有を図った。

今年度は1号、発行した。

【日時】 平成20年度

【場所】 メール

→ 宗谷シーニックバイウェイ
ルート内

【主催】 宗谷シーニックバイウェイ事務局



二回目の宗谷シーニックバイウェイ

平成18年4月18日シーニックバイウェイの認定を受けて、早いもので二年が経過しました。宗谷シーニックバイウェイでは「環境分科会」、様内の西岸の清掃・空港の花壇作りを行った「景観分科会」、6つの観光協会の案内所同士で情報交換を行いホームページ（宗谷シーニックバイウェイのHP）と連携した「情報分科会」と異業（業）にプログラムが多い「観光分科会」の四分科会から構成されています。

最北の観光シーズンもこの時期はひと段落して静かな時間を迎えます。この夏も観光客の入込み数は思わしくなく、来年に向けてまた頑張るしかありません。様内観光協会では、冬の観光振興事業が11月からスタートしました。今年は外国人（台湾）へチャレンジです。

報告① ルート代表者会議（7/25）

ルート代表者会議が7月25日様内観光協会の2階で開催されました。

- ①国交省補助日本風景街道事業「外国語パンフレット作成」の完成して配布中（4月）
 - ②新ルート認定：南へる天北オロロンルート（留前～軽延）（4月）
 - ③宗谷シーニックバイウェイビューポイントおよび特産品紹介事業（5月GWに副産市場にて）
 - ④シダボールS B Wドライブ観光一行の受け入れを実施（6月様内・礼文）
 - ⑤観光分科会（利尻・礼文・様内）で開催
 - ⑥地方の元気再生事業決定（内閣府）
 - 函館・大沼・噴火湾ルートとシーニックバイウェイ支援センターと宗谷S B Wの連携事業
 - ⑦ゆとりツーリズム事業について礼文町（川村さん）を中心に利尻・様内が加わり北海道観光振興機構が中心となり実施（4～10月）
- 以上の報告及び活動状況などが話し合われました。

報告② 観光分科会（9/24）

在京旅行会社を宗谷に招いての観光研修会が平成20年9月24日～26日の3日間にわたって開催されました。この事業は昨年度に引き続き開催されたもので8社12名の旅行会社の方々がお越しくださいました。

24日は様内会場にて、豊富町・星弘村・様内市の観光関係者が集まり商談会を実施。礼文町は時化でフェリーが欠航（残念）。翌25日は利尻島へ渡り視察や懇談会を行い26日帰路につかれました。それぞれの地域の取り組みや各事業者との懇談が行われ有意義な事業となりました。（写真は様内会場）

連絡① 事業（11/1）

私イトウの会で「元気な田舎づくり」講演会が開催されます。興味のある方ご参加ください。（本日です）

日時 11月1日 14:30～17:00
場所 鬼志別保育園（01635-2-3666）
内容 講演「近自然学と元気な田舎づくり」～山脇正俊氏～
パネルディスカッションには、湯浅優子さん（新得町）・前田ゆう子さん・イトウの会の小山さんと小泉さんが参加されます。

連絡② 会議（11/23-24）

シーニックバイウェイ北海道地域交流会議「全道フォーラム2008」が開催されます。皆さん参加しませんか？

・日時 11月23日～24日
・場所 札幌市外院（詳細地図参照）
基調講演は石田先生（つくば大学）が「シーニックバイウェイ北海道が目指すべきもの」と題して講演していただきます。
交流会も開催されます。（23日夜）



【ひとこと】

宗谷シーニックバイウェイの団体の皆様、しばしばのニュースレターを拝見して下さいます。不定期ですがあまり間隔が空かないように努力します。さて、観光分科会は甲斐屋を招いたようが「外国人」と「ゆとり」がキーワードになっています。この後予定しています宗谷シーニックバイウェイのワークショップでも、このテーマに触れて行きたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。



写真は豊富町大規模農地です。



VISIT SOYA ショッピング

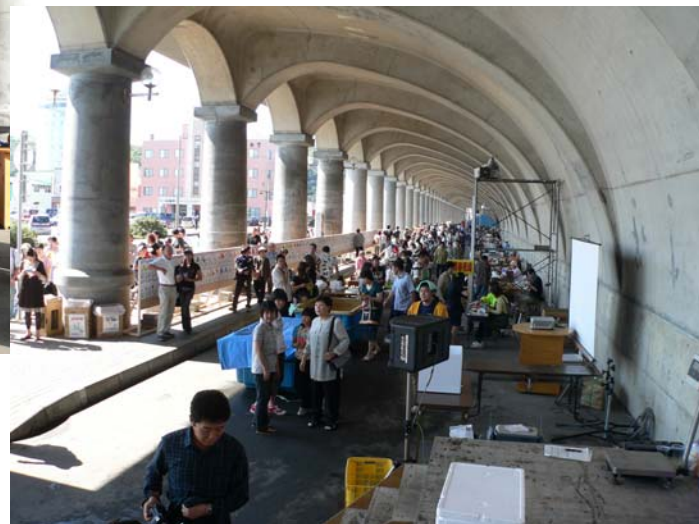
10月21日様内全日空ホテルでYOKOSO! JAPAN 大使の甲斐屋さんを招いて「外客の受入の初歩にあるもの」と題して講演を聴きました。大分県別府市の実例を混ぜながら日本人客が少ないから外国人客を取り込もうと考える止めた方がよいなど、宗谷の新たな取り組みに強く示唆をいただきました。

その後パネルディスカッションを様内市長・岩間様内観光協会会長・久保礼文観光協会会長・道徳理事長・和泉館閣建次長・かとうけいこさんと VISIT SOYA の目指すことを熱く語られました。〇〇

翌日、宗谷町、宗谷丘などを視察していただき、素晴らしい景観があると絶賛いただきました。

日本海VSオホーツク海グルメバトル

- 【概要】 地理的に日本海とオホーツク海に挟まれた稚内で、それぞれの海で水揚げされる食材を使った大鍋を食べ比べしてもらイベント。
- 【日時】 平成20年9月13日（土）～9月15日（月・祝）
- 【場所】 北防波堤ドーム（稚内港北防波堤ドーム特設会場）
- 【主催】 北防波堤グルメまつり実行委員会
- 【共催】 稚内観光協会・同青年部・稚内ホテル旅館業組合・稚内商工会議所女性部
- 【参加人数】 6,440名（3日間の延べ人数）



2008 WAKKANAI みなとコンサート

- 【概要】 稚内の観光名所であり、北海道遺産にも指定された歴史的建造物「北防波堤ドーム」を活用し、市民と共にみなとの重要性を考えつつ、最北の稚内の夏を楽しみ、かつこれらの稚内に夢と活気を与えるべく、住民主体の音楽会を開催した。
- 【日時】 平成20年8月31日（日）11:00～16:00
- 【場所】 北防波堤ドーム
- 【主催】 稚内のみなとを考える女性ネットワーク
- 【協力協賛】 稚内開発建設部、稚内市、FMわっぴー、稚内港湾事務所工事安全連絡協議会、北海道みなとの文化振興機構、他
- 【参加人数】 約1,000名



ポニーを走らす会

- 【概要】 冬の稚内の観光メニューとして、普段は郊外の牧場にいるポニーによる馬そり体験（主にちびっ子相手）を楽しんで貰う。
- 【日時】 平成21年2月8日（日）11:00～14:00
- 【場所】 稚内副港市場駐車場
- 【主催】 稚内のみなとを考える女性ネットワーク
- 【協力協賛】 稚内開発建設部、稚内市、稚内副港サービス、他
- 【参加人数】 約200名



合同キャンペーン、宗谷観光懇談会(意見交換会)

- 【概要】 キャンペーン：東京・名古屋のエージェントに対し、各地域のプレゼンテーションを行い、意見交換をした。
観光懇談会：首都圏のエージェント8社9名が稚内に来て宗谷の観光関係者と意見交換を行った。
- 【日時】 キャンペーン：平成21年1月27日（火）～1月30日（金）
観光懇談会：平成20年9月24日（水）
- 【場所】 キャンペーン：東京、名古屋
観光懇談会：稚内市内
- 【主催】 宗谷シーニックバイウェイルート観光分科会
- 【参加人数】 キャンペーン：10名
観光懇談会：8社9名、宗谷38名



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 宗谷シーニックバイウェイ	報告者: 宗谷シーニックバイウェイ代表 岩間 幹生	報告年月: 2009/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

活動団体
NPO法人映像コミュニティ・ムーブユー／猿払イトウの会／宗谷建設青年会／未来のくらしと宗谷路（ネットワーク）を考える会／利尻島を考える会／利尻富士町宿泊業組合／稚内観光協会青年部／稚内商工会議所／稚内青年会議所／稚内のみなとを考える女性ネットワーク／稚内ホテル旅館業組合／稚内みなとまちづくり懇談会／フラワーマスター稚内／稚内観光協会／豊富町観光協会／猿払村観光協会／利尻富士町観光協会／利尻町観光協会／礼文町観光協会／宗谷バス株式会社／ハートランドフェリー株式会社 (計21団体)

ルート運営体制（活動団体）

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議				● 7/25								● 3/25	観光案内所の情報交換や外国人のもてなし、フットパス事業などが好評を得ており、更なる向上に向けた取り組みを継続していく
	幹事会							● 10/7	● 11/4(正副代表)	● 12/12				
	分科会				● 7/18(観光)			● 10/7(観光)		● 12/12(観光)		● 2/24(景観)		
	—													

ルート名称: 宗谷シーニックバイウェイ	報告者: 稚内開発建設部	報告年月: 2009/3/31
---------------------	--------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施												● 3/24	行政内でもPR不足が感じられるためより連携を深め、情報を密にしてい

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:宗谷シーニックバイウェイ			報告者:稚内開発建設部		報告年月:2009/3/31		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	魅せるための景観形成	稚内空港線植樹帯維持活動	平成20年5月24日	(協力協賛)稚内土木現業所	稚内空港線(稚内空港前)の植樹帯を除草し、花植えを行った。観光客のお迎えとして一役を担った。	魅せるための景観形成活動として清掃・植栽活動、また流木を利用したプランターづくり、冬の景観を楽しむスノーキャンドルイベントに協賛している。	2
		彩北わっキャナイト2009	平成21年2月14日	(協力協賛)稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	稚内港北防波堤ドームを約1,000個のスノーキャンドルで彩る。今年は結婚セレモニーを企画し、大勢の市民や観光客に祝福された。各団体、町内会等との連携も3年目となり、昨年よりさらに全市的な活動となった。	更に宗谷らしい道路景観を念頭に道路標識のあり方等について検討会を開催した。	3
		彩りプロジェクト2008	平成20年6月21日	(協力協賛)環境省、稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	夕来海岸を清掃し、拾い集めた流木でプランターを作製している。平成16年から流木プランターづくりを始め、翌17年より海岸清掃も同時に実施、現在まで継続されている。	今後、地域全体で連携し取り組んでいく体制づくりを目指したい。	4
	より良い景観整備を目指す	道路標識の検討	平成21年2月24日	稚内開発建設部	「宗谷らしい道路景観」を考えていく上で、良好な沿道景観形成の観点から道路標識等の施設による景観への影響その他について考えるワークショップを開催した。		★5
環境	自慢できる自然・雄大な自然景観の保全	彩りプロジェクト2008	平成20年6月14日	(協力協賛)環境省、稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	夕来海岸を清掃し、拾い集めた流木でプランターを作製している。平成16年から流木プランターづくりを始め、翌17年より海岸清掃も同時に実施、現在まで継続されている。	環境保全を兼ねた海岸線での清掃活動を実施している。これらと連携し支援していける体制づくりを目指したい。	4
観光	観光客の心に残る宗谷の旅の演出づくり	彩北わっキャナイト2009	平成21年2月14日	(協力協賛)稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	稚内港北防波堤ドームを約1,000個のスノーキャンドルで彩る。今年は結婚セレモニーを企画し、大勢の市民や観光客に祝福された。各団体、町内会等との連携も3年目となり、昨年よりさらに全市的な活動となった。	継続的に行われているイベントのほかに、新たなイベントも実施されている。これらは活動団体同士の連携により行われているものもあり、更に広がりをを見せていくべきものと考え、今後、国内外問わず対外的にPRしていく必要があるものと考えられ、これらと連携し取り組んでいく体制づくりを目指したい。	3
		彩りプロジェクト2008	平成20年6月14日	(協力協賛)環境省、稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	夕来海岸を清掃し、拾い集めた流木でプランターを作製している。平成16年から流木プランターづくりを始め、翌17年より海岸清掃も同時に実施、現在まで継続されている。		4
	シーニックバイウェイ活動の継続及び地域への浸透	VISIT SOYAシンポジウム	平成20年10月21日	(後援)稚内開発建設部、宗谷支庁、稚内市	外国人旅行客を誘致するにあたり、地域連携でどのような取り組みが良いかYOKOSO！JAPAN大使を招いてシンポジウムを開催した。		★12
	観光振興・地域づくりイベント	2008WAKKANAIみなとコンサート	平成20年8月31日	(協力協賛)稚内開発建設部、稚内市	稚内の観光名所であり、北海道遺産にも指定された歴史的建造物「北防波堤ドーム」を活用し、市民と共にみなとの重要性を考えつつ、最北の稚内の夏を楽しみ、かつこれらの稚内に夢と活気を与えるべく、住民主体の音楽会を開催した。		★13
		ポニーを走らす会	平成21年2月8日	(協力協賛)稚内開発建設部、稚内市	冬の稚内の観光メニューとして、普段は郊外の牧場にいるポニーによる馬そり体験(主にちびっ子相手)を楽しんで貰う。		★14

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:宗谷シーニックバイウェイ	報告者:宗谷シーニックバイウェイ代表 岩間 幹生	報告年月:2009/3/31
--------------------	--------------------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	今年度の取組みの中では観光案内所の情報交換、外国人のもてなし、フットパス事業などがあり、どの取組みも好評が得られた。次年度ではそれらの情報に関するデータベースの作成などの活動が求められてくる。また看板の整備に関しては、標識に関するワークショップの開催の効果もあって意識が高く、とくに道路標識の多言語化に向けた取り組みに関し、更なる活動の展開が期待されている。 また外国人のもてなしに関しては外語通訳や体験メニューのホスト役などに関する人材、またフットパス事業では案内ガイド役の人材などについて育成の充実が求められてくる。	

ルート名称:宗谷シーニックバイウェイ	報告者:稚内開発建設部	報告年月:2009/3/31
--------------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	今年度は外国人のドライブ観光に関する事業を行ったが、観光地や名称のPRが十分とはいえず、行政間での連携を強化して誘致活動や受け入れ態勢の整備を進めることが必要である。また官民協働での花植え活動などの長期継続を求めているが、現状として地域住民の参加が少なく、会議をはじめメルマガやニュースレター、各自治体の広報誌なども活用し、個別具体的な情報までを密に提供できる体制を考える必要がある。 これら地域連携に対し、双方を効果的に運用できる調整役の人材育成の充実が求められてくる。	

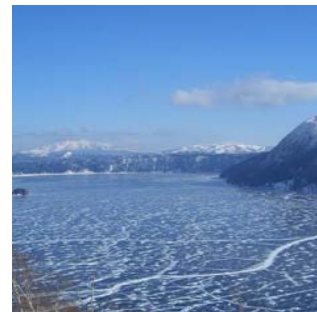
平成20年度 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ ルート活動報告



釧路湿原エリア



阿寒湖エリア



弟子屈エリア



中標津エリア

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ	報告者: ルート運営代表者会議 会長 桐木茂雄	報告年月: 2009/3/31
-----------------------------	-------------------------	-----------------

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
1 地域の資源を知る・活かすことによる、多様な道東ブランドづくり ＜知る・活かす＞	1) 地域を知る・活かす(自然・景観・産業)	① まちを知る・人を知る	1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ営業・通年(一部冬期休業)、スタンブライザー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	○ 地域を知る・活かす(自然・景観・産業) 毎年恒例となっている沿道花壇への植栽、各種情報発信のほか、シーニックの森参加に向け「既存植樹活動への協力」を行った。また、道東ウォーキングツーリズム検討では、中標津エリアが中心となり、既存のフットパス等の散歩道のネットワークづくり、独自の市街地ウォーキングルート検討を行っている。「歩く」という新たな滞在型観光を顕在化するために、非常に有益な活動を行った。また、「温泉を知る・活かす」においては、シーニックカフェ内にある足湯のみの活動である。阿寒温泉や川湯温泉、摩周温泉等、本ルートには多彩な温泉資源があり、今後の活動展開を検討する必要がある。
			★2	既存植樹活動への協力	北海道、弟子屈町、釧路東ロータリークラブ	平成20年5月17日、5月25日、5月28日	3040人		
			3	沿道花壇への植栽	阿寒町花いっぱい運動推進協議会、阿寒湖温泉連合町内会、NPO法人阿寒観光協会等らづくり協議、弟子屈町沿道連合会、弟子屈町町内会、阿寒湖温泉連合会、実行委員会、中標津町商工会青年部、中標津町商工会女性部、株式会社日専連中標津 青年会、標高町延寿館町内会	平成20年6月6日、6月15日、6月21日、6月24日、6月25日	1433人		
			4	ルートマガジンの発行(年2回)	情報広報部会	年2回発行	各5000部		
			5	ルートHPを活用した全国の一般ユーザーとの双方向交流	情報広報部会	通年	月間平均6000アクセス	KU-2	
			6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検と清掃」	ボランティアネットワークチャレンジ隊	平成20年6月29日	52人	KU-4	
			7	道東ウォーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウォーキングイベントの企画試行6月22日、フットパス先達事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人	KU-3	
			★2	既存植樹活動への協力	北海道、弟子屈町、釧路東ロータリークラブ	平成20年5月17日、5月25日、5月28日	3040人		
			★8	弟子屈滝探検・摩周岳登山	ルート運営委員会	平成20年10月11日、10月19日	7人		
			④ 温泉を知る・活かす	1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「Home Sweet Home」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、ホームスイートホーム	平成20年4月28日～11月3日	月100人	
	1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「Pan de Pan」		パン・デ・パン	通年	月150人	KU-1		
	2) 食を知る・活かす	⑤ 体験活動を知る・活かす	6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検と清掃」	ボランティアネットワークチャレンジ隊	平成20年6月29日	52人	KU-4	○ 文化や歴史を知る・活かす 昭和初期の写真を中心に展示する「懐かシーニックパネル展」の開催が中心である。本年度は、阿寒湖エリアのシーニックカフェパン・デ・パンにおいて、開催された。パン・デ・パン及び、鶴雅グループが所蔵する“懐かしいもの”と一緒に展示され、新たな展示形態での実施が行われた。ホテル等からも、写真展開催への申し出があることから、今後は、一般向けに貸し出しを行う体制を整えたい。
			7	道東ウォーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウォーキングイベントの企画試行6月22日、フットパス先達事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人		
			1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ営業・通年(一部冬期休業)、スタンブライザー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			9	シーニックカフェ開場牧場2008	中標津町商工会青年部	平成20年7月24日～27日	600人		
			1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「Home Sweet Home」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、ホームスイートホーム	平成20年4月28日～11月3日	月100人	KU-1	
			1	シーニックカフェ「Pan de Pan」	パン・デ・パン	通年	月150人	KU-1	
			1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「レイクスバたかだ」	シーニックカフェ「レイクスバたかだ」	通年	月100人	KU-1	
			1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「ジェラートシレット」	シーニックカフェ「ジェラートシレット」、中標津町商工会青年部	通年	2000人	KU-1	
			1	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)・シーニックカフェ「カフェイヨウダイ」	シーニックカフェ「カフェイヨウダイ」、中標津町商工会青年部	平成20年4月28日～10月31日	2500人	KU-1	
10			摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験運動企画「シーニックカフェ摩周」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成20年8月25日～9月7日	800人			
3) 文化や歴史を知る・活かす	① 地域の各種文化を知る・活かす	10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験運動企画「懐かシーニックパネル展」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成20年8月25日～9月7日	300人			
		11	懐かシーニックパネル展inパン・デ・パン	パン・デ・パン	平成21年2月1日～28日	150人			
		10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験運動企画「懐かシーニックパネル展」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成20年8月25日～9月7日	300人			
		11	懐かシーニックパネル展inパン・デ・パン	パン・デ・パン	平成21年2月1日～28日	150人			
		② 地域の歴史を知る・活かす							

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
2 個性・強みとなる地域資源や、魅力ある4エリアをつなぎ・整えることによる、競争力のある地域(ルート)づくり ＜整える・つなぐ＞	1)地域と資源をつなぐ“道(沿道景観)”を整える	①沿道景観を整える	6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「阿寒湖エリア・幸運の森商店街清掃」	NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構	平成20年4月24日	50人	KU-4	〇地域と資源を繋ぐ“道(沿道景観)”を整える ・毎年恒例となっているリレー清掃であるが、本年度からは釧路湿原エリアでの開催もあり、4エリア全てでのリレー清掃が実施された。単に沿道景観を整えるだけの目的ではなく、相互に協力し連携しあうことで、エリア間でのコミュニケーションに繋がっており、活動メンバーの精神的な繋がりを強くしている。 ・シーニックカフェでは、沿道景観に配慮した「花と緑のサイン」の製作検討が行われた。これは、カフェ統一のサインを設ける事によるシーニックカフェのブランド化に向けた第一段階でもあり、自然に配慮したサインの提言ともいえるものであり、今後のルート活動における影響は大きいだろう。 〇物語のあるみちをつくる ・摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験では、摩周湖へのマイカー乗り入れを規制し、シャトルバスにより観光客をご案内した。バス内では、弟子屈町民のボランティアガイドが、弟子屈の成り立ちやアイヌの歴史文化について、観光客にご案内し、地域に対する理解を深めた。 ・また、中標津エリアが中心となり実施している「道東ウオーキングツーリズム推進検討」では、地域の歴史文化に配慮した市街地ウオーキングづくりが行われている。
			6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「弟子屈エリア 摩周湖グリーンウオーク2008」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部、ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	平成20年6月7日	200人	KU-4	
			6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃・道東ウオーキングツーリズム推進検討「中標津エリア シーニックグリーンウオーク」	中標津町商工会青年部、中標津町商工会女性部、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	平成20年6月22日	30人	KU-3・4	
			6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	ボランティアネットワークチャレンジ隊	平成20年6月29日	52人	KU-4	
			1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)～沿道景観に配慮した「花と緑のサイン」の製作	シーニックカフェ25店舗(Pan de Pan、レイクスバトカド、Home Sweet Home、ジェラートシレット、カフェカイウダグイ)、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	カフェミーティング実施:5/12、12/10	11人	KU-1	
			12	沿道花壇への植栽	阿寒町花いっぱい運動推進協議会、阿寒湖温泉連合町内会、NPO法人阿寒観光協会まちづくり機構、弟子屈町自治会連合会、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部、中標津町商工会女性部、株式会社日専連中標津 青年会、釧路市虹別市街町内会	平成20年6月6日、6月15日、6月21日、6月24日、6月25日	1433人		
		②物語のあるみちをつくる	10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験	摩周屈斜路社会実験協議会(弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、弟子屈町)	平成20年8月25日～9月7日	6000人		
			7	道東ウオーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウオーキングイベントの企画試行6月22日、フットパス先達事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人	KU-3	
	2)観光客を受け入れられる環境を整える	①おもてなしの質を整える	1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ重要:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ重要:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	
	3)地域の魅力(資源)をつなぎ感動を提供する	①地域の魅力(景観)をつないだ感動ドライブコースの提供	9	シーニックカフェ開陽台牧場2008	中標津町商工会青年部	平成20年7月24日～27日	600人		〇観光客を受け入れる環境を整える ・シーニックカフェルト連携実施が該当する。ルート内の5つの既存店舗が連携し、定期的にミーティングを開催しながら、観光客の視点に立ち、自分達に何ができるかを検討し、実行に移している。今後、シーニックカフェで蓄積されたおもてなしのノウハウを、ルート内の他飲食店に波及させていくが課題である。 〇地域の魅力(資源)をつなぎ感動を提供する ・各エリアでのモデルルート検討会では、エリア内での一泊二日の滞在ルートの検討とそれに必要な検討事項の整理が行われた。最終的に、ルート内での二泊三日の周遊ルート作成を行った。今後は、観光インフラの整備や情報発信手法の検討など、検討結果を様々な活動へ繋げていきたい。 〇各種情報を伝える・蓄える ・HPやルートマガジンによる情報発信などに加え、シーニックカフェにおいては、シーニックおもてなしブックの試行が行われた。これは、観光案内の虎の巻であり、カフェスタッフが、観光案内を行う際に使用するものである。カフェスタッフの教育にも活用され、単に観光案内だけではなく、今後は色々な使い方が考えられ、ルート全体のホスピタリティ向上へ繋げていきたい。 ・また、「道東3空港を活用した地域活性化策検討委員会」では、ひがし北海道3空港の連携強化と今後の活性化策の検討がおこなわれ、連携イベントとして、釧路空港・女満別空港・根室中標津空港において、活性化イベントが行われた。ルートとしては、委員会メンバーとしての参加であったが、今後もこういった広域的な事業に積極的に参加し、シーニックパイウェイの利点を活かしていきたい。
			1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ重要:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ重要:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日・10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			7	道東ウオーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウオーキングイベントの企画試行6月22日、フットパス先達事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人	KU-3	
			★13	釧路湿原エリア検討会(モデルルート検討)	釧路湿原エリア・ルート運営委員会	平成21年2月12日	6人		
			★14	弟子屈エリア検討会(モデルルート検討)	弟子屈エリア・ルート運営委員会	平成21年2月19日	13人		
			★15	阿寒湖エリア検討会(モデルルート検討)	阿寒湖エリア・ルート運営委員会	平成21年2月20日	9人		
			★16	中標津エリア検討会(モデルルート検討)	中標津エリア・ルート運営委員会	平成21年2月9日・20日	9人		
			★17	2泊3日滞在ルート検討	ルート運営委員会・各エリア	平成21年3月10日	18人		
	4)各種情報を伝える・蓄える	①HP・各種広報誌等による情報提供	4	ルートマガジンの発行(年2回)	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部、NPO法人阿寒観光協会まちづくり機構、(有)阿寒ネイチャーセンター、グリーンウオーク実行委員会、シーニックカフェ25店舗(Pan de Pan、レイクスバトカド、Home Sweet Home、ジェラートシレット、カフェカイウダグイ)	年2回発行	各5000部		・HPやルートマガジンによる情報発信などに加え、シーニックカフェにおいては、シーニックおもてなしブックの試行が行われた。これは、観光案内の虎の巻であり、カフェスタッフが、観光案内を行う際に使用するものである。カフェスタッフの教育にも活用され、単に観光案内だけではなく、今後は色々な使い方が考えられ、ルート全体のホスピタリティ向上へ繋げていきたい。 ・また、「道東3空港を活用した地域活性化策検討委員会」では、ひがし北海道3空港の連携強化と今後の活性化策の検討がおこなわれ、連携イベントとして、釧路空港・女満別空港・根室中標津空港において、活性化イベントが行われた。ルートとしては、委員会メンバーとしての参加であったが、今後もこういった広域的な事業に積極的に参加し、シーニックパイウェイの利点を活かしていきたい。
			5	ルートHPを活用した全国の一般ユーザーとの双方向交流	情報広報部会	通年	月間平均6000アクセス	KU-2	
			18	ルートHP内フォトライブラリーの運営	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	通年	月間平均6000アクセス		
			19	英語版ルートHPの運営	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	通年	月間平均6000アクセス		

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
2	個性・強みとなる地域資源や、魅力ある4エリアをつなぎ・整えることによる、競争力のある地域(ルート)づくり <整える・つなぐ>	②観光案内施設等による情報提供	1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ営業: 通年(一部冬期休業)、スタンブラリー実施: 8月25日～10月31日、カフェミートアップ実施: 5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			★20	道東3空港を活用した地域活性化策検討委員会	道東3空港を活用した地域活性化策検討委員会(事務局: 国土交通省航空局)	会議: 平成21年2月21日 3空港連携イベント: 平成21年3月20日～22日	36人		
		③各種情報の蓄積(アーカイブづくり)	10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験運動企画「シーニックカフェ摩周」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成20年8月25日～9月7日	800人		
			4	ルートマガジンの発行(年2回)	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部、NPO法人阿寒観光協会等づくり協議会、(社)阿寒ネイチャーセンター、グリーンウォーク実行委員会、シーニックカフェ5店舗(Pan de Pan、レイクスバに於て、Home Sweet Home、ジエラントシムス、カフェオレ日クラブ)	年2回発行	各5000部		
			5	ルートHPを活用した全国的一般ユーザーとの双方向交流	情報広報部会	通年	月間平均 6000アクセス	KU-2	
			18	ルートHP内フォトギャラリーの運営	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊	通年	月間平均 6000アクセス		
3	1) 自然と共に生きる意識を育てる	①地域(こども達)への環境教育	6	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	ボランティアネットワークチャレンジ隊	平成20年6月29日	52人	KU-4	○自然と共に生きる意識を育てる ・釧路湿原音探検&清掃では、小型集音機を使って、湿原を音から楽しみながら、子ども達に対する環境教育が行われた。 ・また、摩周ウィンターフェスタ2009においても、親子共同による雪像作りコンテストなどが行われ、寒い冬を楽しむイベントが開催された。 ・来訪者(観光客)へのインタープリテーションにおいては、摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験では、地域住民(ボランティアガイド)から、観光客に対して、弟子屈の歴史や成り立ちなどについての説明があった。道東ウォーキングツーリズム推進検討についても、中標津エリアの歴史や自然を配慮したウォーキングルートづくりが進められている。
			21	摩周ウィンターフェスタ2009	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成21年2月14～15日	2000人		
		②来訪者(観光客)へのインタープリテーション	10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験	摩周屈斜路社実験隊y議室(弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、弟子屈町)	平成20年8月25日～9月7日	6000人		
			7	道東ウォーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウォーキングイベントの企画試行6月22日、フットバス先導事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人	KU-3	
	2) 自然を保全・活用する仕組みを創る	①自然を守るルールをつくる	10	摩周屈斜路環境にやさしい観光交通実験	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会	平成20年8月25日～9月7日	6000人		
		②自然を保護・育成する仕組みをつくる	★2	既存植樹活動への協力	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊、弟子屈町商工会青年部、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部	平成20年5月17日、5月25日、5月28日	3040人		
	3) 循環型社会のビジネスモデルを育てる	①コミュニティビジネスを育てる	1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)～シーニックカフェ「Home Sweet Home」	弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、ホームスイートホーム	平成20年4月28日～11月3日	月100人	KU-1	
			5	ルートHPを活用した全国的一般ユーザーとの双方向交流	情報広報部会	通年	月間平均 6000アクセス	KU-2	
		②地域経済循環の仕組みを創る	1	シーニックカフェルト連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	Clear Stream Scenic Cafeプロジェクト、シーニックカフェ	カフェ営業: 通年(一部冬期休業)、スタンブラリー実施: 8月25日～10月31日、カフェミートアップ実施: 5月12日、12月10日	30人	KU-1	
			7	道東ウォーキングツーリズム推進検討	中標津町商工会青年部	ウォーキングイベントの企画試行6月22日、フットバス先導事例調査7月27日・10月25日、検討会2月9日・2月19日	15人	KU-3	

※表中“★”はH20新規活動

シーニックカフェ連携（地域のおもてなし“拠点”づくり）

【概要】ルート内の既存飲食店を活用したシーニックカフェでは、シーニック情報、地域情報、観光案内などを積極的に行う「地域のおもてなし“拠点”づくり」を行っている。カフェスタッフミーティングを実施し訪問者の視点で、私たち（地域住民）が出来るおもてなしを検討している。今年度は、検討結果を踏まえて「カフェマップの発行」「カフェスタンプラリーの開催」「シーニックおもてなしブック（観光案内の虎の巻）の試行」「カフェオリジナルグッズの製作検討」「カフェ共通サインの製作検討」「カフェの目的と役割の検討（ルールづくり）」等を行った。今後の継続的な実施に向けた、活動資金の捻出と活動の裾野をいかに広げるかが課題である。

【日時】カフェは通年営業（一部冬期休業あり）、スタンプラリー実施（8/25-10/31）、カフェミーティングの実施（5/12 14:00-16:00、12/10 12:00-15:30）

【場所】シーニックカフェ（阿寒湖エリア：パン・デ・パン、ホテルレイクスパたかだ、弟子屈エリア：ホームスイートホーム、中標津エリア：カフェカイヨウダイ、ジェラートシレット）カフェミーティング（5/12釧路圏摩周観光文化センター、12/10中標津町経済センター）

【主催】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ Clear Stream Scenic cafe推進プロジェクト、シーニックカフェ（パン・デ・パン、ホテルレイクスパたかだ、ホームスイートホーム、カフェカイヨウダイ、ジェラートシレット）

【協力】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 情報広報部会

【活動団体名】弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、ボランティアネットワークチャレンジ隊

【参加人数】30人 【来場人数】8400人（カフェ利用者総計）



ジェラートシレット



カフェカイヨウダイ



パン・デ・パン



シーニックカフェおもてなブック



カフェ共通のパンフレットラック



ホテルレイクスパたかだ



ホームスイートホーム



カフェミーティングの様子



スタンプラリーの様子



カフェマップ

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

Clear Stream Scenic Byway

ルートHPを活用した全国的一般ユーザーとの双方向交流

【概要】ルートで運営しているHPを活用し、全国的一般ユーザーとの双方向交流を図っている。情報を閲覧するだけではなく、交流が生まれるHPづくりをめざしている。31名の地域住民がライターとなり、それぞれが趣味や特技を活かした「旬の情報発信」を行っている（HPは、CGI形式を採用し、共同で更新できるシステム）。本年度はライターズミーティングを実施し、今後のHPづくりの方向性を検討した他、Yahoo!ブログ内にポータルブログを開設し、更なる全国的一般ユーザーとの交流を図った。（仕組みは下記概要を参照）、今後は、更なるライターの拡大とHPアクセス数増大に向けた検討を継続して行いたい。

【日時】通年（10月-1月ポータルブログによる試行実験、10/22ライターズミーティング）

【場所】<http://sbw.web-p.jp>、ライターズミーティング（10/22ニュー阿寒ホテル）

【主催】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 情報広報部会

【活動団体名】ボランティアネットワークチャレンジ隊、NPO法人阿寒観光協会、クリーンウォーク実行委員会、（有）阿寒ネイチャーセンター
弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、中標津町商工会青年部

【協力】31名の地域住民（釧路湿原エリア12名・阿寒湖エリア6名・弟子屈エリア5名・中標津エリア8名）

【参加人数】31名

【来場者数】月平均6000アクセス

■31名の地域ライター（一部紹介）

釧路湿原エリア12名



阿寒湖エリア6名



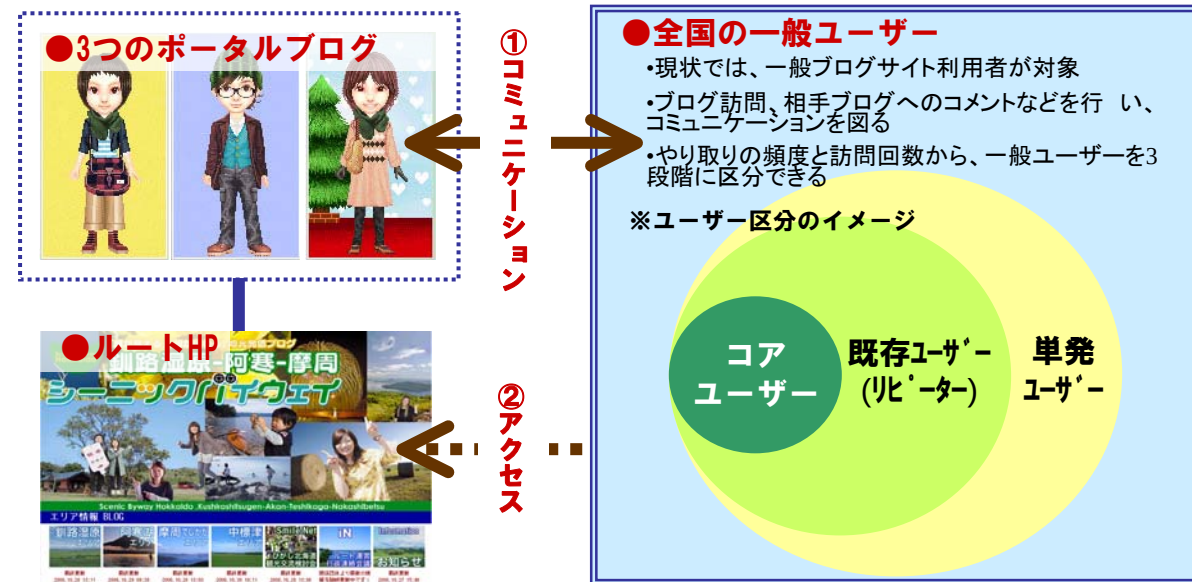
弟子屈エリア5名



中標津エリア8名



■取組みの概要（一般ブログを活用したオペレーションの仕組み）



釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

Clear Stream Scenic Byway

道東ウォーキングツーリズム推進活動

【概要】ルート内および周辺地域を対象に、ウォーキング愛好家を中心とするツーリズムの推進に向け、昨年度より継続した活動を実施している。今年は、中標津町内を対象としたウォーキングルートづくり、全道ウォーキングルート調査、ウォーキングイベントの企画・試行、サイン等ルート整備に関する調査、フットパス先進事例調査、2度の検討会（議題は下記参照）等を行った。

【日時】ウォーキングイベントの企画・試行（6/22 7:00-12:00シーニッククリーンウォークウォーク）、フットパス先進事例調査（7/27 9:00-12:00北根室ランチウェイフットパスツアー、10/25 13:00-18:00根室フットパスワークキャンプ）、検討会（第1回 2/9 19:00-21:00、第2回 2/20 19:00-21:00）

【場所】中標津町内（シーニッククリーンウォーク・北根室ランチウェイフットパスツアー、検討会）、根室市（根室フットパスワークキャンプ）

【主催】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 中標津エリア 【活動団体】中標津町商工会青年部

【協力】情報広報部会

【参加人数】15人

【来場者数】30人（シーニッククリーンウォーク参加者）

◆主な調査内容



ウォーキングイベントの企画・試行
(シーニッククリーンウォーク)



根室フットパス整備ワークキャンプ



サイン類の調査



北根室ランチウェイ実地調査



根室フットパスヒアリング



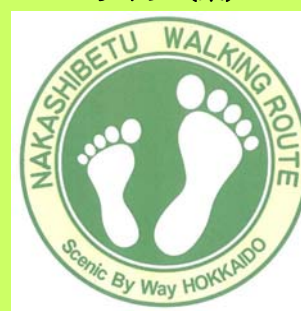
ウォーキングルート調査

◆主な検討内容

【議題】

- ・ウォーキングルートの選定
- ・マップ編集会議
- ・オリジナルサインの検討
- ・観光モデルコースの検証
- ・情報発信について

サイン（案）



釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃

- 【概要】ルート内4つのエリアで実施している、春の清掃活動を連携・協力しながら実施した。候補ルート時代から実施視し、本年度で4年目となる活動であり、毎年の恒例行事として定着しつつある。弟子屈エリアと中標津エリアでは、ウォーキングイベントと絡め、一般の方が参加しやすいよう工夫した。釧路湿原エリアでは、釧路湿原の木道清掃を音探検を絡めたイベントを実施したが、利用者のマナーがよく、ゴミは見当たらなかった。今後は、より一般の方が参加しやすい仕組みづくり、その他清掃活動との連携を検討していきたい。
- 【日時】阿寒湖エリア 幸運の森商店街清掃（4/24 9:00-12:00）、弟子屈エリア 摩周湖クリーンウォーク（6/7 9:00-12:00）、中標津エリア シーニッククリーンウォーク（6/22 7:00-12:00）、釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃（6/29 9:00-13:00）
- 【場所】阿寒湖エリア 幸運の森商店街、弟子屈エリア 国道241号、243号、391号を含む弟子屈町内の沿道、中標津エリア 中標津市街地～開陽台展望台までの沿道、釧路湿原エリア 釧路町達古武オートキャンプ場内木道
- 【主催】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 景観まちづくり部会
- 【活動団体名】NPO法人阿寒観光協会、阿寒湖温泉連合町内会、（有）阿寒ネイチャーセンター、弟子屈町商工会、摩周湖世界遺産登録実行委員会、弟子屈町自治会連合会、中標津町商工会青年部、（社）中標津町青年会議所、株式会社日専連中標津 青年会、ボランティアネットワークチャレンジ隊
- 【協力】弟子屈町、中標津町商工会 【参加人数】50人（清掃活動ルート参加者）
- 【来場者数】阿寒湖エリア50名、弟子屈エリア200名、中標津エリア30名、釧路湿原エリア52名



阿寒湖エリア 幸運の森商店街清掃



弟子屈エリア 摩周湖クリーンウォーク



中標津エリア シーニッククリーンウォーク

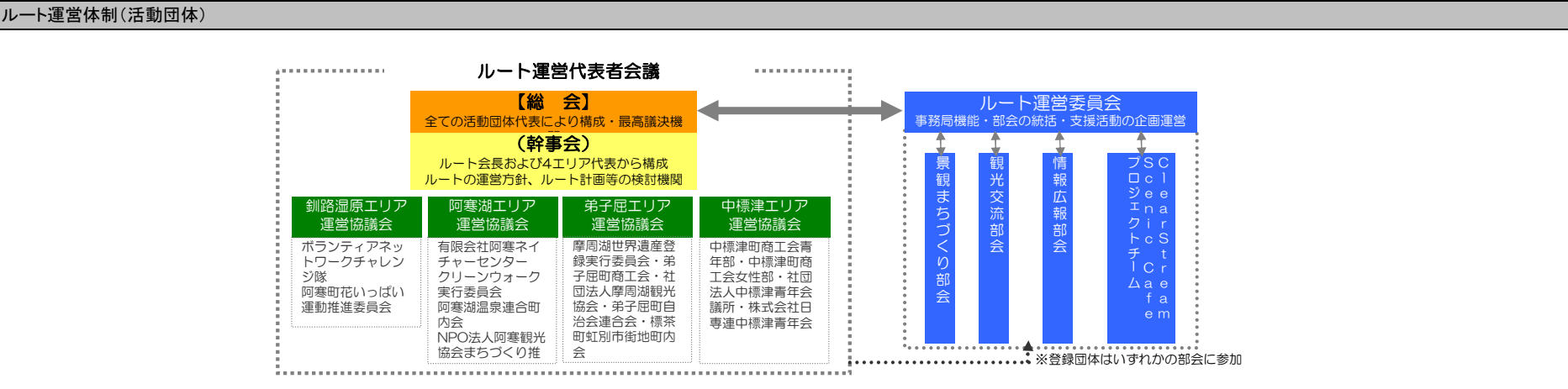


釧路湿原エリア 音探検&清掃

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	報告者: ルート運営代表者会議 会長 桐木茂雄	報告年月: 2009/3/31
-----------------------------	-------------------------	-----------------

活動団体
釧路湿原エリア: ボランティアネットワークチャレンジ隊・阿寒町花いっぱい運動推進委員会 阿寒湖エリア: NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、(有)阿寒ネイチャーセンター、クリーンウォーク実行委員会、阿寒湖温泉連合町内会 弟子屈エリア: 摩周湖世界遺産登録実行委員会、弟子屈町商工会、(社)摩周湖観光協会、弟子屈町自治会連合会、標茶町虹別市街町内会 中標津エリア: 中標津町商工会青年部、(社)中標津青年会議所、株式会社 日専連中標津青年会、中標津町商工会 女性部
＜全15団体＞



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議			●6/17 (総会)										年末と夏期の繁忙期を除き、コンスタントに幹事会・ルート運営委員会を開催した。また、実行委員会等も開催し、個別プロジェクトの推進を行った。次年度以降も継続した実施を行いたい。
	幹事会・運営委員会	●4/16	●5/21						●11/10	●12/15			●3/10	
	部会	●4/16 (3部会合同)	●5/21 (3部会合同)					●10/8 情報広報部会						
	実行委員会等		○5/12 カフェーティング					○10/22 ライターズミーティング		○12/10 カフェーティング		○エリア検討会 2/12釧路湿原エリア 2/19弟子屈エリア 2/20阿寒湖エリア 2/9・2/20中標津エリア		

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	報告者: 釧路開発建設部	報告年月: 2009/3/31
-----------------------------	--------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施			●6/17 (本会)										6月の本会のみの実施となった。次年度以降は、積極的な開催を行いたい。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ					報告者: 釧路開発建設部		報告年月: 2009/3/31		
ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容		平成20年度の活用内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
1 地域の資源を知る・活かすことによる、多様な道東ブランドづくり ＜知る・活かす＞	1) 自然を知る・活かす(自然・景観・産業)	①まちを知る・人を知る	ルートHPを活用した全国の一般ユーザーとの双方向交流	通年		釧路開発建設部	・地域住民がライターとなり、情報発信しているHPIに釧路開発建設部の3名がライター登録して、旬な情報を提供した ・各行政機関担当者にライター登録をお願いし、旬な情報を提供できる体制づくりが必要である	・既存植樹活動、清掃活動、シーニックカフェルート連携実施におけるカフェミーティング等に参加した。次年度以降は、さらに各行政機関の取り組みと連携した活動を行っていききたい。	5
		②自然環境を知る・活かす	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	平成20年6月29日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から8名が参加し、参加者と積極的な情報交換、交流を行った ・家族連れでの参加もあり、子供と一緒に自然環境を学べる良い機会であった	6		
			既存植樹活動への協力	平成20年5月17日、5月25日、5月28日	北海道、北海道森林管理局、中標津町、弟子屈町、釧路土木現業所、釧路開発建設部	・ルート内3エリアで実施された既存植樹活動への参加協力において、釧路開発建設部などが参加し、関係自治体と活動団体の情報交換を行った。	★2		
		③景勝地や景観ポイントを見つける・活かす	弟子屈滝探検・摩周岳登山	平成20年10月11日、10月19日	釧路開発建設部	・新たなビューポイント発掘、地域の新たな魅力発掘のために実施された活動に、釧路開発建設部から2名が参加し、ビューポイント等に関する意見交換が行った	★8		
		④温泉を知る・活かす	-	-	-	-	-		
		⑤体験活動を知る・活かす	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	平成20年6月29日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から8名が参加し、参加者と積極的な情報交換、交流を行った ・家族連れでの参加もあり、子供と一緒に自然環境を学べる良い機会であった	6		

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	平成20年度の活用内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
1 地域の資源を知る・活かすことによる、多様な道東ブランドづくり ＜知る・活かす＞	2) 食を知る・活かす	①地場産品を知る・伝える	シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンブラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタップミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1
		②新たな地域食材を知る・活かす(道東の新たな食文化づくり)	-	-	-	-		-
	3) 文化や自然を知る・活かす	①地域の各種文化を知る・活かす	-	-	-	-		-
		②地域の歴史を知る・活かす	-	-	-	-		-
2 個性・強みとなる地域資源や、魅力ある4エリアをつなぎ・整えることによる、競争力のある地域(ルート)づくり ＜整える・つなぐ＞	1) 地域と資源をつなぐ“道(沿道景観)”を整える	①沿道景観を整える	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「阿寒湖エリア・幸運の森商店街清掃」	平成20年4月24日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から2名が参加し、活動団体と意見交換を行いながら、清掃活動を実施した	・釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃、検討会やミーティング等の参加 ・標茶町花フェスタでは、標茶町と連携し、桐木会長が町内で沿道景観づくりを行う町民を対象に、シーニックについて講演を行った。 ・釧路湿原エリア検討会(モデルルート検討)では、釧路市からの参加者を交え、活発な意見交換を実施した。 ・非誠勿擾ロケ地マップの企画制作も行っている。 ・次年度以降も、他の行政機関と連携をとりながら、実施したい。	6
			釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「弟子屈リア 摩周湖クリーンウォーク2008」	平成20年6月7日	弟子屈町、釧路開発建設部	・弟子屈町主催のクリーンウォークに釧路開発建設部から10名が参加し、弟子屈町職員や活動団体と意見交換を行いながら、清掃活動を実施した		6
			釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃・道東ウォーキングツーリズム推進検討「中標津エリア シーニッククリーンウォーク」	平成20年6月22日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から4名が参加し、活動団体と意見交換を行いながら、清掃活動を実施した		6
			釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	平成20年6月29日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から8名が参加し、参加者と積極的な情報交換、交流を行った ・家族連れでの参加もあり、子供と一緒に自然環境を学べる良い機会であった		6
			シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)-沿道景観に配慮した「花と緑のサイン」の製作	カフェミーティング実施:5/12、12/10	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタップミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、景観に配慮したサインに関する積極的な意見交換を行った		1

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	平成20年度の活用内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
2 個性・強みとなる地域資源や、魅力ある4エリアをつなぎ・整えることによる、競争力のある地域(ルート)づくり ＜整える・つなぐ＞	1)地域と資源をつなぐ“道(沿道景観)”を整える	①沿道景観を整える	標茶町花フェスタ2008	平成20年8月3日	標茶町	・標茶町役場と連携して、ルート運営代表者会議桐木会長がシーニックに関する講演を行った ・シーニックに関する交流だけでなく、花植えに関する意見交換も積極的に行われた ・今後も活動団体と連携した取り組みを行いたい		
		②物語のあるみちをつくる	-	-	-	-		-
	2)観光客を受け入れる環境を整える	①おもてなしの質を整える	-	-	-	-		-
		②既存施設の質を整える	シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタンプミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1
	3)地域の魅力(資源)をつなぎ感動を提供する	①地域の魅力(景観)をつないだ感動ドライブコースの提供	シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタンプミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1
			-	-	-			
		②地域の魅力(体験)をつないだ道東ツーリズムの提供	シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタンプミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1
			釧路湿原エリア検討会(モデルルート検討)	平成21年2月12日	釧路市、釧路開発建設部	・釧路市、釧路開発建設部が参加 ・釧路湿原エリア内での滞在ルートについて、活発な意見交換を行った		★13
			弟子屈エリア検討会(モデルルート検討)	平成21年2月19日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部が参加 ・釧路湿原エリア内での滞在ルートについて、活発な意見交換を行った		★14

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容		平成20年度の活用内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
2 個性・強みとなる地域資源や、魅力ある4エリアをつなぎ・整えることによる、競争力のある地域(ルート)づくり ＜整える・つなぐ＞	3)地域の魅力(資源)をつなぎ感動を提供する	②地域の魅力(体験)をつないだ道東ツーリズムの提供	阿寒湖エリア検討会(モデルルート検討)	平成21年2月20日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部が参加 ・阿寒湖エリア内での滞在ルートについて、活発な意見交換を行った		★15	
			中標津エリア検討会(モデルルート検討)	平成21年2月9日・20日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部が参加 ・中標津エリア内での滞在ルートについて、活発な意見交換を行った		★16	
	4)各種情報を伝える・蓄える	①HP・各種広報誌等による情報提供	ルートHPを活用した全国の一般ユーザーとの双方向交流	通年	釧路開発建設部	・地域住民がライターとなり、情報発信しているHPIに釧路開発建設部の3名がライター登録して、旬な情報を提供した ・各行政機関担当者にライター登録をお願いし、旬な情報を提供できる体制づくりが必要である		5	
			魅力発見釧路観光情報センターへのパネル・パンフレットの展示	平成20年7月1日～7月31日	釧路市	・釧路市と連携して、制度説明パネルの展示とパンフレットの提供を行った ・今後もこのような機会においてのPRは、必要不可欠であり、実施していきたい			
			非誠勿擾ロケ地マップの企画製作	平成20年3月～	釧路市、釧路開発建設部	・釧路市、釧路開発建設部、東オホーツクシーニックバイウエイルートが連携を図り、企画制作を行っている。 ・非誠勿擾は、中国本土で大ヒットした正月映画であり、今後の観光客への情報提供を想定し企画を行っている。		★22	
		②観光案内施設等による情報提供	シーニックカフェルート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンプラリー実施:8月25日～10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタンプミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った			
		③各種情報の蓄積(アーカイブづくり)	ルートHPを活用した全国の一般ユーザーとの双方向交流	通年	釧路開発建設部	・地域住民がライターとなり、情報発信しているHPIに釧路開発建設部の3名がライター登録して、旬な情報を提供した ・各行政機関担当者にライター登録をお願いし、旬な情報を提供できる体制づくりが必要である	5		

ルート(エリア)運営活動計画方針		ルート(エリア)運営活動計画活動内容	平成20年度の活用内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
3 地域内資源循環の実現による、持続可能な地域(ルート)づくり ＜創る・育てる＞	1) 自然と共に生きる意識を育てる	①地域(子ども達)への環境教育	釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃「釧路湿原エリア 釧路湿原音探検&清掃」	平成20年6月29日	釧路開発建設部	・釧路開発建設部から8名が参加し、参加者と積極的な情報交換、交流を行った ・家族連れでの参加もあり、子供と一緒に自然環境を学べる良い機会であった	・既存植樹活動、清掃活動。 シーニックカフェールート連携実施におけるカフェミーティング等の参加した ・次年度以降は、他の行政機関も参加しやすい仕組みを整えるとともに、呼びかけなども積極的に行って行きたい。	6
		②来訪者(観光客)へのインタープリテーション	-	-	-	-		-
	2) 自然を保全・活用する仕組みを創る	①自然を守るルールをつくる	-	-	-	-		-
		②自然を保護・育成する仕組みをつくる	既存植樹活動への協力	平成20年5月17日、5月25日、5月28日	北海道、北海道森林管理局、中標津町、弟子屈町、釧路土木現業所、釧路開発建設部	・ルート内3エリアで実施された既存植樹活動への参加協力において、釧路開発建設部などが参加し、関係自治体と活動団体の情報交換を行った。		★2
	3) 循環型社会のビジネスモデルを育てる	①コミュニティビジネスを育てる	シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンブラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタッフミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1
		②地域経済循環の仕組みを創る	ルートHPを活用した全国の一一般ユーザーとの双方向交流	通年	釧路開発建設部	・地域住民がライターとなり、情報発信しているHPIに釧路開発建設部の3名がライター登録して、旬な情報を提供した ・各行政機関担当者にライター登録をお願いし、旬な情報を提供できる体制づくりが必要である		5
			シーニックカフェールート連携実施(地域のおもてなし拠点づくり)	カフェ営業:通年(一部冬期休業)、スタンブラリー実施:8月25日~10月31日、カフェミーティング実施:5月12日、12月10日	釧路開発建設部	・活動内で実施された、シーニックカフェスタッフミーティングに、釧路開発建設部から3名が参加し、積極的な意見交換を行った		1

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックパイウェイ	報告者: ルート運営代表者会議 会長 桐木茂雄	報告年月: 2009/3/31
-----------------------------	-------------------------	-----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	○地域へのルート活動の浸透について ルートHPでは、30名の地域住民がライターとなり、自分の職域や趣味を活かした情報を更新している。HP上で、全国の一般HPユーザー（閲覧者）との交流を生まれ、情報交換が行われていることから、微力ながら浸透されつつあると考えている。また、毎年実施している、釧路湿原・阿寒・摩周・中標津リレー清掃では、釧路湿原エリア・弟子屈エリア・中標津エリアでは、地域住民が参加しやすい様に、イベント的に清掃活動を実施し、地域住民への周知を兼ねた活動となっている。 だが、ルート活動の浸透は、まだまだであると実感している。次年度以降は、実績をつくり、地域住民の目に触れるように努力したい。 ○人材育成の取組について ルート内5店舗に設置しているシーニックカフェ（既存店舗を利用）では、定期的にシーニックカフェミーティングを開催し、ルート運営委員だけではなく、カフェで働く若手スタッフと一緒に、観光客に対するおもてなしについて、検討を続けている。本年度は、カフェスタッフの意見を反映させて、「シーニックおもてなしブック（観光案内の虎の巻）」の製作試行や景観に配慮したシーニックカフェオリジナルのサイン「花と緑のサイン」の製作検討、オリジナルグッズの製作検討、シーニックカフェスタンプラリーの実施、PRマップの発行などを行った。前述した、「シーニックおもてなしブック」は、観光客に対する案内向上の目的だけではなく、新人スタッフの教育にも活かされており、微力ながら、人材育成の取組みは行われていると感じる。	

ルート名称: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックパイウェイ	報告者: 釧路開発建設部	報告年月: 2009/3/31
-----------------------------	--------------	-----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	○地域へのルート活動の更なる浸透について 職員も地域住民としてルートHPのライターに登録し、様々な情報交換を行っている。また、ルート活動に参加し、常に新しい地域情報を把握し、新しいルート活動を検討している。 共通認識を持った取り組みを実施するために4市町村が合同で補助金申請を行い、地域が目指している物の共通認識を深め、連携できる体制を築いた。 ○人材育成の取組みの充実について 異動等で人が変わるときに、新任者だけでなく、前任者も活動に引き込み、活動の継続性及び活動への理解度を深めている。	

平成20年度 函館・大沼・噴火湾ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称：函館・大沼・噴火湾ルート	報告者：会長 金道 太郎	報告年月：2009/3/4
--------------------	--------------	---------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	景観診断の参加	★1	国道278号の景観向上に向けた調査検討	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年9月～平成21年3月	約10名	HA - 1	国道278号における看板調査を実施した。調査した看板の中から、老朽性や連続性等の観点から撤去及び集約などを行う看板の抽出を行い、次年度シーニックの日などで看板の撤去等を実施する。
		テーマごとのエリアの紹介		-					
	ビューポイントを発掘する	シーニックフォトクラブの設立		-					事業分科会ごとにテーマに沿ったプロジェクトチームを立ち上げ、各種検討を行うことができた。汐首岬灯台については、海上保安庁との協議を進めながら、次年度シーニックデッキ設置に向けたモニター調査及びアンケート調査を実施する。ルートマップは地域住民がおすすめる資源を抽出し作成したルートマップをルートHPなどでPRを行い、次年度はそのルートマップを活かした新たな活動(シーニックカフェなど)に向けた検討・実施を行う。
		シーニックバスツアーの開催	★2	汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成20年7月～平成21年3月	約10名	HA - 2	
		シーニックルートマップの作成	3	ルートマップの作成	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成20年4月～平成21年3月	約20名	HA - 3	
		フォトコンテストの開催		-					
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	清掃活動の実施	★4	シーニック清掃活動	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年4月29日(祝) 8:00～12:00	約100名	HA - 4	シーニック清掃活動は今年度実施した活動であるが、今後は上記の看板撤去・集約とからめた活動について検討を行う。函館新道における植栽活動は、参加団体数及び延長距離も年々拡大しており、また、環境に配慮した循環型活動にも今年度初めて着手し、今後の活動に大いに期待できる。
		植栽活動の実施	5	函館新道における植栽活動	函館花いっぱい道づくりの会	平成20年6月～平成20年12月	750名(植栽活動時)	HA - 5	
		景観阻害の改善		-					
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー (H19：シーニックバスツアー)	6	シーニックバスツアーの開催	シーニックdeナイト2009実行委員会	平成21年2月7日(土) 15:30～20:50	35名	HA - 6	シーニックバイウエイルート記念事業として始めたシーニックdeナイトの実施場所を周回するシーニックバスツアーを実施した。今後は、シーニック関係者だけでなく、旅行会社とのタイアップ等で一般市民も多く参加できるシステムについて検討を行う。
		「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー (H19：シーニックdeナイト2008)		-					
		「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー (H19：夏休み体験講座、恵山観察会)		-					
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	縄文文化を再現し体験する歴史探訪ツアー	7	シーニックdeナイト	シーニックdeナイト2009実行委員会	平成21年2月7日(土)～平成21年2月15日(日)	約300名	HA - 7	シーニックdeナイトは、実施団体及び実施地域が拡大し、少しずつではあるが輪が広がってきている。しかし、定期収入がないため、運営費獲得に向けた方策が必要である。洞爺湖サミット記念の森は、シーニックの森づくり第1弾として実施した取り組みであるが、今後団体客などの受け入れ体制や森づくり場所などの検討が必要である。地域資源の収集ワークショップは、ルートマップ作成のために実施した取り組みであるが、これまで関係の薄かった地域を中心に実施した。全体としては、活動団体の連携強化を図ることができた。
		西部地区の歴史的街並み探索ツアー	★8	洞爺湖サミット記念の森事業	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年6月1日(日) 9:30～12:00	約150名	HA - 8	
		温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	★9	地域資源の収集に向けたワークショップ	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成21年1月19日(月)～平成21年1月21日(水)	約25名	HA - 9	
		ルート全体で取り組むスマイルキャンペーン (H19：バリアフリーボランティア事業)		-					
		場所を変えた観光分科会の開催 (H19：縄文の道フォーラム)		-					

	歴史を学び活かす	「函館の歴史を学ぶ」講座	10	縄文の道フォーラム	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団	平成20年9月13日(土) 14:00～17:00	約150名	HA - 10	縄文の道フォーラムは、縄文時代の文化遺産と自然環境に恵まれた函館の魅力を高めるために実施した。今後は縄文と観光等を絡めた地域の活性化に向けた検討が必要である。
		「函館の港を船上から学ぶ」講座（H19：アングリン編み＆勾玉作り）		-					
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく	キャンプ＆ラリーの開催（H19：赤松観察会）							秋の大沼の自然散策を実施した。ガイドとしてのプログラムは多く持っている団体であることから、シーニックの活動と絡め集客力を高める取り組みを検討することが課題である。
		横津岳ガイドツアーの開催（H19：恵山観察会）	11	大沼公園湖畔と島巡り	NGO函館自然観察会	平成20年10月26日(日) 9:00～14:00	6名	HA - 11	
		自然環境教育プログラムの提供		-					
	ガイドの発掘・育成	大沼公園ボランティアガイド研修会	★12	バリアフリーボランティア事業	北海道運輸局	平成20年10月4日(土)～平成20年10月24日(金) 10:00～16:00 平成21年1月10日(土)～平成21年1月25日(日) 11:00～17:00	約100名	HA - 12	JR函館駅及び函館空港にて、バリアフリーボランティア事業を実施した。身体障害者や高齢者に対する介助ボランティアだけでなく、行き先案内などの観光ボランティアの要素も含んでいる事業となっている。今年度実施した運営体制を継続・拡大していくことで、函館ルートのおもてなしの醸成や観光客増加の要因となることから、今後の活動に大いに期待できる。
		ガイド発掘・育成のための連携づくり							
	地域と来訪者の心をつなぐ	人とひととのふれあい方について勉強する	★13	外国人へのおもてなしプレ調査①	シーニックバイウェイ支援センター	平成20年10月21日(火)9:00～10:00 16:30～19:30	約40名	HA - 13	シンガポール人に対する日本の文化などに関する体験メニューの提供を行った。この取り組みを通じ、外国人に対する接し方を学んだり、体験メニューのニーズ把握などを行った。今後は、コミュニティビジネスに向けた検討や実施地域の拡大についての検討を行うことが必要である。
			★14	外国人へのおもてなしプレ調査②	シーニックバイウェイ支援センター	平成20年12月15日(月) 15:00～20:30	約140名	HA - 14	
	内部的な関心の共有、意識醸成	函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覧作成（H19：代表者会議の運営体制の変更など）	15	ルートHPの更新	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	平成20年7月～平成21年2月	約10名	HA - 15	30件程度の情報についての更新を行ったが、今後の実施体制及び維持費についての検討が必要である。
	地域メディアとのタイアップ	FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載		-					地域メディアとタイアップした活動は取り組むことができなかったが、新聞やテレビなどでシーニック活動をPRすることができた。
		FMいるかの特別番組による情報発信		-					
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成（H19：はこまち通信作成によるPRなど）	★16	シーニックかるたの作成	森町観光ボランティアガイドの会	平成20年11月～平成21年2月	約100名	HA - 16	小中学生を対象とし、地域資源を後生に守り伝えていくためにルート内の地域資源をテーマとしたシーニックかるたを作成した。また、作成したシーニックかるたを用いたかるた大会を行うことで今後の課題が明確になった。はこまち通信は、シーニック情報拠点である函館市地域交流まちづくりセンターで4回発行しているフリーペーパー内でシーニック情報をPRすることができた。
		地域資源を説明するカードの作成	17	はこまち通信作成	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	通年	約5名	HA - 17	

※表中“★”はH20新規活動

国道278号の景観向上に向けた調査検討

【内 容】景観向上に向けた取り組みである違法看板の撤去や集約化に向けた検討を行うにあたり、国道278号における看板の基礎調査を行った。また、収集したデータに基づき、今後の撤去・集約の手法やプライオリティについての検討も行った。

【日 時】平成20年9月～平成21年3月

【場 所】函館市・鹿部町・森町

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【協 力】函館開発建設部

【参加人数】約10名



管理番号 1

国道 278 号における道路附属施設(看板)チェック箇所調査

函館 開発建設部 平成 20 年 9 月 11 日

路線名 一般国道 278 号 KP = 0 ~ 1

L・C・R L



改善後の写真

汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討

【内 容】 ルート内のビューポイントである汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討を行った。まず灯台の付近の事前調査を行い、灯台の管理者である函館海上保安部にシーニックバイウェイ北海道やシーニックデッキ設置に向けたルート運営代表者会議の意向を伝えるなどして、灯台開放に向けた協議を重ねてきた。まだ灯台開放の了承は得られていないが、今後モニター調査やアンケート調査を実施し、ビューポイントとしてのニーズ把握やPRを行う（平成21年4月予定）ことにより、シーニックデッキの実現に向けた取り組みを継続していく。

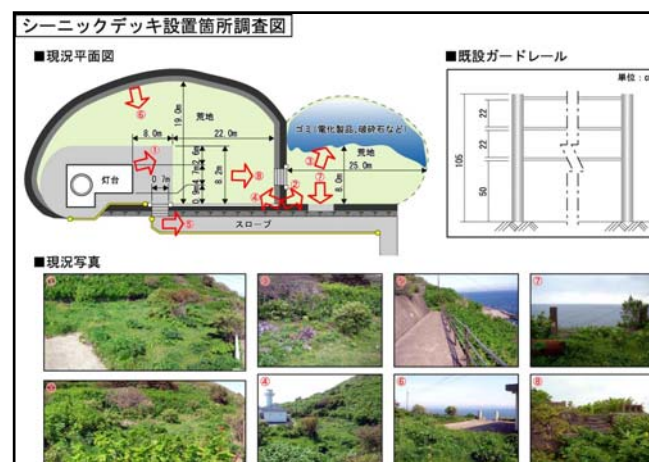
【日 時】 平成20年7月～平成21年3月

【場 所】 函館市

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

【協 力】 函館開発建設部、函館海上保安庁

【参加人数】 約10名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

ルートマップの作成

- 【内 容】地域活動団体がおすすめする情報を基にルートマップを作成した。ルートマップ表面では観光施設などのポイントを落としたルート全体のマップであり、ルートマップ裏面では、「食」をテーマとした市町の飲食店についての掲載を行った。
- 【日 時】平成20年4月～平成21年3月
- 【場 所】函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会
- 【協 力】函館開発建設部、函館運輸支局、（社）日本自動車連盟、北斗市、七飯町、八雲町
- 【参加人数】約20名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

シーニック清掃活動

【内 容】 4月29日を“シーニックの日”に制定し、ルート内の各地域で一斉に清掃活動を行う取り組みとして、今年度から始まった。今年度は、函館市では五稜郭タワー周辺及び函館市地域交流まちづくりセンター周辺、七飯町では田園通り及び大沼周遊道路で実施した。

【日 時】 平成20年4月29日（祝） 8:00～12:00

【場 所】 函館市・七飯町

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【協 力】 （株）五稜郭タワー、自然公園財団大沼支部、山川草木を育てる会大沼本部、函館開発建設部、七飯町

【参加人数】 約100名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

函館新道における花の活動

【内 容】今年で5年目を迎えた函館新道における植栽活動である“はこだて花かいどう”。年々規模を拡大しており、片側600mの区間に花苗約10,000株、参加人数750人で6月に植栽活動を実施した。水やりや雑草取りなどの維持活動を経て、11月に撤去活動を行った。また、撤去した活動は次年度の肥料に再利用する堆肥づくりなど活動の幅も広がってきている。

【日 時】平成20年6月～平成20年12月

【場 所】函館新道

【主 催】函館花いっぱい道づくりの会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館道路事務所、函館土木現業所、函館市、函館市水道局、（財）函館市住宅都市施設公社、（株）函館空港ビルディング、函館新道沿線企業

【参加人数】750名（植栽活動時）



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

シーニックバスツアーの開催

【内 容】シーニックdeナイト2009に合わせ、シーニック関係者を中心としたシーニックバスツアーを開催した。平成21年2月7日（土）に同日開催した大沼と南茅部を回り、シーニックdeナイト2009の地域への波及及び地域住民への浸透についてのアンケート調査も行った。

【日 時】平成21年2月7日（土） 15:30～20:50

【場 所】函館市、七飯町

【主 催】シーニックdeナイト2009実行委員会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議 函館大谷短期大学、FOLLOW ME JAPAN 函館開発建設部、函館運輸支局、函館市

【参加人数】35名



シーニックdeナイト

- 【内 容】今年で3年目を迎えるシーニックdeナイト2009。キャンドルづくりから、冬の夜空の下道路沿いにキャンドルを設置・点灯する地域住民参加型のイベントである。年々、実施地域・参加団体が拡大し、地域の輪が広がってきている。
- 【日 時】平成21年2月7日（土）～平成21年2月15日（日）
- 【場 所】函館市・七飯町・八雲町
- 【主 催】シーニックdeナイト2009実行委員会
- 【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館市、七飯町、八雲町
- 【参加人数】約300名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

洞爺湖サミット記念の森事業

- 【内 容】この活動は、現在シーニックバイウェイ北海道で展開されている「シーニックの森づくり」に関連する事業であり、また、本年7月に洞爺湖にて開催されるサミットの記念事業として実施した。当日は約150名が参加し、ミズナラ1,400本の植樹を行った。
- 【日 時】平成20年6月1日（日） 9:30～12:00
- 【場 所】西大沼国有林
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議
- 【協 力】函館青年会議所、函館開発建設部、函館運輸支局、渡島森林管理署、渡島支庁、函館土木現業所、函館市、七飯町
- 【参加人数】約150名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

地域資源の収集に向けたワークショップ

【内 容】シーニック参加団体の人的交流の促進及び地域資源の把握を目的にワークショップを開催した。ワークショップは北斗市・鹿部町・森町・八雲町に直接出向き、運営代表者会議メンバー及び行政連絡会議メンバーによる観光施設・体験メニュー・食・景観等についての情報共有を行った。

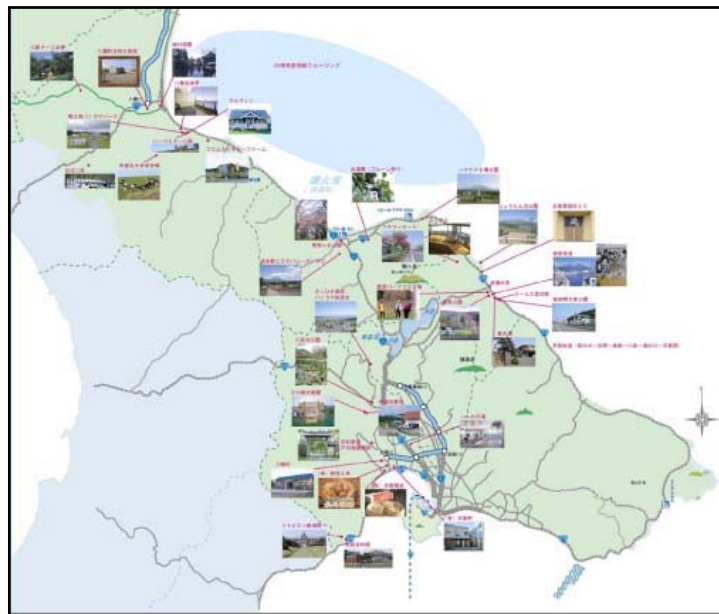
【日 時】平成21年1月19日（月）～平成21年1月21日（水）

【場 所】北斗市・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、七飯町

【参加人数】約25名



縄文の道フォーラム

【内 容】日本の縄文文化は、自然との調和を保ちながら1万年以上も継続した世界に類のない文化であり、函館市の南茅部地域には史跡大船遺跡をはじめ、北海道初の国宝に指定された「中空土偶」など、多くの縄文時代の文化遺産が存在している。また、現代社会の課題となっている「継続可能な社会」のあり方について考えるとき、G8北海道洞爺湖サミットにおいて地球温暖化など環境問題がテーマとなったように、人と自然との関わり方が重要な課題となっている。本フォーラムは、地球環境と人類の歴史をとおして、未来の社会のあり方を考えることによって、縄文文化の大切さを世界に発信し、もって縄文時代の文化遺産と自然環境に恵まれた函館の魅力を高め、あらたなまちづくりの礎とすることを目的とするものである。

【日 時】平成20年9月13日（土） 14:00～17:00

【場 所】函館市中央図書館

【主 催】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【共 催】函館市教育委員会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、渡島支庁、函館市ほか

【参加人数】約150名



大沼公園湖畔と島巡り

【内 容】紅葉のきれいな秋の大沼公園の湖畔をNGO函館自然観察会のガイドとともに散策した。
今年の紅葉は例年に比べ色づき始めるのが遅く、まだ緑色した木々が生い茂ってはい
たが、自然の厳しさなどをガイドから教わった。

【日 時】平成20年10月26日（日） 9:00～14:00

【場 所】七飯町大沼

【主 催】NGO函館自然観察会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【参加人数】6名



バリアフリーボランティア事業

【内 容】観光来訪者が多い函館市において、北海道のモデル的な取り組みとして、ボランティアによる介助等が実際にどのような効果をもたらし、どのように評価され、どのような課題があるかを検証し、持続的なバリアフリーボランティアの推進体制構築を目指し「バリアフリーボランティア事業」を実施した。

【日 時】平成20年10月4日（土）～平成20年10月24日（金） 10:00～16:00
平成21年1月10日（土）～平成21年1月25日（日） 11:00～17:00

※平成21年は金・土・日・祝日のみ

【場 所】JR函館駅、函館空港

【主 催】北海道運輸局

【協 力】函館バリアフリーボランティアプロジェクト検討委員会（NPO法人スプリングボード ユニティ21、函館すぷれっとなど）、函館開発建設部、函館市

【参加人数】約100名



外国人へのおもてなしプレ調査①

【内 容】 “Fly & Drive Hokkaido Autumn Romance” ツアー（10/18～10/25）において、シンガポールから計42名（添乗員3名含む）のドライブ観光客が北海道を訪れ、10/20,21は函館市の湯元啄木亭別亭飛天に宿泊た。飛天宿泊の2日目（10/21）に飛天のお部屋をお借りして、着物の着付け体験などの日本の文化・暮らしに関する交流体験を提供した。

【日 時】 平成20年10月21日（火） 9:00～10:00 16:30～19:30

【場 所】 香雪園 湯元啄木亭別亭飛天

【主 催】 シーニックバイウェイ支援センター

【協 力】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館善意通訳会、

【参加人数】 約40名



外国人へのおもてなしプレ調査②

【内 容】 “Winter Story Rusutsu” ツアー（12/14～12/23）において、シンガポール観光客141名とスタッフ16名の計157名が北海道を訪れ、12/15,16は函館市の湯元啄木亭別亭飛天に宿泊した。15日（月）には、地元のNPO団体などの協力を得ながら、餅つきやアイスクリーム作り、アイスキャンドルなどを体験した。

【日 時】 平成20年12月15日（月） 15:00～20:30

【場 所】 BAYはこだてイベントホール&イベント芝広場、金森ホールなど

【主 催】 シーニックバイウェイ支援センター

【協 力】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館市

【参加人数】 約140名



ルートHPの更新

【内 容】平成20年3月に完成した函館・大沼・噴火湾ルートHPにおける、23件の地域活動団体の活動PRと4件の活動報告を行った。

【日 時】平成20年7月～平成21年2月

【場 所】函館市・七飯町

【主 催】函館・大沼・噴火湾エリア運営代表者会議情報分科会

【協 力】函館商工会議所青年部、（社）函館国際観光コンベンション協会、NPO法人スプリングボードユニティ21、活力ユニット

【参加人数】 約10名



函館・大沼・噴火湾ルート

Hakodate-Onuma-Fnnkawann Scenic Byway

シーニックかるたの作成

【内 容】ルート内の地域資源（観光地や歴史など）を用いた読み札をワークショップにて検討し、その読み札に沿った取り札を作成するために、ルート内の小中学校に募集をかけた。また、製作し終わったシーニックかるたを用い、小学校でかるた大会を行うことで、次世代への地域資源の継承を行った。

【日 時】平成20年11月～平成21年2月

【場 所】函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】森町観光ボランティアガイドの会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部

【参加人数】約100名



【内 容】はこまち通信は、年4回発行しているフリーペーパーで、函館市の情報が詰まった情報誌となっている。この中で、シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」ページを設け、旬の情報の発信を行った。

【日時】 通年

【場 所】函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会

【協力】-

【参加人数】 約5名

[illegible]

まちづくりリセナール1階のおすすめ散策ルートでは、
函館・大沼・噴火湾ルートの句の紹介をしています。



シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

シンガポールからのドライブ観光客に
日本の文化・暮らしの体験メニューを提供しました！

“TV & Drive Hokkaido Autumn Romance”ツアー（10/18～10/25）に際して、シンガポールから約42名（追加客も含め）のドライブ観光客が北海道を訪れ、10/20（土）は函館市内の公園で多人数参加型で楽しみました。冬支度（防寒）の10/21（日）にも同様の企画が実現して、観光客の旅行体験はさらに豊かな文化・暮らしに関する交流体験を深めました。

☆体験メニュー☆ 音読鑑賞ガイド、植物の鑑賞ガイド、生け付け、押し花キャンドルづくり





シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」の句が好評でした！
10/20（土）のイベントでは「音読・鑑賞・植物・生け付け・押し花」の体験メニューが好評で、多くの観光客が参加しました。また、大沼公園の紅葉も大変人気で、多くの観光客が訪れていました。

http://douan-tv.com/

まちづくりセンター1階のおすすめ数館ルートでは、
国領・大沼・噴火湾ルートの旬の情報をご紹介しています。



シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

シーニックバイウェイ北海道 地域交流会場
「全道フォーラム2008」が開催されました!

シーニックバイウェイ北海道が本年度に開催した第4回全道フォーラムは、本道各地には数少ない全道規模で実施する、全道ネットの総会イベント。国領・大沼・噴火湾ルートネットとでもなりました。
本道の全道フォーラムは、一層の活動活性化を目指して、全道の活動団体や関係機関の参加に力を入れた内容で実施すると同時に、総会を総会だけでなく共有するともに、スナックアップの場としても開催しました。

○シーニックバイウェイ セクション
各ルートごとの活動紹介




○基礎講座
（国領大学経済学部の石田隆生先生による
「シーニックバイウェイ北海道の未来
目指すべき方向、北海道の観光と全道
の自然環境を巻いて」）と題する基調講演




○お茶会セッション
ディスカッション形式によるルート
紹介




○その他
文芸座、交通ルート代表者発表、フ
ニックワークショップ



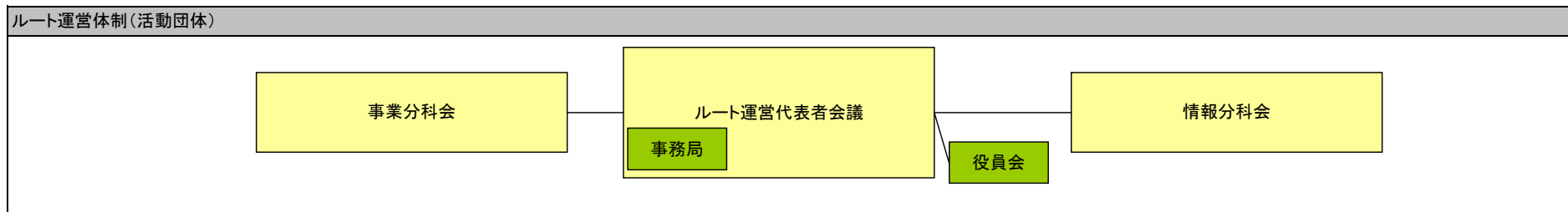
シーニックバイウェイ北海道「国領・大沼・噴火湾ルート」のHCPが完成しました!
シーニックバイウェイ北海道「国領・大沼・噴火湾ルート」に準拠して10団体の活動機関とご連携ができたルートが完成しました。本道にない活動機関も加わって、活動拠点を広く見据えて活動がすすんでいくことを

<http://idk.jp/area/kunino/>

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 会長 金道 太郎	報告年月: 2009/3/4
---------------------	---------------	----------------

活動団体
函館商工会議所、(社)函館国際観光コンベンション協会、函館湯の川温泉旅館協同組合、函館商工会議所青年部、函館21の会、南北海道オートリゾートネットワーク研究会、函館湯の川温泉旅館協同組合 青年部、NGO函館自然観察会、NPO法人スプリングボードユニティ21、北の縄文CLUB、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、NPO法人函館エコロジークラブ、活力ユニット、函館すぷれっと、はこだて菜の花プロジェクト、ふしぎな花俱樂部 はまなす会、南北海道産業クラスター研究会、恵山地区女性団体連絡協議会、函館花いっぱい道づくりの会、函館手工芸の会、(財)北海道国際交流センター、NPO法人南北海道エネルギープロジェクト、NPO法人NPOサポートはこだて、戸井コミュニティビジネス研究会、北斗市観光協会、エコホスピタリティーはこだて、kazeru & kazeru、大沼観光協会、七飯町商工会、鹿部温泉観光協会、森町花いっぱい運動推進協議会、森町観光ボランティアガイドの会、八雲観光協会



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議						3日							昨年度意志決定機関を役員会に移し、役員会を中心とした具体的な活動の検討・実施を行うことができた。次年度に向けた課題としては、34団体の更なる連携に向けた地道な活動(団体ごとに個別訪問しシーニックで実施したい活動の聞き取りなど)が必要である。
	役員会	3日		24日						22日				
	事業分科会		15日 シーニックの森づくり検討会		3日 シーニックデッキ検討会			9日 シーニックデッキ検討会						
		22日 ルートマップ検討会	20日 ルートマップ検討会								10日 ルートマップ検討会			

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2009/3/4
---------------------	--------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施		28日											行政連絡会議への活動団体のバックアップ体制(人的支援)に関する情報発信を十分に行うことができた

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート			報告者:函館開発建設部		報告年月:2008/3/4		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	国道278号の景観向上に向けた調査検討	平成20年9月～平成21年3月	函館開発建設部	国道278号の看板の撤去・集約に向けた看板基礎データ収集調査終了後、次年度以降の看板撤去手法等の検討を行った。	ルート運営行政連絡会議への連絡を行ってはいるが、関係する参加団体がいない行政の参加はほとんど見られない。次年度以降は、参加活動団体の更なる連携強化により、地域活動を充実させるとともに、行政の参加しやすい形について検討する必要がある。	★1
	ビューポイントを発掘する	・汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討 ・ルートマップの作成	・平成20年7月～平成21年3月 ・平成20年4月～平成21年3月	函館開発建設部、函館運輸支局、(社)日本自動車連盟、北斗市、七飯町、八雲町	汐首岬灯台でのシーニックデッキ設置に向けた海上保安庁との協議に参加し、汐首岬灯台の現状確認・開放に向けた条件等について検討を行った。また、汐首岬灯台周辺の駐車場整備に向けた課題把握も行った。ルートマップ作成にあたっては、ルート運営行政連絡会議へ会議案内を行うことで、地域とともにより良いルートマップ作成に向けた検討を行った。		★2 3
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	・シーニック清掃活動 ・函館新道における植栽活動	・平成20年4月29日 ・平成20年6月～平成20年12月	函館開発建設部、函館道路事務所、函館土木現業所、函館市、七飯町	シーニック清掃活動では、ルート運営行政連絡会議への参加連絡を行い、函館市・七飯町での清掃活動に参加した。函館新道における植栽活動においても同様である。		★4 5
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく					ルート運営行政連絡会議への連絡を行ってはいるが、参加する行政機関はほとんど決まっているのが現状である。函館市以外の地域における地域連携活動の充実が必要であると考えられる。	
	ガイドの発掘・育成	バリアフリーボランティア事業	平成20年10月4日～平成20年10月24日 平成21年1月10日～平成21年1月25日	函館開発建設部、函館運輸支局、函館市	北海道運輸局が主催のイベントをルート運営行政連絡会議にて情報発信を行い、バリアフリーボランティアとして、函館駅及び函館空港にてボランティアを行った。		★12
	地域と来訪者の心をつなぐ	外国人へのおもてなしプレ調査②	平成20年12月15日	函館開発建設部、函館市	シーニックバイウェイ支援センターが主催で実施した元気再生事業「外国人のドライブ観光総合支援プロジェクト」のプレ調査において、事前準備や打合せ、体験メニューの提供などでの協力を行った。		★14
	内部的な関心の共有、意識醸成						
	地域メディアとのタイアップ						
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成	平成20年11月～平成21年2月	函館開発建設部	ルート内の地域資源を活かした読み札を作成するためのワークショップを情報分科会とともにに行った。		★16
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	シーニックバスツアーの開催	平成21年2月7日	函館開発建設部、函館運輸支局、函館市	シーニックバスツアーの参加呼びかけをルート運営行政連絡会議に行った。また参加した行政関係者は大沼でのキャンドル設置を地域と一緒にに行った。	活動団体の連携強化のための活動では、ルート運営行政連絡会議の連携もかなり見られることが分かる。従って、活動団体同士の連携活動にいかに関行政が関わっていきけるかについての方策が今後必要である。	6
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	・シーニックdeナイト ・洞爺湖サミット記念の森事業 ・地域資源の収集に向けたワークショップ	・平成21年2月7日～平成21年2月15日 ・平成20年6月1日 ・平成21年1月19日～平成21年1月21日	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島森林管理署、渡島支庁、函館土木現業所、函館市、七飯町、八雲町	シーニックdeナイトでは、キャンドルづくりのために必要な牛乳パックの収集の連絡に始まり、キャンドルづくり、キャンドル設置に関わる連絡をルート運営行政連絡会議に行い、参加協力も行った。洞爺湖サミット記念事業においても、情報連絡と参加協力を行った。地域資源の収集に向けたワークショップでは、各地域のルート運営代表者会議とルート運営行政連絡会議が一緒になって地域資源の情報共有を行った。		7 ★8 ★9
	歴史を学び活かす	縄文の道フォーラム	平成20年9月13日	函館開発建設部、渡島支庁、函館市	縄文の道フォーラムでは、チラシの後援名義の認可とフォーラムへの参加も行った。		10

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:会長 金道 太朗	報告年月:2009/3/4
--------------------	--------------	---------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、改善の仕組みの強化、人材育成の取組の充実を期待する。	ルート連携活動の地域への波及及び地域住民への浸透を目的に、汐首岬灯台でのシーニックデッキ設置に向けた検討やシーニックかるたの作成など新たな活動が展開された。また、継続活動としても、シーニックdeナイトや植栽活動などがあり、確実に地域への輪が広がっている。人材育成の取り組みにおいても、バリアフリーボランティア事業や外国人へのおもてなし事業などがあり、観光振興・地域活性化などに向けた取り組みとしても期待できる。しかし、ルート連携活動全体を振り返ってみると、まだまだルート運営代表者会議の中でキーマンになるような新たな人材発掘・育成ができていないと言えない。従って、次年度は34団体で組織される参加団体のヒアリングを通じて、各参加団体が行っている活動の現状把握と課題の抽出、今後シーニックで実施したい・できる活動などを一覧表にしたものを作成し、全参加団体の情報共有資料として配布及びルートHPでアップすることが考えられる。これらの活動を通じ、更なる地域への活動の浸透及び人材育成の充実を図りたい。	

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館開発建設部	報告年月:2009/3/4
--------------------	-------------	---------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、改善の仕組みの強化、人材育成の取組の充実を期待する。	地域連携活動が実施されている地域が函館市や七飯町といった地域にまだまだ限定されているため、行政連絡会議のバックアップ体制(人的支援)を行う関係機関も限定されている。従って、メール等による月1回の定期的な活動の情報発信を行い、活動の情報共有や意見収集などの場を設ける必要があると考えられる(ルート運営行政連絡会議は常時開催できないため)。	

平成20年度 萌える天北オロロンルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 事務局長 佐藤太紀	報告年月: 2009/3/31
---------------------	----------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
ルートストーリー(添付参照)			1	フォトコンテストプロジェクト	(社)留萌青年会議所	平成19年7月～20年12月	150人		景観形成についての総括 ・海岸清掃をはじめとして、植栽・植樹活動は年々活発的な展開がなされてきた。そもそもより沿線に風車建設など環境に対する適応性があったが、景観という概念では、さほど気に留めないところがあった。しかし、自生種の植栽、シーニックの森などを機に景観を意識する動きの展開が見られ始めた。 ・子供たちを巻き込んだり、清掃時発生する漂着物(流木)などを活用したりと更なるステップを試みようという動きが見られたのも今年度は特徴的であった。 ・今後はこれまでの活動をしっかりと検証し、更なる研究や活動を展開していきたい。
			2	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	小平行来	平成20年5月～10月	100人		
			3	景観診断プロジェクト	留萌開建(協力: 萌天)	平成20年9月～11月	50人		
			4	葉種・ヒマワリ グリーンエネルギープロジェクト	苫前町商工会青年部	平成20年5月～10月	50人		
			5	フォーラム開催プロジェクト	運営委員会	平成20年9月	10人		観光振興についての総括 ・ヒラメ底建網オーナープロジェクトでは、ルート内の品質の高い海産物をこれまで遅れていたブランド力強化という意味と、観光振興の活性化ときっかけ、機運の醸成などといった多方面での切り口で展開された。 ・地元産品あるいは歴史文化の品質の高さは自他共に認める道内、全国でもトップクラスのものが多いが、知名度の低さや戦略不足であったが、その分、のびしろは計り知れないということで、更にルート全体で研究し、実践が必要であることがわかった。
			★6	ヒラメ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	遠別商工会、	平成20年1月～7月	400人	MO - 1	
			7	萌天の森プロジェクト	遠別商工会	平成20年5月～10月	50人	MO - 2	
			8	情報受発信プロジェクト	地域情報受発信システム実行委員会	通年	100人		
	景観・環境保全・歴史文化		★9	熊道プロジェクト	苫前町観光協会	平成20年8月	200人	MO - 3	地域づくりについての総括 ・主に情報受発信システム実行委員会が主導し、情報受発信のあり方を研究し、ルート内で老若男女100名近くの地元情報員により、リアルタイムの様々な情報を集約し、また、イベントや観光情報の一元化を図りつつ、各マサの思いを尊重したなかで、情報連携を図った。 ・熊道プロジェクトなどでは、訪れる方々と地元の商店や一次産業従事者との交流を図り、設え方や、来訪者のニーズやウオントについて考え、地域で取り組むための方法や人材育成などの動きがあった。 ・プロジェクト発足に至らなかったものでも、地元産品の新たな商品開発と展開について、多くの団体個人が携わり、次年度の活動に期待が持てる動きも展開され始めた。
	景観・環境保全・レクリエーション		★10	苫前サイクリングプロジェクト	苫前町商工会青年部	平成20年8月23日～24日	50人		
	環境保全・レクリエーション・歴史文化		★11	天塩川河口流域からオロロン ラインへオロロンライン大作戦	留萌商工会青年部連合会	平成20年6月～11月	100人		

※表中“★”はH20新規活動

参考資料1 これからのプロジェクト
(1) プロジェクトの構成

活動のテーマ		『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』														
ルートストーリー（将来展開）		1.景観			2.食			3.環境保全			4.レクリエーション			5.歴史・文化		
		萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人が訪れています。地域の人々は、沿道に花を植え、見苦しい看板や廃屋を取り除き、また、地域にふさわしい建物や施設のデザインを検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。			萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらにより多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をPRし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通じて地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。			萌える天北オロロンルートでは、CO2削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そして地域の生態系を守り育てる活動などを通して自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。			萌える天北オロロンルートでは、私達が楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域を訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。			萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。		
基本方針		愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出			自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信			地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進			暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶりや新たな価値観を将来に伝え楽しむ		
基本方針におけるキーワード		風景との出会い	花とみどりの景観づくり	愛着と誇りの醸成	地域産品の魅力づけ	新メニューの企画	地域ブランドの構築	クリーンエネルギーのイメージづくり	ゴミ対策の取り組み	身近な生態系の保全・還元	ロングドライブのサポート	身近なアウトドアの紹介	各種カルチャー活動による交流	歴史資源の保全と活用	次世代への歴史伝承	独自の生活文化の発見
プロジェクト	1.フォトコンテスト	●											●			●
	2.エゾカンゾウ植栽活動		●							●			●			
	3.景観診断	●		●							●					
	4.菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	●	●					●					●			
	5.フォーラムの開催	●					●	●			●			●		
	6.食材オーナー制度				●	●	●									
	7.萌天の森		●					●		●	●					
情報受発信（全項目に関係）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
長期展望	（想定）ルートを満喫できるツアー	●			●			●			●			●		
	（想定）萌天グッズの企画・開発						●				●					●
	（想定）食と観光の情報デスク	●				●					●			●		



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku - Ororon Route

ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト

【内 容】 少量多品目という食の特性と持つ、当ルートの遠別漁協、遠別産業振興公社、そして留萌市のエフエムもえるが協力して、遠別の特産であるヒラメを地元はもちろん、全国に発信するため、オーナー制度を構築。全国から882人の応募があり、選ばれた120人のオーナーは、漁イベント当日に揚がったヒラメや雑魚を山分けした。

漁当日には、遠別漁港で地域物産販売や、道の駅弁、地元の山芋を使ったトロどんぶりなどをはじめ、地元の農業高校生が作った花なども実演販売され、約40人のオーナーをはじめ、地域住民もイベントを終日楽しんだ。平成21年は、より地元色が強い組織形態で実施されることが決定している。

【日 時】 平成20年6月21日（土）

【場 所】 遠別漁港

【主 催】 ヒラメ底建網オーナーin遠別実行委員会（遠別漁協、遠別農業高校、エフエムもえる）

【協 力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議、(株)遠別産業振興公社、
遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

【後 援】 留萌開発建設部、北海道留萌支庁、遠別町



出港の様子



ヒラメひらき方教室



パネル展



出店状況

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku - Ororon Route

萌天の森プロジェクト

【内 容】 環境に配慮したドライブ観光の推進や、豊かな生態環境の創出、地域活性化の気運を高めるなどを目的として、遠別町の『萌天の森』で植栽活動を行っている。

4月及び5月にはグイマツ、栗、果樹の植栽を行った。さらに、8月、9月には下草刈りを行った。

また、カーボンオフセット型ツアーによる「シーニックの森」づくりとも連携しており、植栽の受け入れ地としても取り組んでいる。9月にはシーニックバイウェイ支援センター主催による、カーボンオフセットツアーでの植樹の受け入れを行い、トドマツ、カラマツの植栽を行った。

【日 時】 平成20年9月24日（水）

【場 所】 天塩郡遠別町丸松

【主 催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【後 援】 北海道開発局留萌開発建設部



植樹活動状況



下草刈りのメンテナンス

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku - Ororon Route

寄り道しようよ！ 罨道！！プロジェクト

【内 容】 『苫前町三毛別ヒグマ事件』は、ライダー独自のコミュニティによって知れわたった観光スポットとなっています。一方、地元の飲食店等には、全国各地から口コミで多くのライダーが立寄っていますが、様々な情報交換の中では『苫前町三毛別ヒグマ事件』現場への経路が判りづらいといった声も聞かされています。このことはヒグマ事件現場に限ったことではなく、幹線道路から離れた『バイウェイ』に観光資源が点在するというルート全体の共通の課題（特徴）でもあるのです。

そこで、本プロジェクトでは、ライダーの小気味な徘徊性や独自の情報ネットワークに着目し、沿道施設における情報（接客、ウェブ、パンフ、案内板）の整備を試験的に行い、同時にライダーへのアンケートを実施して、ルート全体における『しつらえ』を形成するための考え方や、観光資源の良さを伝える情報コンテンツを明らかにします。

【日 時】平成20年8月11日～31日

【場 所】苫前町

【主 催】苫前町観光協会・苫前町商工会青年部

【協 力】苫前町郷土史研究会・苫前町イメージアップ協議会

【参加人数】300人



三毛別ヒグマ事件復元現場



仮設誘導看板設置状況



来訪の記念としてのフラッグ

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 事務局長 佐藤太紀	報告年月: 2009/3/31
---------------------	----------------	-----------------

活動団体
増毛町観光協会、増毛漁業協同組合、増毛町商工会、ゆうゆうマーシーの会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、新星マリン漁業協同組合、南るもい農業協同組合、留萌商工会議所、社団法人留萌青年会議所、留萌観光協会、エフエムもえる、小平町観光協会連合会、小平町商工会、NPOラシス・オビラ、小平行来、苫前町観光協会、苫前町商工会、苫前町農業協同組合、北るもい漁業協同組合、羽幌町観光協会、羽幌町商工会、オロロン農業協同組合、初山別村商工会、初山別村観光協会、遠別町観光協会、遠別商工会、遠別漁業協同組合、株式会社遠別産業振興公社、天塩町観光協会、天塩町農業協同組合、天塩商工会、フラワーフレンドリーてしお、天塩川を清流にする会、幌延町観光協会、幌延町商工会、幌延町農業協同組合、NPO法人サロベツ、地域情報受発信システム実行委員会

ルート運営体制(活動団体)
萌える天北オロロンルートでは、活動テーマ:『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』の実現のためにルート運営代表者会議を意思決定機関とし、活動の窓口となる幹事を中心とした運営機構によって、各種活動の調整やルート運営活動計画と具体的な活動との整合・提案・調整などを行います。各活動は、先に示した5つのルートストーリーとキーワードに基づき、活動団体等からの発意によって、プロジェクトを立ち上げます。プロジェクトは、複数のプロジェクト担当および運営機構(代表・幹事、事務局)により構成する「プロジェクト会議」において、ルートストーリーに基づきプロジェクトの整合と相互の調整を検討した上で各種活動を展開します。

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議		●											各プロジェクトを通じて広く人間関係を構築でき、情報共有が出来るようになっている。
	幹事会	● 1回	● 2回	● 3回	● 4回	● 5回	● 6回	● 7回	● 8回	● 9回	● 10回	● 11回	● 12回	
	プロジェクト会議	● 5回	● 6回	● 10回	● 8回	● 9回	● 5回	● 3回	● 2回	● 3回	● 2回	● 3回	● 3回	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2009/3/31
---------------------	--------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施		● 5/12											
	行政連絡会議地方分会の実施										●1/23 (留萌南部) ●1/30 (留萌中部)	●2/5 (留萌北部)		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部		報告年月: 2009/3/31			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	景観診断ワークショップ (遠別町・初山別村・小平町・留萌市・増毛町・吉前町・羽幌町)	9月18日(遠別町) 10月1日(初山別村) 10月9日(小平町) 10月14日(留萌市) 10月17日(増毛町) 10月22日(吉前町・羽幌町合同)	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町 留萌開発建設部	留萌管内の道路景観の保全と利活用について、各地域の活動団体と協働により、地域の景観形成についての意見収集を行った。また、同時に国道における道路付属施設等の地域ニーズの把握ができた。	地域ニーズを把握出来たことにより、今後の沿道景観整備に向けた具体的な対応を今後進めていく。	3
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	景観現地調査	11月7日(遠別町・天塩町・幌延町合同) 11月19日(留萌市・増毛町・小平町合同) 11月27日(吉前町・羽幌町・初山別村合同)	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町 留萌開発建設部	景観診断ワークショップでの意見を踏まえ、各地域での重要となる箇所(ビューポイント・パーキング候補地や景観保全箇所)を抽出し、現地確認を行い具体的な取組について意見交換を行った。		3
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	国道沿道における景観調査に関する意見交換会	1月23日(留萌市・増毛町・小平町合同) 1月30日(吉前町・羽幌町・初山別村合同) 2月5日(遠別町・天塩町・幌延町合同)	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町 留萌開発建設部 留萌南部森林管理署 留萌北部森林管理署 留萌支庁 留萌土木現業所	地元団体からの意見を踏まえ、各関係機関での取組状況や今後の対応策や課題について意見交換を行った。どの機関も、予算の制限もあることから、対応は難しいとの意見が多かった。		3
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテストへの協力及び広報	H19.7.1～H20.9.30(作品募集)	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	各自治体のHPにフォトコンテストのバナーを貼り、作品募集の広報を行った。一般部門は104点、携帯部門は18点の作品応募があった。		1
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテスト受賞作品巡回展	H20.12.22～H21.6.26(巡回展)	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌支庁	留萌管内9市町村において、フォトコンテスト受賞作品の巡回展を行い、場所の提供及び作品展示の協力を得た。		1
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ヒラメ産建網オーナープロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)	6月24日	留萌開発建設部 遠別町 留萌支庁	イベント運営協力や地元調整およびイベント会場で萌える天北オロロンルートのパネル展の実施を行った。	地域ブランド構築のため、継続に向けた行政としての支援体制の検討が必要。	★6
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	萌天の森プロジェクト	9月24日	留萌開発建設部	「萌天の森」において、荒地地の景観向上とドライブ観光で排出されるCO2を吸収するカーボンオフセットの取組も兼ね合わせた植栽を実施。また、昨年度植栽箇所の下草刈りも行った。	行政も協力し継続した維持管理体制の検討が必要。	7
	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	7月29日	留萌開発建設部 小平町	国道沿道の自生しているエゾカンゾウの種子採取を実施。今年度は昨年プランターへ植えた種の発芽が非常に悪く、植栽活動は出来なかった。	地域で今後も継続して実施出来るように協力していく。	2
情報提供活動	ルート活動の情報共有	行政連絡会議情報の配布	通年	行政連絡会議全構成機関	行政連絡会議事務局より、行政連絡会議全構成機関へ「萌え天」や行政の活動状況を情報共有するため、情報誌を作成し配布した。	概ね2月毎の配布であったが、分り易く効果的な内容で、今後も継続して作成していく。	8
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	道路情報板での「萌える天北オロロンルート」表示	5月～10月	留萌開発建設部	指定ルートとなったことにより、シーニックバイウェイ「萌える天北オロロンルート」を地元や観光客などに認知していただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の国道情報板に「萌える天北オロロンルート」の表示を実施。	シーニックバイウェイ及び萌える天北オロロンルートの認知度向上のために、今後も継続的に実施する。	8
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	広報誌でのルート活動の広報	通年	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	管内各自治体で発行される広報誌に萌える天北オロロンルートの活動状況や活動予定などの情報を毎月掲載。		8
	国道情報板を活用したルート活動の広報	道路情報板でのルート活動の広報	8月23日～8月24日	留萌開発建設部	吉前町～小平町間の国道を走行する「親子自転車ツーリング」のルート活動において、ドライバーへの注意喚起を促す目的で、道路情報板にイベント開催の情報を掲示した。		★10
	ルート情報の提供と創出	萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	萌える天北オロロンルートの広報の為、各行政機関のホームページに萌える天北オロロンルートHPのリンクを掲載した。		8
	ルート情報の提供と創出	「るもいYan.net」のリンク及び「るもいYan通信」の掲示	通年	留萌市・増毛町・小平町・吉前町・羽幌町・初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	地域情報受発信システム実行委員会で作成している「るもいYan.net」を各行政機関ホームページにリンクを掲載。また、フリーペーパー「るもいYan通信」を各関係機関庁舎内に掲示した。		8

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:萌える天北オロロンルート	報告者:代表 西 大志	報告年月:2009/3/31
--------------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。 ・住民や事業者の方々の巻き込み盛り上げる取り組みの強化 ・多様な世代の方々の意識を高めることを期待する	ルート内において、情報の集約、受発信のあり方としてこれまで、個々各々が行ってきたこと、できなかったことを『情報受発信システム実行委員会』が主体となり、老若男女100名を超える情報員でルートの9市町村の情報を共有し得たことは、連携の形として示せる大きな活動である。 また、こうした活動を基に、地元の製品の特性や特色を活かすべくプロジェクトとして『ヒラメ底建て網オーナー制度』プロジェクトを発足、全道はもとより、全国に大きなPRとルート内の食材の品質の高さに対する知名度をあげることに繋がった。 その品質の高い地元食材を育てるためにも、北海道西海岸の魅力ある景観づくりと、環境保全に大きく寄与した、留萌管内商工会青年部連合会が主体となり、海岸清掃時に発生する沢山の流木を活用し、炭を精製し天塩川の浄化のため活動したことも新たな取り組みとして挙げられる。『萌天の森』プロジェクトも、シーニックの森の発足もあり、今年度もユニークな植樹が行われているところでもある。 新たな取り組みとしては、他にも苫前町で2つのプロジェクトが立ち上がり、歴史と文化を訪れる人に対して伝えるために、どのような設え方があるのか探り、その設えに地元の商店や一次産業従事者がどうかかわるか考えた『寄り道しようよ！ 覇道！！』プロジェクト、訪れる方が通るこのルートを地元の子ども達が、自転車でツーリングし、景観や道について考えた『自転車ツーリング』プロジェクトなど、新たな取り組みがあった。 いずれにしても、財源をどう捻出するかという課題にあっては、それぞれのプロジェクト、活動する団体個人が、実情に即した中で、自己財源の捻出と、官民一体となって取組む中で、相互の協力があることが、望ましい形となっている。今後も引き続き、持続的な運営になるようなあり方を追及していくことの課題がある。	

ルート名称:萌える天北オロロンルート	報告者:留萌開発建設部	報告年月:2009/3/31
--------------------	-------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。	「萌える天北オロロンルート」ルート運営行政連絡会議では、構成機関による活動団体支援に関する現状や課題についてアンケートや意見交換会を実施するとともに、全構成団体へ「行政連絡会議情報」によるルート活動や行政の支援状況をメールリストを通して配信し、ルート活動への親しみと理解を深めた。また、理解を深めることにより人材育成にも繋がりが、今後も継続した情報発信と情報共有を行っていく。 今後は、財政支援が難しい状況の下、ルート活動への更なる支援・協力体制づくりをしていくか検討していく。	

平成 20 年度ルート運営活動報告に対する助言について（案）

〔平成 20 年度の報告〕

シーニックバイウェイ北海道実施要綱（第二十条 第一項及び第三項）に基づき、平成 20 年度 3 月 31 日に第 1～4 次指定の「支笏洞爺ニセコルート」「大雪・富良野ルート」「東オホーツクシーニックバイウェイ」「宗谷シーニックバイウェイ」「函館・大沼・噴火湾ルート」「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」「萌える天北オロロンルート」の 7 ルートよりルート運営状況が報告された。

〔報告への対応〕

推進協議会は、シーニックバイウェイ北海道実施要綱（第二十条 第四項）において必要に応じ「ルート運営の改善」に関する助言を行うことができることとされている。

推進協議会は、シーニックバイウェイ北海道実施要綱（第二十条 第五項）において助言を行うときには、あらかじめルート審査委員会の意見を聴くこととなっている。

【ルート審査委員会からの意見】

各ルート活動報告に対しては、特段の意見はなし。

ただし、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十一条第四項に基づき、シーニックバイウェイ北海道の推進に関する意見として、下記が提出されている。

シーニックバイウェイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、改善の仕組みの強化、人材育成の充実に努めるとともに、あわせて、ルート活動の基盤や支援体制を強化することに取り組まれたい。

推進協議会から

ルート運営代表者会議及びルート運営行政連絡会議への助言（案）

シーニックバイウェイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の強化に努められたい。